生活科学科食物栄養専攻

【教養科目】

（人文）
文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3

（社会）
日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
キャリアデザイン …… 5

（自然）
数学の世界 …… 5
物理の世界 …… 6
化学の世界 …… 7
食生活と健康 …… 7

（総合）
平和論 …… 8
環境問題 …… 8
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 9
社会活動 …… 10
企業研修 …… 10

（外国語科目）
英語Ⅰ（B）…… 13
英語Ⅰ（B）…… 13
英語Ⅱ（B）…… 18
英語Ⅱ（B）…… 18
英語Ⅲ（A）…… 21
英語Ⅲ（B）…… 21
英語Ⅲ（C）…… 22
英語Ⅳ（A）…… 25
英語Ⅳ（B）…… 25
英語Ⅳ（F）…… 27
英語Ⅳ（G）…… 28
異文化コミュニケーション（英語）…… 29
異文化コミュニケーション（中国語）…… 29
フランス語Ⅰ …… 31
フランス語Ⅱ …… 31
中国語Ⅰ（F）…… 34
中国語Ⅰ（H）…… 35
中国語Ⅱ（F）…… 38
中国語Ⅱ（H）…… 39

（スポーツ・健康科目）
生涯スポーツ実習Ⅰ（C）…… 42
生涯スポーツ実習Ⅱ（C）…… 43

（情報科目）
情報リテラシーⅠ（C）…… 46
情報リテラシーⅡ（C）…… 49

【専門科目】

（学科共通科目群）
生活科学概論 …… 108
生活経営学 …… 108
社会福祉論 …… 109

（基礎科目）
〈食物に関する科目〉
食品学Ⅰ …… 110
食品学Ⅱ …… 110
食品学実験 …… 111
食品衛生学 …… 111
食品衛生学実験 …… 112
食品加工学 …… 112
調理学 …… 113
調理学実習Ⅰ …… 113
調理学実習Ⅱ …… 114
調理学実習Ⅲ …… 114

〈消化・吸収・代謝に関する科目〉
栄養学総論 …… 115
栄養学各論 …… 115～116
栄養学実習 …… 116
解剖生理学 …… 117
解剖生理学実験 …… 117
生化学Ⅰ …… 118
生化学Ⅱ …… 118
生化学実験 …… 119

〈健康と運動に関する科目〉
健康と運動 …… 119
健康管理概論 …… 120
公衆衛生学 …… 120
運動生理学 …… 121

（応用科目）
〈給食の管理に関する科目〉
給食管理 …… 121
給食管理実習Ⅰ …… 122
給食管理実習Ⅱ …… 122
給食管理実習Ⅲ …… 123

〈栄養の指導〉
栄養教育論 …… 123
栄養指導論 …… 124
栄養指導論実習Ⅰ …… 125
栄養指導論実習Ⅱ …… 125
公衆栄養学 …… 126
栄養情報処理 …… 126

〈臨床関連科目〉
臨床栄養学Ⅰ …… 127
臨床栄養学Ⅱ …… 127
臨床栄養学実習 …… 128
病理学 …… 128

〈栄養教諭関連科目〉
学校栄養教育論 …… 129

〈その他〉
有機化学概論 …… 130
生物概論 …… 130

【教職に関する科目】
教職入門 …… 227
教育原理 …… 227
教育心理学 …… 228
教育行政学概論 …… 228
教育課程論 …… 229
道徳教育論 …… 231
特別活動論 …… 232
教育方法学概論 …… 233
教育相談 …… 233
生徒指導原論 …… 234
教職実践演習 …… 236
栄養教育実習 …… 238
栄養教育実習の事前事後の指導 …… 238

生活科学科生活科学専攻

【教養科目】

（人文）
文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3
（社会）
日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
キャリアデザイン …… 5
（自然）
数学の世界 …… 5
物理の世界 …… 6
食生活と健康 …… 7
（総合）
平和論 …… 8
環境問題 …… 8
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 9
社会活動 …… 10
企業研修 …… 10
（外国語科目）
英語Ⅰ（A）…… 11～12
英語Ⅰ（A）…… 11～12
英語Ⅰ（A）…… 11～12
英語Ⅰ（A）…… 11～12
英語Ⅱ（A）…… 16～17
英語Ⅱ（A）…… 16～17
英語Ⅱ（A）…… 16～17
英語Ⅱ（A）…… 16～17
英語Ⅲ（A）…… 21
英語Ⅲ（B）…… 21
英語Ⅲ（C）…… 22
英語Ⅳ（A）…… 25
英語Ⅳ（B）…… 25
英語Ⅳ（F）…… 27
英語Ⅳ（G）…… 28
異文化コミュニケーション（英語）…… 29
異文化コミュニケーション（中国語）…… 29
フランス語Ⅰ …… 31
フランス語Ⅱ …… 31
中国語Ⅰ（G）…… 35
中国語Ⅰ（H）…… 35
中国語Ⅱ（G）…… 39
中国語Ⅱ（H）…… 39
（スポーツ・健康科目）
スポーツ・健康論 …… 41
生涯スポーツ実習Ⅰ（D）…… 42
生涯スポーツ実習Ⅱ（D）…… 43
（情報科目）
情報リテラシーⅠ（D）…… 46
情報リテラシーⅡ（D）…… 49

【専門科目】

（学科共通科目群）
生活科学概論 …… 108
生活経営学 …… 108
社会福祉論 …… 109
（衣生活学科目群）
衣生活学 …… 131
衣造形論 …… 131
繊維と染織 …… 132
衣生活学実習 …… 132
衣造形実習Ⅰ …… 133
衣造形実習Ⅱ …… 133
衣造形実習Ⅲ …… 134
（住生活学科目群）
住生活学 …… 134
住居史 …… 135
住居・インテリア設計学 …… 135
設計製図Ⅰ …… 136
設計製図Ⅱ …… 136
住居構造学Ⅰ …… 137
住居構造学Ⅱ …… 137
住居環境学 …… 138
住居環境学演習 …… 138
建築材料学 …… 139
建築生産 …… 139
建築法規 …… 140
（生活化学科目群）
生活化学 …… 140
生活コロイド学 …… 141
生活化学実験 …… 141
（生活デザイン科目群）
生活デザイン学 …… 142
色彩学 …… 142
生活造形史 …… 143
デザイン実習Ⅰ …… 143
デザイン実習Ⅱ …… 144
（関連科目群）
ＣＡＤ設計 …… 144
食物と栄養 …… 145
調理実習Ⅰ …… 145
調理実習Ⅱ …… 146
生活文化 …… 146
環境生物学 …… 147
地球環境論 …… 147
保育学 …… 148
（卒業研究）
卒業研究 …… 148～150

【教職に関する科目】

教職入門 …… 227
教育原理 …… 227
教育心理学 …… 228
教育行政学概論 …… 228
教育課程論 …… 229
家庭科教育法 …… 230
道徳教育の研究 …… 231
特別活動の研究 …… 232
教育方法学概論 …… 233
教育相談 …… 233
生徒指導論 …… 234
教職実践演習 …… 235
教育実習 …… 237

1　教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	**文学の世界**	担当者	木戸　裕子・轟　義昭・岩本　晃代・土肥　克己・中谷　彩一郎
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】旅と文学 【概　要】日頃本をあまり読まないので，「文学」なんて自分の生活とは無関係だと思っていませんか。また，「文学」には興味はあるけれど，なんだか難しそうだと思っていませんか。そのような皆さんに少しでも「文学」に親しんでもらおうと，担当教員５名は，「旅と文学」をキーワードにして，日本，イギリス，中国，ギリシア，ローマの文学作品を読み解きます。 【到達目標】日本，イギリス，中国，ギリシア，ローマの文学作品を読み解き，「文学」に親しみをもってもらう。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）なし。適宜，プリントを配布します。 （2）各教員が必要に応じて教室で指示します。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション，　旅の苦しみ，旅の楽しみ：『万葉集』の中の旅 第 2回　一人旅，二人旅，家族の旅：『源氏物語』『更級日記』『赤染衛門集』 第 3回　お江戸の旅，薩摩の旅：『垂邑詩集（すいゆうししゅう）』 第 4回　旅にまつわる中世イギリス文学作品：『カンタベリー物語』と『マンデヴィル旅行記』 第 5回　旅にまつわる 18～19 世紀イギリス文学作品：『ガリバー旅行記』と『タイムマシン』 第 6回　旅にまつわる詩1：西脇順三郎の詩 第 7回　旅にまつわる詩2：丸山薫の詩 第 8回　旅にまつわる詩3：新川和江の詩 第 9回　中国文学における「旅と文学」⑴ 第10回　中国文学における「旅と文学」⑵ 第11回　中国文学における「旅と文学」⑶ 第12回　放浪するギリシア・ローマの英雄たち：『オデュッセイア』と『アエネイス』 第13回　放浪する地中海世界の恋人たち：古代ギリシア恋愛小説の世界 第14回　ピカレスク小説・空想旅行譚の先駆け：『サテュリカ』，『黄金の驢馬』，『本当の話』 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	レポートの提出（75 点）および講義に関する毎回の感想・意見等（25 点）で評価します。レポートは５名が課したものから３つを選ぶかたちになります。		

(注) 文学科を除く
(注) 受講登録が 100 人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**日本の歴史**	担当者	下原　美保
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】日本の文化　−特に美術−について，トピックスごとに紹介する。 【概　要】日本美術の特徴について，Ⅰ　絵画（物語絵と絵巻・仏画・詩画軸と水墨画・狩野派・土佐派・浮世絵）・Ⅱ　仏像（仏様の世界・藤原時代までの仏像・鎌倉時代の仏像）・Ⅲ　暮らしと美術（茶の湯と美術・薩摩焼き）の３点から紹介する。講義では，教科書とともにスライドやビデオなどを用い，具体的な作品鑑賞を行う。この際，作品の見方や考え方についても解説を行う。 【到達目標】日本文化−絵画・彫刻（仏像）・工芸−の特徴及び鑑賞のポイントを理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴　『すぐわかる日本の美術』（田中日佐夫監修　東京美術　平成 11 年） ⑵　『日本美術のことば案内』（日高薫　小学館　2003 年） 『日本のやきもの　薩摩』（渡辺芳郎　淡交社　2003 年） 『新潮世界美術辞典』（新潮社　昭和 60 年１月）		
授業スケジュール	■ 授業スケジュール 第１回 ：オリエンテーリング 第２回 ～第９回 ：Ⅰ　絵画について １）物語絵と絵巻　２）仏画　３）詩画軸と水墨画 ４）狩野派土佐派　５）浮世絵 第 10 回～第 12 回 ：Ⅱ　仏像について １）仏様の世界　２）藤原時代までの仏像 ３）鎌倉時代の仏像 第 13 回～第 14 回 ：Ⅲ　暮らしと美術 １）茶の湯と美術　２）薩摩焼 第 15 回 ：まとめ		
成績評価の方法	講義ごとの感想文（４０％）及びレポート（６０％）		

(注) 受講登録が 100 人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**こころの科学**	担当者	石川　満佐育
	〔履修年次〕１，２年いずれも履修可　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】「科学としての心理学」について，学生の自己理解，他者理解に役立つような知識，研究例を紹介するとともに，その研究方法を学ぶ。 【概　要】 心理学領域のうち，社会心理学，カウンセリング心理学，青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。また，心理学的研究の理解を深めるために，実際に質問紙調査，実験等を体験してもらう実習も取り入れる。 【到達目標】 ① 心理学という学問領域の多様性について理解し，心理学的なものの見方・考え方を養うことを目標とする。 ② 自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴ 毎時プリントによる資料を配布します。 ⑵ 参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第１回　オリエンテーション：心理学とは？ 第２回　心理学の基礎知識 第３回　心理学の対象と研究方法 第４回　社会心理学①：自己開示と自己呈示 第５回　社会心理学②：対人認知 第６回　社会心理学③：集団の影響 第７回　社会心理学④：人とのつき合い方 第８回　カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？ 第９回　カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリング 第10回　カウンセリング心理学③：ストレスへの対処 第11回　カウンセリング心理学④：支援が必要な人たち 第12回　青年心理学①：青年期の特徴 第13回　青年心理学②：青年期の対人関係 第14回　青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分 第15回　まとめと 試験		
成績評価の方法	感想・質問などのミニレポート提出：40%，試験あるいはレポートで評価：60%		

(注) 受講希望数が上限を超える場合は，履修年次を考慮した上で受講制限を行う場合がある。

授業科目	**芸術論**	担当者	丸山　容爾
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】普段，鑑賞することの少ない芸術作品に触れ，芸術を味わう楽しさを経験する。 【概　要】映像表現された作品を中心に，一般的に馴染み深い作品（デザインのジャンルも含めて）を引用し，様々な視点からその芸術性を探っていく。 【到達目標】何気なく眺めていた芸術作品の美しさを再認識し，モノを観る真の目を養う。		
（1） テキスト （2） 参考文献	（1）プリント配布。テキストは使用しない。 （2）参考文献は，講義中に適時示す。講義中，PowerPoint・DVD を活用する。		
授業スケジュール	第 1回　「導入」　講義方式の説明と資料配布 第 2回　「日本の伝統芸能・歌舞伎　立役」　歌舞伎の魅力と小道具 第 3回　「日本の伝統芸能・歌舞伎　女形」 第 4回　「ショートフィルム」　世界のショートフィルム 第 5回　「錯視」　古典的錯視作品，身の周りの錯視・だまし絵 第 6回　「舞妓」　京都舞妓の衣装・髪型・小物・芸・歴史 第 7回　「アール・ヌーヴォーとアール・デコ」　その流行と時代背景 第 8回　「世界のコマーシャル・フィルム」　世界各国のコマーシャルの比較 第 9回　「造形作家の制作風景」　創造する喜びと生みの苦しみ 第10回　「日本の伝統芸能・落語」　落語の小道具，歴史 第11回　「日本の伝統芸能・人形浄瑠璃」　太夫・三味線・人形遣いの役割 第12回　「美術館見学」　講義期間中の美術展を鑑賞・見学する 第13回　「チャールズ・チャップリン　1」 第14回　「チャールズ・チャップリン　2」 第15回　「まとめと試験，あるいはレポート」		
成績評価の方法	出席と授業態度（30%），試験あるいはレポート（70%）で評価。		

(注) 受講登録が 100 人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**かごしまカレッジ教育**	担当者	望月　正道
	〔履修年次〕１年　　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　　〔必修／選択〕選択（注）　　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】レポートと話し合いのための日本語力（書く力・話す力）を養成する 【概　要】「書く力」では，レポートの構成要素と表現を知り，データ・資料・情報に基づいた論証型のレポートを作成する力を養成する。「話す力」では，少人数グループによる話し合いで相手の立場や意見を尊重しながら自分の意見を述べる力を養う。 【到達目標】⑴「話し手」・「聞き手」としてふさわしい態度や話し方・聞き方を学び，実際の話し合いの場で実践できる。⑵グループの話し合いの結果を，簡潔にわかりやすく授業の中で発表できる。⑶レポートの構成要素を理解し，組み立てにそって論理的なレポートが書ける。⑷レポートの構成要素として使われる様々な表現を理解し，レポートの中で使うことができる。⑸事実と意見を区別し，データや資料・情報に基づいた論証型のレポートが書ける。		
（１）テキスト （２）参考文献	⑴ 未定 ⑵ 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　話し合いに対する心構え 第 3回　レポートとは何か 第 4回　レポートの資料について 第 5回　事実と意見について 第 6回　情報カードの書き方，引用の書き方 第 7回　書誌情報の書き方 第 8回　文型・文体について 第 9回　図表の読み方と説明の仕方 第10回　アウトラインの作り方 第11回　メモ付きアウトラインの作り方 第12回　パラグラフの書き方 第13回　レポート第１回提出 第14回　レポート第２階提出 第15回　レポート最終チェック		
成績評価の方法	⑴グループ活動の報告についての成績30%，⑵レポート作成の途中で提出した課題についての成績30%，⑶最終レポートの成績40%で総合評価する。		

(注) 受講者数は，20名を上限とします。
受講希望者が多い場合は抽選となりますが，「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	**日本国憲法**	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　　〔必修／選択〕選択（注）　　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権，基本的人権の尊重，平和主義を体系的に理解した上で，日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。 【概　要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに，基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年，その価値が問い直されている一方，新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では，国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権，平和に崇高な価値をおき，その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義，個人の尊厳の原理に基づき，個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として，人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。 【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し，政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。		
（１）テキスト （２）参考文献	（１）小栗実編『新検証・日本国憲法』法律文化社　2007年 適宜，プリントを配布する。 （２）『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年		
授業スケジュール	第1回：憲法概論　・国民主権，基本的人権の尊重，平和主義，権力分立主義の理念について 第2回：基本権総論　・私人間の人権保障，基本権の享有主体性，二重の基準の理論について 第3回：包括的権利　・幸福追求権，プライバシーの権利，法の下の平等について 第4回：精神的自由権⑴　・思想・良心の自由，信教の自由，政教分離の原則について 第5回：精神的自由権⑵　・表現の自由，検閲の禁止，知る権利，学問の自由，教育の自由について 第6回：経済的自由権　・職業選択の自由，居住・移転の自由，国籍離脱の自由，財産権について 第7回：受益権　・裁判を受ける権利，請願権，国家賠償請求権，刑事補償請求権について 第8回：社会権⑴　・生存権，環境権，教育を受ける権利について 第9回：社会権⑵　・勤労権，労働基本権，団結権，団体交渉権，争議権について 第10回：国会⑴　・国権の最高機関，唯一の立法機関，衆議院の優越について 第11回：国会⑵　・国会議員の地位，議員の特権，国会の活動，国会と議院の権能について 第12回：内閣　・内閣の地位，内閣総理大臣の権限，国務大臣の権限，内閣の責任について 第13回：裁判所　・最高裁判所の権限，統治行為論，違憲審査制について 第14回：財政　・財政民主主義，租税法律主義，国費支出議決主義，予算について 第15回：まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言の記録（10%）を基準に，総合的に評価する。		

(注) 教職必修
(注) 受講登録が100人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**法学概論**	担当者	疋田　京子
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】人を裁くという権威を盾に近寄り難いイメージのある「法」を，その起源から探り，昔話や映画，文学などを通して身近なところに存在する「法的なもの」に触れる。 【概　要】民事訴訟と刑事訴訟の構造の違いを知り，市民が参加する裁判員裁判という場が「裁き」の場であることをまず示す。その上で，なぜ法が発生したのか，その起源を探り，文学や映画をとおして，あらゆる所に法的なものがあること，私たちの思考に刷り込まれている法の概念を拾い出してみる。 【到達目標】様々な角度から「法的なもの」に触れることによって「法的思考」を磨き，日常生活の中によくある事例を，法的な思考で判断できることを目指す。		
（1）テキスト （2）参考文献	特に定めない。		
授業スケジュール	第1回～5回　「裁判」の構造 第 1回　法とは何か 第 2回　民事訴訟 第 3回　刑事訴訟 第 4回　裁判員制度（1） 第 5回　裁判員制度（2） 第6回～14回　リーガルマインドを磨く 第 6回　「裁く」とはどういうことか：刑事司法と民事司法の関係 第 7回　刑罰は何のためにあるのか：犯罪認定のプロセス 第 8回　刑罰の起源：復讐から儀式，儀式から刑罰へ 第 9回　法の起源：法はどこから来て，どこに行くのか 第10回　法の正体と法文化，法文化と国民性 第11回　権利と義務の関係：誰かのものである（所有）ということの意味 第12回　契約の自由と信義則 第13回　法の解釈と屁理屈の違い：シェークスピア『ヴェニスの商人』を題材に 第14回　解釈の原則：「リーガルマインド（Legal Maind）」（法的思考）というもの 第15回　予備日		
成績評価の方法	講義中に書いてもらうレポート40点 ＋ 最後のレポート60点		

（注）受講登録が100人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**社会学**	担当者	斉藤　悦則
	〔履修年次〕全学年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 社会学の基本概念を学ぶ 【概　要】 社会学の諸概念を道具として，身の回りの諸現実を新たな視点で見つめ直してみる。 そうすると，いままで当たり前のことのように見えていたものが，意外に「変なこと」「怪しいこと」のように見えてくる。 【到達目標】 常識に囚われて，硬直していた発想が，社会学を学べば柔軟になる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）なし （2）特になし		
授業スケジュール	第 1回　社会学のおもしろさ……潜在機能 第 2回　不良になろう……ラベリング 第 3回　まなざしの地獄……一般化された他者 第 4回　情報に踊らされる……予言の自己成就 第 5回　格差のメカニズム……準拠集団 第 6回　空気を読めってか？……他者志向 第 7回　血液型とか信じる？……自由からの逃走 第 8回　愛のジレンマ……社会的交換理論 第 9回　わかりやすさの罠……疑似環境 第10回　オーラが消える……複製技術革命 第11回　コミュニティへの回帰……ゲマインシャフト 第12回　学校に行くとバカになる……制度化 第13回　セクシーとは何か……粋の構造 第14回　事なかれ主義……官僚制 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文（100%）		

（注）受講登録が100人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**キャリアデザイン**	担当者	担当教員
	〔履修年次〕１年　〔学期〕通年 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義方式及びワークショップ		
テーマ及び概要	【テーマ】１年生を対象に，卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること 【概　要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中，本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが，自分の興味だけで考えている場合，キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味のなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し，社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。 短期的な就職活動だけのためではなく，社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。 ※1 年生は原則として全員受講すること。 【到達目標】本講義を通じて，県短生をとりまく就業環境，社会の中で働くことの意味，就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。		
授業スケジュール	〔講師陣は平成 22 年度実績〕 ・第１期（７月 23 日）　社会人になる（就職する）ことはなぜ必要なのか，県短を取り巻く就職状況はどうなのかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師：森脇丈子（生活科学科准教授），西村道子（株式会社 昴）川村美鈴（KTS 鹿児島テレビ） ・第２期（９月 27,28 日）地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き，働くことの意味，会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師：田原武志（(株)アシップ），石原美貴（石原興業(株) 石原荘） 前田幸一（(株)浜島印刷），丸田真悟（NPO 法人かごしまｱｰﾄﾈｯﾄﾜｰｸ） 小林陸夫（大学生協九州事業連合） ・第３期(12 月 24 日)　県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているＯＢ・ＯＧから話を聞き，進路イメージを具体化させる。 講師：北川隆巳（京セラ(株)），秋葉重登（鹿児島相互信用金庫） 宇都泰礼（(株)健康家族），原田忍（（株）ｴﾑ･ﾃﾞｨ･ｴｽ）　本学卒業生８人（中学校教員，栄養士など） ・第４期（２月１日）　いよいよ実際の就職活動を目前に控えて，労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに，具体的な就職準備作業を行う。 講師：疋田京子（商経学科准教授），学生部学生課職員 ※23 年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。		
成績評価の方法	レポート２回（100%）		

授業科目	**数学の世界**	担当者	寛山　榮助
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】数学の世界を理解するための根拠について 【概　要】数学は言うまでもなく高度に抽象化された理論体系の学問です。われわれは物事の奥に潜んでいる数理的構造の本質を見据え解析し，推論する思考過程を身につける能力を培い育んでいくことです。一方，数学を学ぶ過程で修得される種々の概念やそれらを表現し駆使する手段として修練される数式取り扱いの手法や技能は諸科学の研究のみならず人間活動のいろいろな場に応用されています。数学は，知的で文化的な面と技術的で実用的な面を併せ持っていて概念的に論述する場合は前者に力点をおくことが望ましい。すなわち『数学とはなにか』，『何のために数学を学ぶか』等に興味・関心をよせ自問自答しながら講義に臨んで欲しい。 【到達目標】１　教科としての数学と学問としての数学について理解を深める。 ２　人格形成ならびに社会生活に役立つ数学的ものの見方・考え方を養う。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）量的なことを考慮して，特に定めない （2）興味，関心，意欲養成に適宜提示する		
授業スケジュール	第１回　第１章　数学という学問　１　数学の要請：数学的帰納法 第２回　・デカルトの発見的方法 第３回　２　数学の関数的表現　・近似多項式の微分表現 第４回　・マクローリンの定理とテーラー展開の魅力 第５回　３　数学の源と数「０」の発見　・整数の素数分解の一意性 第６回　・完全数　・友愛数　・婚約数の定義とその発見 第７回　４　三平方の定理の古典数学としての魅力　・ピタゴラス数の折り紙表現 第８回　５　フェルマーの定理と現代数学 第９回　第２章　経済や社会の動向を探る現代数学　１　行列と次元　・ケーキ作り 第10回　２　クラーメルの定理　・三元連立一次方程式 第11回　３　経営や生産性の効率性　１　マルコフの推移行列 第12回　２　推移行列とマーケット・シェア 第13回　第３章　現代数学をどう理解するか　１　数学の論証性 第14回　２　ロバチェフスキーの『平行線論』と数学の世界 第15回　「まとめと試験」（定期考査，自分で考える「数学の世界」について小論）		★履修状況調査と感想文 ★試験と小論
成績評価の方法	定期試験 60%，興味・関心・態度，感想文 40%で評価する。		

（注）受講登録が 100 人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**物理の世界**	担当者	藤井　伸平
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め，それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。 【概　要】　普段，私たちは歩くという動作について考える（意識する）ことはありませんが，凍った道路は滑ってとても歩きにくいことに気づきます。このときあらためて靴と路面の間の摩擦が歩くという動作に重要な役割を果たしていることに気づきます。このように，いくつかの題材について考えていくつもりです。また，２，３の実験も行う予定です。 【到達目標】　物理学を身近に感じる		
(1)　テキスト (2)　参考文献	(1)　なし（適宜プリントを配布） (2)　藤城敏幸著「生活の中の物理」東京教学社。　そのほか，適宜授業中に紹介。		
授業スケジュール	第 1回　無量大数と科学的記法 第 2回　地球を持ち上げる 第 3回　動いている地球 第 4回　万物は引き合う 第 5回　ロケットはなぜ飛ぶ 第 6回　ヨットのはなし 第 7回　質量はエネルギー 第 8回　水の特異な性質 第 9回　焚き火 第10回　絶対零度 第11回　宇宙は膨張している 第12回　近視，遠視，老眼 第13回　光の三原色と色の三原色 第14回　ダイヤモンドとファイバースコープ 第15回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（100%）		

(注) 受講登録が 100 人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**生物の科学**	担当者	塚原　潤三
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】脊椎動物の進化とヒトのなりたち 【概　要】本講義では，ヒトのなりたちを理解するために，脊椎動物の進化の流れを概観し，次いで霊長類のグループの進化を取り上げ，その中でヒトがどのように進化し，ヒトとしての特性を獲得してきたかについて，生物学の側面から解説する。 【到達目標】脊椎動物の進化の流れを理解し，その中でヒトがどのように形成されてきたかを理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）無し（あらかじめプリント集を配布する） （2）『ヒトの進化・・・・新しい考え』ロジャー・レウイン著　岩波書店 『脊椎動物の進化』E.H. コルバート&M. モラレス著　築地書館		
授業スケジュール	第１回　地球史概観　：　気候変動や大陸移動 第２回　地質年代の測定　：　相対的年代測定と絶対的年代測定 第３回　進化の不思議な大爆発　：　カンブリア紀における脊椎動物の出現 第４回　脊椎動物の特徴と概観　：　脊髄神経系の発達 第５回　魚類の進化　：　水中動物の発達 第６回　両生類の進化　：　陸上生活への移行過程 第７回　は虫類の進化　：　完全な陸上生活の獲得と環境への適応 第８回　ほ乳類の進化　：　子育ての革新的進化 第９回　霊長類の進化　：　サル類の共通的特性とヒトへのつながり 第10回　ヒト進化の研究の歴史　：　ヒト化石との出会い 第11回　２足歩行化に伴う身体変化（1）　：　下半身の構造と機能の進化 第12回　２足歩行化に伴う身体変化（2）　：　上半身の構造と機能の進化 第13回　脳の進化と言語の発達　：　大脳の発達と機能分化 第14回　情報伝達と社会形成　：　ヒトはなぜ群れをつくるのか 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（８０%）と小論文（２０%）		

(注) 生活科学科を除く。
(注) 受講登録が 100 人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**化学の世界**	担当者	井余田　秀美・木下　朋美
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】身近なものや現象を通して，私たちの生活の中で，化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。 【概　要】物質の科学である化学は，自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により，私たちの暮らしを豊かにしている。一方で，化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており，化学を学ぶことは，身の回りの物質についての知識を得，理解を深めるだけでなく，私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりの視点から，身の回りの物質や現象，生活に潤いをもたらす茶や香りについて，講義を行う。 【到達目標】化学的視点から，課題を探求し，解決していくための基本的な能力を培う。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）プリント （2）日本茶インストラクター協会編，『日本茶のすべてがわかる本』，農文協 財団法人　日本ホテル教育センター編，『世界・お茶の基本』，プラザ出版		
授業スケジュール	**1　身近な物質**（井余田） 第１回　自然の恩恵 第２回　化学の基礎 第３回　生活と化学 **2　身近な現象**（井余田） 第４回　物質の変化 第５回　光と色 第６回　エネルギーと環境 **3　茶と香りの化学**（木下） 第７回　茶に隠された化学を探る 第８回　様々な茶を生み出した歴史　茶製法の変遷 第９回　緑茶の違いを作り出す　製造方法と栽培方法（1） 第10回　緑茶の違いを作り出す　製造方法と栽培方法（2） 第11回　緑茶に付加価値をつける　流通と仕上げ加工（ブレンド・焙煎） 第12回　茶の味は淹れ方次第　溶出成分の特徴 第13回　茶の品質を見極める　官能検査と化学分析 第14回　味をも作り出す　香りの特性と役割 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	レポート		

(注) 生活科学科生活科学専攻を除く
(注) 受講登録が 100 人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**食生活と健康**	担当者	倉元　綾子・夛田　司・木下　朋美・有村　恵美
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。 【概　要】バランスの取れた栄養，運動や休養・睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日，健康や栄養についての情報はあふれるほど存在し，私たちの関心を喚起し，生活に大きな影響を与えている。しかし，それらのなかには十分に検証されないまま提供される有害なものも少なくない。本科目では，健康で，安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて，各種の活動を取り入れて，実践的に学ぶ。 【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1) プリント (2) 適宜紹介する		
授業スケジュール	第１回　健康な食生活：イントロダクション（倉元，多田，木下，有村）：健康とは何か？食生活が健康に及ぼす影響（有村） 第２回　健康な食生活：食品に含まれる栄養素（有村） 第３回　健康な食生活：食品の特性（木下） 第４回　健康な食生活：食の安全（木下） 第５回　私たちの食生活トピックス１：ワークショップ（倉元） 第６回　私たちの食生活トピックス２：ワークショップ（倉元） 第７回　私たちの食生活トピックス３：ワークショップ（倉元） 第８回　健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方１（多田） 第９回　健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方２（多田） 第10回　健康・栄養情報：ダイエット・サプリメント（有村） 第11回　健康な食生活：あなたの食生活チェック（有村） 第12回　健康な食生活：食事のバランス・食品選択の方法（有村） 第13回　健康な食生活：生活習慣病（有村） 第14回　健康な食生活：休養・睡眠・運動（有村） 第15回　まとめ：健康な食生活とは（有村）		
成績評価の方法	試験，レポート，授業ごとの小論文，発表内容によって総合的に評価する 各担当者の成績を集計して，荷重平均。		

(注) 受講登録が 100 人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**平和論**	担当者	福田　忠弘・森田　豊子・船津　潤・疋田　京子
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは，日本国内や国際社会で生起する諸問題について，平和論の視座からどのようにとらえることができるかについて考察することである。 【概　要】現在の世界では，国家間の戦争だけでなく，民族・宗教対立による紛争，貧困問題，人権問題，女性への暴力など，到底平和とは呼べない状態が続いている。日本国内においては，憲法改正，教育基本法の改正など，国家権力の強化が進行している。本年度の平和論は，世界の平和ならざる状況を理解することを目的とする。特に焦点をあてるのは，暴力の様々な形態，「他者」への理解（特にイスラーム社会），スリランカを事例にした国家建設の光と陰，様々な人権侵害についてである。 【到達目標】グローバル社会でおきている紛争，貧困問題，人権問題，女性への暴力などについての現状を認識し，その原因について説明できることを到達目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）使用しない。 （2）　講義中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第１回　平和論の方法：平和論という学問がどのようなものなのかを概説する（福田） 第２回　暴力の多様性（1）：暴力という概念について（福田） 第３回　暴力の多様性（2）：国際社会における紛争について視聴覚資料を使用（福田） 第４回　パレスチナ問題：パレスチナ問題の歴史と現状について（森田） 第５回　９・１１後の世界：イラクとアフガニスタンについて（森田） 第６回　イスラーム原理主義：イスラーム原理主義の成り立ちと現状について　（森田） 第７回　イスラームと女性：イスラーム原理主義における女性の権利をめぐる問題について　（森田） 第８回　世界におけるイスラーム教徒：欧州，米国，日本におけるイスラーム教徒の問題について　（森田） 第９回　民族紛争の構造：スリランカの事例について（船津） 第10回　平和への葛藤：スリランカの事例について（船津） 第11回　憲法９条の源流をさぐる：永久平和構想と非戦の制度化に向けて（疋田） 第12回　憲法９条の戦後史：憲法９条はどのように議論されてきたか（疋田） 第13回　平和と人権：暴力の連鎖を断つための様々な試み（疋田） 第14回　平和の多様性について：積極的平和という概念を中心に（福田） 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	レポートによって評価する（100%）。		

（注）受講登録が100人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**環境問題**	担当者	相場　慎一郎・井余田　秀美・野村　俊郎・曽宮　和夫
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】環境問題を様々な角度から考える 【概　要】環境問題を，森林（相場），化学(井余田)，自動車産業（野村），環境保護行政（曽宮）の四つの視点から考える 【到達目標】環境に関する複眼的思考を養う		
（1）テキスト （2）参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回　総論：環境問題の複眼的考察 第 2回　森林（1）：森林の役割 第 3回　森林（2）：森林と環境 第 4回　化学（1）：汚染物質１ 第 5回　化学（2）：汚染物質２ 第 6回　化学（3）：汚染物質３ 第 7回　化学（4）：汚染物質４ 第 8回　自動車（1）：ハイブリッド 第 9回　自動車（2）：EV 第10回　自動車（3）：LCV と ULCV 第11回　自動車（4）：発電と蓄電 第12回　環境保護行政（1）：総論 第13回　環境保護行政（2）：屋久島 第14回　環境保護行政（3）：奄美 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	４人の講師の25点満点×４		

（注）受講登録が100人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内１２大学の担当教員
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期集中 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【概　要】鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた，鹿児島を素材にした授業を持ち寄り，「グローカル」を考える文・理のバランスがとれたリベラルアーツ教育を行います。２泊３日の夏季集中授業で，講義とグループ学習（チューターの支援あり）を行います。さらに，夜間はディベートなどを取り入れ，学生間でよく話し合い，切磋琢磨しながら学習します。 なお，４，５００円程度の宿泊経費等が必要となります。 【学習目標】 ①講義で提示される鹿児島独自の文化，自然，社会，産業などのテーマについて，内容をよく理解し，自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 ②グループ学習により，テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い，グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ，それを適切に発表できる。 ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について，受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）未定 （2）未定		
授業スケジュール	平成２２年度実施概要（平成２３年度については未定。若干の変更の予定があります。） 日程　：　平成２２年８月２２日（日）～２４日（火） 場所　：　県立青少年研修センター 定員　：　県内１２大学等の学生　３００人		
成績評価の方法	講義ノート（レポート以外の部分） ３０％，グループ討論・発表内容（４０％），レポート（３０％）として評価を行い，それらを集計して最終評価とします。		

(注)「かごしまカレッジ教育」の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内１２大学の担当教員
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期集中 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【概　要】地場産業，農業，商業，文化，観光，環境，暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし，そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし，今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し，今後，地域を活性化していくための方策について考察し，若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。 この活動により，鹿児島の本質と問題点を理解し，国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローカルな素養」を身につけ，あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には，実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し，考察・討論・発表を通した理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに，発表後の意見交換を加味して本授業全体を通した総合的な成果を文書化することにより，日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。 なお，４，５００円程度の宿泊経費等が必要となります。 【学習目標】 ①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して，同地区の住民生活，商業活動，文化活動等の特徴を把握し，選択したテーマに関する独自の問題を地洋さする。 ②同地区等のさらなる活性化のために，今後どのような展望が望ましいか，どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え，グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。 ③実地調査，討論，発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。 テーマ別に編成されたグループにおいて，これらの３つの学習目標を達成する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）未定 （2）未定		
授業スケジュール	平成２２年度実施概要（平成２３年度は未定。若干の変更の予定があります。） 日程　：　平成２２年８月２５日（水）～２７日（金） 場所　：　県内８箇所のフィールド 定員　：　県内１２大学等の学生　３００人		
成績評価の方法	地域学習を通して指定地区等の独自性を調査・認識し，グループ討論・発表とレポート作成を行います。 実地調査等３０％（学習目標①），グループ討論・発表２０％と提案内容２０％（学習目標②），レポート３０％（学習目標③）として評価を行い，それらを集計して最終評価とします。		

(注)「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	**社会活動**	担当者	担当教員全員
	〔履修年次〕年次指定なし　〔学期〕通年 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】「社会活動」は，非営利組織を中心とした研修先において，実際の現場での体験を得ることにより，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概　要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて，社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。		
（1）テキスト （2）参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	事前指導：主に前期を中心に研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研修：　主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

授業科目	**企業研修**	担当者	担当教員全員
	〔履修年次〕１年　〔学期〕通年 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】この科目は，一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は，民間企業を中心に県庁，病院などの研修先において，現場で就業体験を行い，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概　要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて，社会人としての課題，企業運営，職務遂行に必要な知識・技術を理解し，働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。		
（1）テキスト （2）参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義，研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研修：　主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

２　教養科目（外国語科目）

授業科目	英語Ⅰ(A)	担当者	中谷　彩一郎
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】日常会話で使える英語表現を学ぶ。 【概　要】スヌーピーの漫画をきっかけにして，日常生活の様々な場面で使える英語のキーワードや表現を学ぶ。重要な文法事項についても適宜復習したい。 【到達目標】さまざまな状況での英会話練習を通して，リスニング力や発音力を向上させるとともに，文法知識を再確認する。		
（1）テキスト （2）参考文献	今泉志奈子&井上彰　*Let's Speak English with SNOOPY!*（英宝社，2004）		
授業スケジュール	第 1回　UNIT　1 第 2回　UNIT　2 第 3回　UNIT　3 第 4回　UNIT　4 第 5回　UNIT　5 第 6回　UNIT　6 第 7回　UNIT　7 第 8回　UNIT　8 第 9回　UNIT　9 第10回　UNIT 10 第11回　UNIT 11 第12回　UNIT 12 第13回　UNIT 13 第14回　UNIT 14 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度（30%），小テスト（30%），オーラル試験（40%）		

(注) 日本語日本文学専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅰ(A)	担当者	太田　一郎
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実 【概　要】(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練，および会話表現等の学習 ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ，英語の音声（プロソディ）に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。 (2)シャドーイング，音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで，英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材（または副教材）を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。 【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し，情報を伝えることができる。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1) NEW HEADWAY VIDEO（Elementary）John Murphy 著　（Oxford University Press） (2) 授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	第 1～2回　ガイダンスおよび練習法（シャドーイングなど）の解説 第 3～4回　A New Neighbour 第 5～6回　To the Rescue 第 7～8回　Dinner for Two 第 9～10回　Change of a Dress 第11～12回　A Long Weekend 第13回　復習 第14回　朗読試験 第15回　まとめと試験 【注意】LL 教室を使っての授業なので，遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	平常点 30%と試験 70% 。試験は朗読と筆記の二種類。		

(注) 日本語日本文学専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅰ（A）	担当者	塚崎　香織
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】初歩的な英文を読んで，英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに，テーマごとに関連する語彙を習得する。また，リスニングの練習も同時に行い，リーディングとリスニングを関連づける。 【概　要】必要な情報を探して素早く英文を読む，概要・要点を大まかに把握する，パラグラフの構造を理解する，わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。 【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して，初歩的な英文の内容を把握できる。 初歩的な英文を聞いて，内容が把握できる。 英語を読んだり聞いたりするのに必要な初歩的な語彙を身につける。		
（1）テキスト （2）参考文献	Neil J. Anderson & Kawamata Masayuki　/　*Elementary Skills for Reading*　（成美堂） 特になし		
授業スケジュール	第 1回　He's the Boss: Scanning の練習 第 2回　Working Holiday: Understanding Main Ideas の練習 第 3回　Doing Something Different: Recognizing Purpose の練習 第 4回　The Learning Center: Skimming の練習 第 5回　Sepak Takraw: Reading for Details の練習 第 6回　Are Sports Important?: Making Inferences の練習 第 7回　A Postcard from Hong Kong: Understanding the Order of Events の練習 第 8回　The Burj Al Arab Hotel: Scanning の練習 第 9回　Table Manners: Comparing and Contrasting の練習 第 10 回　Homestay Diary: Making Inferences の練習 第 11 回　Ask Emma: Skimming の練習 第 12 回　Peer Pressure: Making and Checking Predictions 第 13 回　A Real Life Superhero: Understanding the Order of Events の練習 第 14 回　The Tiffin Men: Scanning の練習 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（６０％）＋授業ごとに実施する小テスト・レポート等（４０％）」		

(注) 日本語日本文学専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅰ（A）	担当者	森　孝晴
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】リスニングとスピーキングの基礎力の養成 【概　要】実際に英語で話すことを楽しみ，笑える話を聞いて英語を聞き取る集中力を高めていく。 【到達目標】文法や発音に多少の誤りがあっても恥ずかしがらずに話せるようになり，英語を聞きとる基本的な姿勢を身につける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Masakazu Someya, Fred Ferrasci & Paul Murray　*Humorous Homestay Stories*　「リスニングで楽しむホームステイ体験記」南雲堂　１４００円＋税 (2)		
授業スケジュール	第 1回　授業の進め方について。リスニングとスピーキングのコツと注意点について 第 2回　テキスト Unit 1。グループでの英会話 第 3回　テキスト Unit 2。グループでの英会話 第 4回　テキスト Unit 3。グループでの英会話 第 5回　テキスト Unit 4。グループでの英会話 第 6回　テキスト Unit 5。グループでの英会話 第 7回　テキスト Unit 6。グループでの英会話 第 8回　テキスト Unit 7。グループでの英会話 第 9回　テキスト Unit 8。グループでの英会話 第 10 回　テキスト Unit 9。グループでの英会話 第 11 回　テキスト Unit 10。グループでの英会話 第 12 回　テキスト Unit 11。グループでの英会話 第 13 回　テキスト Unit 12。グループでの英会話 第 14 回　テキスト Unit 13。グループでの英会話 第 15 回　まとめと口頭試験		
成績評価の方法	口頭試験（９０％）＋ 授業への参加状況（１０％）		

(注) 日本語日本文学専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅰ(B)	担当者	久木田　美枝子
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　前半…鹿児島を英語で紹介 後半…オーストラリアの紹介を通して，基礎的英語運用能力を培う。 【概　要】　前半は，鹿児島の英文での紹介を基に，よりよい簡単な英語での紹介文を追加する。後半は，オーストラリアの文化，生活などを扱ったビデオ教材を基軸に，基礎的英語運用能力の養成を図る。テキストの中の基礎的文法事項に関しては，随時説明を行う。 【到達目標】鹿児島の英語での紹介，およびオーストラリアの文化紹介のテキストを中心に，バランスのとれた基礎的英語運用能力を培う。なおコミュニケーション力をつけるのに必要な基礎的文法力の再確認も行う。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）Kumiko T. Sato, Steve Lia, *Australia, Here We Come!* Asahi Press （2）随時プリント		
授業スケジュール	第 1 回　Introduction　(はじめに) 第 2 回　Street Life　(街の生活) 第 3 回　Public Transport──Commuting　(公共交通機関―通勤・通学) 第 4 回　University Life──The University of Sydney　(大学生活―シドニー大学) 第 5 回　Australian Home　(オーストラリアの家) 第 6 回　Supermarket──Coles　(スーパーマーケット―コールズ) 第 7 回　Daily Life　(日常生活) 第 8 回　Taronga Zoo──Australian Animals　(タロンガ動物園―オーストラリアの動物) 第 9 回　Leisure Time at the Park　(海辺でのレジャー) 第10回　Education Programs in Taronga Zoo　(タロンガ動物園体験プログラム) 第11回　Leisure Time at the Park　(公園でのレジャー) 第12回　Australian Family　(オーストラリアの家庭) 第13回　Discussion（ディスカッション） 第14回　Discussion（ディスカッション） 第15回　Examination　(定期試験)		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容（40%），レポート(60%)で評価する。		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅰ(B)	担当者	中谷　彩一郎
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】音読練習 【概　要】半ページくらいの長さのパッセージをできるだけ多く音読することで，表現力，速読・多読力，リスニング力を向上させ，文章構造が理解できるよう訓練する。本文に出て来た文法事項についても適宜解説したい。 【到達目標】やや長めの文章の構造を初見でも捉えて，スムーズに音読できるようになる。		
（1）テキスト （2）参考文献	多湖純佳，安田孝子，石橋和代　*Let's Read Aloud!*（南雲堂，2005）		
授業スケジュール	第 1回　Unit 1-1, 1-2, 2-1 第 2回　Unit 2-2, 3-1, 3-2 第 3回　Unit 4-1, 4-2, 5-1 第 4回　Unit 5-2, 6-1, 6-2 第 5回　Unit 7-1, 7-2, 8-1 第 6回　Unit 8-2, 9-1, 9-2 第 7回　Unit 10-1, 10-2, 11-1 第 8回　Unit 11-2, 12-1, 12-2 第 9回　Unit 13-1, 13-2, 14-1 第10回　Unit 14-2, 15-1, 15-2 第11回　Unit 16-1, 16-2, 17-1 第12回　Unit 17-2, 18-1, 18-2 第13回　Unit 19-1, 19-2, 20-1 第14回　Unit 20-2, 21-1, 21-2 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度（30%），小テスト（30%），オーラル試験（40%）		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅰ(C)	担当者	太田　一郎
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実 【概　要】(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練，および会話表現等の学習 ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ，英語の音声（プロソディ）に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。 (2)シャドーイング，音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで，英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材（または副教材）を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。 【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し，情報を伝えることができる。		
（１）テキスト （２）参考文献	(1) NEW HEADWAY VIDEO（Elementary）John Murphy 著　(Oxford University Press) (2) 授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	第 １～２回　ガイダンスおよび練習法（シャドーイングなど）の解説 第 ３～４回　A New Neighbour 第 ５～６回　To the Rescue 第 ７～８回　Dinner for Two 第 ９～10 回　Change of a Dress 第 11～12 回　A Long Weekend 第 13 回　復習 第 14 回　朗読試験 第 15 回　まとめと試験 【注意】LL 教室を使っての授業なので，遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	平常点 30%と試験 70% 。試験は朗読と筆記の二種類。		

（注）経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅰ(C)　※火曜日４限	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】特に基礎的な文法力修得に力点を置きながら，リスニング力，発音力，文法力を総合的に鍛えることで，スピーキングの基礎力を養成する。 【概　要】英語のリスニング，文法，読解を総合的に学習することで，バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習，基本的，発展的な文法事項の確認，「フレーズ・リーディング」（意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法）を意識した速読理解の練習などを通して，総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。 【到達目標】日常生活の様々な場面において，相手の情報や考えを理解でき，プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。		
（１）テキスト （２）参考文献	Power-Up English <Basic>　JACET リスニング研究会著　NAN'UN-DO（南雲堂）刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 １回　オリエンテーション 第 ２回　Personal Correspondence（現在形・現在進行形） 第 ３回　Biography（過去形・過去進行形） 第 ４回　Events & Festivals（未来形） 第 ５回　Directions & Locations（前置詞） 第 ６回　Occupations（代名詞） 第 ７回　Instructions（命令文） 第 ８回　Health & Physical Condition（疑問文） 第 ９回　Service Requests（現在完了） 第 10 回　Money（疑問詞を用いた疑問文） 第 11 回　Public Signs（助動詞１） 第 12 回　Sports（助動詞２） 第 13 回　History（受動態） 第 14 回　Sightseeing（比較） 第 15 回　期末試験		
成績評価の方法	筆記試験（７０％），提出物（１０％），授業への取組み態度（２０％）で評価する。		

（注）経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅰ(C)　※火曜日５限	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】リスニング力，発音力，文法力を総合的に鍛えることで，スピーキングの基礎力を養成する。 【概　要】英語のリスニング，文法，読解を総合的に学習することで，バランスのとれた英語の基礎力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習，基本的な文法事項の確認，「フレーズ・リーディング」（意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法）を意識した速読理解の練習などを通して，総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。また各種英語検定試験に対応できるよう補足資料で発展的な問題にも取り組みます。 【到達目標】会話展開が予測可能な場面，または馴染みのある文脈において，相手の情報や考えを理解でき，相手に誤解を生じない程度の発音で情報や考えを表現できる。		
（1）テキスト （2）参考文献	Power-Up English <Basic>　JACET リスニング研究会著　NAN'UN-DO（南雲堂）刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　Personal Correspondence（現在形・現在進行形） 第 3回　Biography（過去形・過去進行形） 第 4回　Events & Festivals（未来形） 第 5回　Directions & Locations（前置詞） 第 6回　Occupations（代名詞） 第 7回　Instructions（命令文） 第 8回　Health & Physical Condition（疑問文） 第 9回　Service Requests（現在完了） 第10回　Money（疑問詞を用いた疑問文） 第11回　Public Signs（助動詞１） 第12回　Sports（助動詞２） 第13回　History（受動態） 第14回　Sightseeing（比較） 第15回　期末試験		
成績評価の方法	筆記試験（７０％），提出物（１０％），授業への取組み態度（２０％）で評価する。		

(注) 経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅰ(C)	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】この授業のテーマは，リスニングのコツを学びながら，ナチュラルスピードの口語英語に慣れ親しむとともに，日常会話で役立つ表現やフレーズを身につけていくことです。 【概　要】　授業の前半では，洋楽を使ったエクササイズや，チャンツ・パラレルリーディングなどの発話練習で，楽しみながら英語の自然な音声変化やリズムに慣れ，「自然な発音を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。 授業の後半ではアメリカ旅行と留学を題材としたビデオ教材で，ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに，日常会話で使われる英語表現やフレーズを場面ごとに学習していきます。 さらにコースの後半では応用編として，映画を利用したリスニング演習を取り入れる予定です。 【到達目標】会話展開が予測可能な場面，またはなじみある場面において，相手の情報や考えを理解でき，相手に誤解を生じない程度の発音で，簡潔に対応できる英語力の習得を目標とする。		
（1）テキスト	(1) Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著, *Viva! San Francisco*.　出版社: マクミラン・ランゲージハウス		
授業スケジュール	＜毎回，LL 教室を使用＞ 第 1回 : オリエンテーション　/　授業内容と進め方について 第 2回 : Do You Have a Reservation, Ma'am?　/　ホテルでのチェックインに使う表現 第 3回 : Would You Like Soup or Salad?　/　レストランでの食事の注文に使う表現 第 4回 : Where's the Fitting Room?　/　ショッピングに使う表現 第 5回 : Good to See You!　/　挨拶に使う表現 第 6回 : I Enjoyed My Stay　/　ホテルでのチェックアウトに使う表現 第 7回 : You Are One of the Family Now　/　ホームスティ先での会話表現 第 8回 : I Want to Help!　/　申し出る・申し出を受ける表現 第 9回 : When Do I Have to Return This?　/　図書館での本の貸し出しに使う表現 第10回 : Would You Like to Join Us?　/　人を誘う・誘いに応じる際の表現 第11回 : Let's Keep in Touch, OK?　/　別れに使う表現 第12回 : 映画を利用したリスニング演習（1） 第13回 : 映画を利用したリスニング演習（2） 第14回 : 映画を利用したリスニング演習（3） 第15回 : まとめと試験		
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) ＋　復習のための小テスト (30%) ＋　定期試験 (50%)		

(注) 経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ（A）	担当者	アンネ　ヨハンセン
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。 【概　要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で，読む・聞く・書く・話す実用的な英語を学ぶ。 【到達目標】 日常生活で必要とされる英語のリスニング力とスピーキング力を向上させていく。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1) Donald Freeman, Kathleen Graves, Linda Lee 『ICON』International Communication Through English, McGranhill　ISBN 007-124406-9　税込 2,205 円		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション　自己紹介　コース説明 第 2回　Unit 1：Is Korean food spicy? 第 3回　Unit 2：Where is volleyball popular? 第 4回　Unit 3：The nightlife is great! 第 5回　Unit 4：It's terrific dance music 第 6回　Unit 5：I don't like horror movies 第 7回　Unit 6：Do you like to eat out? 第 8回　Unit 7：When do you have lunch? 第 9回　Unit 8：I never get enough sleep! 第 10 回　Unit 9：Did you go to the gym? 第 11 回　Unit 10：Is there an ATM around here? 第 12 回　Unit 11：I want to buy a CD 第 13 回　Unit 12：That's a nice jacket! 第 14 回　Revision 第 15 回　Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40%　授業態度 20%　会話テスト 40%		

(注) 日本語日本文学専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ（A）	担当者	Simon　Runswick
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修(注)　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 The basic theme of this course is everyday communication in a wide variety of situations such as shopping, asking directions etc. 【概　要】 In this class the students will be introduced to a variety of everyday English for many basic communication needs. The students will practice the various language functions through different activities including pair work and role play. 【到達目標】 The aim of this course is to improve the overall communicative abilities of the students in everyday situations.		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）ENGLISH FIRSTHAND 1　Marc Helgesen et al.　Longman Asia ELT （2）		
授業スケジュール	第 1回　Introductions and Asking Questions 第 2回　Describing People 第 3回　Schedules and Frequency 第 4回　Describing locations 第 5回　Giving Directions 第 6回　Past activities 第 7回　Review 第 8回　Talking about the Past 第 9回　Getting Information 第 10 回　Plans 第 11 回　Predictions 第 12 回　Shopping 第 13 回　Following Instructions 第 14 回　Personal Interests and Opinions 第 15 回　Review		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final oral test.		

(注) 日本語日本文学専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ（A）	担当者	Brian　Pedersen
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】The theme of the course is to provide students with a solid grounding of English vocabulary in a wide variety of topics 【概　要】Communicating in English requires a wide vocabulary. Students will be able to use this class to begin self-directed studies based around topics of interest and relevance. Students gain confidence with the support they initially receive in pair work with fellow students and they will also be able to work at their own pace to maximize their language development. 【到達目標】A successful outcome for this course would be students who take responsibility for their own learning outside of the class room having initially built up skills and confidence inside it.		
（1）テキスト （2）参考文献	Oxford Picture Dictionary Second Edition　English/Japanese		
授業スケジュール	第 1回　Greetings and exchanging personal information 第 2回　Times dates and weather 第 3回　Prepositions and locations 第 4回　Describing people 第 5回　Families 第 6回　Daily routines and life events 第 7回　Mid- term self- study and/or review 第 8回　Food preparation and safety. Ordering. 第 9回　Health and wellness. 第10回　City streets, maps, directions. 第11回　Jobs and occupations 第12回　Leisure and entertainment 第13回　The wider world 第14回　Review and/or self -study 第15回　Final oral presentation		
成績評価の方法	Class participation 20%　Class work 50%　Final oral presentation 30%		

（注）日本語日本文学専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ（A）	担当者	James　Scott
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　Talking about one’s own ideas and feelings 【概　要】　Students will share their ideas regarding a wide range of topics 【到達目標】To improve students’ skills in communicating their ideas and feelings in English		
（1）テキスト （2）参考文献	Active Skills for Communication by Chuck Sandy and Curtis Kelly. Publisher:Heinle(Cengage Learning)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the course. 第 2 回 Class Album 第 3 回 Favorite Photos 第 4 回 Personal Goals 第 5 回 Self-Improvement Plan 第 6 回 Believe It or Not 第 7 回 Where I grew up 第 8 回 Bargain Shopper 第 9 回 Flea Market 第10回 第11回 第12回　(Note:Each of the themes referred to above will probably take two class sessions) 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法	Class participation, Oral Examination		

（注）日本語日本文学専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	フィリップ　アダメック
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】英語で鹿児島の生活を紹介し，国際的なコミュニケーション力の養成。 Using English to introduce familiar aspects of life in Kagoshima and to enhance international communication skills. 【概　要】学生は日本とその文化，特に鹿児島での生活について学びたがっているアメリカ人　ペンパルとの会話をノートに書き留めていきます。 Students maintain notebooks as they develop a dialogue with an American pen pal who seeks to learn about Japan, its customs, and specifically life in Kagoshima. 【到達目標】日常生活の様々な場面において，同世代のペンパルとのやりとりによって，意思疎通をスムーズに出来るようにする。情報や考えを理解でき，会話を続行させる方略（言い換え，繰り返し，強調等）をうまく用いて，沈黙をせずに相手と話し続けられる。To practice non-academic English and basic writing skills by developing a sustained dialogue with an English speaker of a similar age and interests. Grammar is studied in the context of a cultural exchange.		
（１）テキスト （２）参考文献	(1)　無印良品ノート　(21×14,5 cm) (2)　特になし		
授業スケジュール	第１回：紹介　Introduction 第２回～第６回：　リーディング，ディスカッション，手紙の内容把握 第７回：小テスト（文法問題や内容把握等） 第８回～第１４回：リーディング，ディスカッション，手紙の内容把握 15 回：小テスト（文法問題や内容把握等）		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合（３５％） Quizzes / in-class presentations クイズ／授業での発表（３５％） Final evaluation 最終のテスト／レポート／プレゼンテイション（３０％）		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	メアリー　マクセイ
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　英語のコミュニケーション能力を向上する授業 【概　要】リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。 【到達目標】　会話展開が予測可能な場面，または馴染みのあるコンテキストにおいて，相手の情報や考えを理解でき，つなぎことばを用いるなどして(時には相手の援助を得て)，不自然な沈黙がない程度に相手と意思疎通がとれる。		
（１）テキスト （２）参考文献	（１）Buckingham & Whitney, *Passport to New Places,* Oxford University Press		
授業スケジュール	第 １回　Introduction 第 ２回　Unit 1 第 ３回　Unit 2 第 ４回　Unit 3 第 ５回　Unit 4 第 ６回　Unit 5 第 ７回　Review unit 第 ８回　Unit 1-5 quiz 第 ９回　Unit 6 第 10 回　Unit 7 第 11 回　Unit 8 第 12 回　Unit 9 第 13 回　Unit 10 第 14 回　Review unit 第 15 回　Unit 6-10 quiz		
成績評価の方法	授業での参加の度合（３５％），　クイズ／授業での発表（６５％）		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	Brian　Pedersen
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】The theme of this course is acquiring the language skills to function in a college setting, being able to explain to others one's situation and ask relevant questions of others to aid conversation. 【概　要】Using topics centered around daily college life lessons are centered on a basic structure, allowing students to create many meaningful sentences. Students learn how to avoid making the kinds of mistakes which typically hinder conversation such as long silences and overly short answers. 【到達目標】A successful outcome for this course would be students with a good grounding in structures and vocabulary that are relevant to their situation, acquired through enjoyable and focused drilling.		
（1）テキスト （2）参考文献	Conversations in class New edition　Alma publishing		
授業スケジュール	第 1回　Introductions 第 2回　Sounding natural- Silence and conversation 第 3回　Daily life 第 4回　University life 第 5回　Directions 第 6回　Skills 第 7回　Mid-term Review and/or self –study 第 8回　Family 第 9回　Travel 第10回　Free time 第11回　Money 第12回　Hometown 第13回　Future 第14回　Review and/or self-study 第15回　Final oral presentation		
成績評価の方法	Class participation 70%　Final oral presentation 30%		

(注) 経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	アンネ　ヨハンセン
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を話す･聞く自信と能力を身につける。 【概　要】 ペアワーク･ゲームなどの方法で，実用的な英語を学ぶ授業をする。 【到達目標】 日常生活の様々な場面において，相手の情報や考えを理解でき，会話を続行させる方略（言い換え，繰り返し，強調等）をうまく用いて，沈黙をせずに相手と話し続けられる。		
（1）テキスト （2）参考文献	Angela Buckingham Miles (Raven, David Williamson) 『GET REAL』Macmillan　ISBN 978-4-7773-6075-8　税込 2,400 円		
授業スケジュール	第1回　It's my birthday on July 3rd 第2回　What do people do at Christmastime? 第3回　Why don't we have a party? 第4回　I'll have soup, please 第5回　I like jazz a lot. 第6回　I hate horror movies. 第7回　Review 1 第8回　How far is it to the airport? 第9回　How high is Mount Everest? 第1 0回　He went to Hollywood in 1996. 第1 1回　I got engaged in January. 第1 2回　How much rice do you want? 第1 3回　How much paper do you recycle? 第1 4回　Review 2 第1 5回　Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40%　授業態度 20%　会話テスト 40%		

(注) 経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ（C）	担当者	Simon　Runswick
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 The basic theme of this course is everyday communication in a wide variety of situations such as shopping, asking directions etc. 【概　要】 In this class the students will be introduced to a variety of everyday English for many basic communication needs. The students will practice the various language functions through different activities including pair work and role play. 【到達目標】 The aim of this course is to improve the overall communicative abilities of the students in everyday situations.		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）ENGLISH FIRSTHAND 1　Marc Helgesen et al.　Longman Asia ELT （2）		
授業スケジュール	第１回　Introductions and Asking Questions 第２回　Describing People 第３回　Schedules and Frequency 第４回　Describing locations 第５回　Giving Directions 第６回　Past activities 第７回　Review 第８回　Talking about the Past 第９回　Getting Information 第10回　Plans 第11回　Predictions 第12回　Shopping 第13回　Following Instructions 第14回　Personal Interests and Opinions 第15回　Review		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final oral test.		

（注）　経済専攻，経営情報専攻

授業科目	English Ⅱ（C）	担当者	Andrew　Daniels
	〔履修年次〕1st year　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions. 【概　要】 Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios. 【到達目標】Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily.		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）Talk Time (Student Book 2)　by Susan Stempleski　(Oxford University Press) （2）		
授業スケジュール	第１回 -第７回　Key topics from the first half of the textbook Jobs/Weekend activities/Music/ Vacations 第８回　Review Quiz 第９回- 第14回　Key topics from later chapters of the textbook Clothes and Fashion/Cooking/ Places around Town 第15回　Final Oral Review		
成績評価の方法	In class short presentations 30% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%		

（注）経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ（A）	担当者	メアリー　マクセイ
	〔履修年次〕１，２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語のコミュニケーション能力を向上する授業 【概　要】 前期のつづきで，リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。 【到達目標】コミュニケーション能力の４つの要素（文法能力，社会言語能力，談話能力，方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら，日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力の向上を向上させていく。		
（1）テキスト （2）参考文献	（１）Buckingham & Whitney, *Passport to New Places*, Oxford University Press		
授業スケジュール	第 1回　Introduction 第 2回　Unit 11 第 3回　Unit 12 第 4回　Unit 13 第 5回　Unit 14 第 6回　Unit 15 第 7回　Review unit 第 8回　Unit 11-15 quiz 第 9回　Unit 16 第10回　Unit 17 第11回　Unit 18 第12回　Unit 19 第13回　Unit 20 第14回　Review unit 第15回　Unit 16-20 quiz		
成績評価の方法	授業での参加の度合（３５％），クイズ／授業での発表（６５％）		

（注）食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ（B）	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕１，２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】この授業のテーマは，ショートドラマや映画を利用して，英語圏の人々が日常生活で使用しれいる「生きた自然な英語」に触れながら，リスニングを中心にコミュニケーションに必要な英語力をつけていくことです。 【概　要】 授業の前半では，洋楽を使ったエクササイズや，チャンツ（リズム練習）・パラレルリーディング（音声を聞きながらの音読）・シャドーイングなどの口頭練習で，楽しみながら英語の音声変化やリズム・イントネーションに慣れ，「自然な発音を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。 授業の後半では，ニューヨークに住む６人の男女が繰り広げるショートドラマによるリスニング演習で，ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに，日常生活で役立つ会話表現や語彙を学習していきます。 さらにコースの後半では応用編として映画を利用したリスニング演習を取り入れ，ストーリーを楽しみながら，よりナチュラルな「生きた自然な英語」のリスニング演習に取り組みます。 【到達目標】日常生活になじみのある場面において，ナチュラルスピードに近い自然な英語での発話の意図を理解でき，相手に誤解を生じない程度の発音で，簡潔に対応できる英語力の習得を目指します。		
（1）テキスト	Susan Stempleski 著，*World Link Video Course Intro.*　出版社：トムソン		
授業スケジュール	＜毎回，LL 教室を使用＞ 第 1回：オリエンテーション　/　授業内容と進め方について 第 2回：Please Call me Dave.　/　自己紹介 第 3回：Where is it?　/　英語でゲーム 第 4回：A Cool Gift　/　ショッピングで使う表現（1） 第 5回：Takeshi's Food Video　/　食べ物・食習慣を英語で表現 第 6回：Meals & Likes and Dislikes　/　食習慣についての簡単なインタビューを聴く 第 7回：Welcome to New York!　/　住生活・友達との再会 第 8回：Dear Mum and Dad　/　日常生活を英語で表現（1） 第 9回：Mike's "Busy" Day　/　日常生活を英語で表現（2） 第10回：Times and Schedules　/　日常生活についての簡単なインタビューを聴く 第11回：What do I wear to the party？　/　ショッピングで使う表現（2） 第12回：映画を利用したリスニング演習（1） 第13回：映画を利用したリスニング演習（2） 第14回：映画を利用したリスニング演習（3） 第15回：まとめと試験		
成績評価の方法	授業への取り組み（20%）＋　復習のための小テスト（30%）＋　定期試験（50%）		

（注）食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ（C）	担当者	塚崎　香織
	〔履修年次〕１，２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】イギリスの暮らしと文化に関する読み物を通して，日英の文化の違いについて学ぶ。英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに，各章のテーマに関連した語彙を習得する。リーディング，リスニング，ライティングを関連づけた活動を行う。 【概　要】主に，必要な情報を探して素早く英文を読む，概要・要点を大まかに把握する，パラグラフの構造を理解する，わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。 【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して，英文の内容を把握できる。 英文を聞いて，内容が把握できる。自分が伝えたいことを簡単な英文で表現できる。 教科書のテーマごとに関連した語彙を身につける。		
（1）テキスト （2）参考文献	Terry O'Brien, Miwa Uhara and Hiroshi Kimura / *Gateway to Britain*　（南雲堂） 特になし		
授業スケジュール	第 1回　Check In and Work Out: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 2回　What Will the Weather Be Like?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 3回　A London without Red Buses?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 4回　Back to the Future: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 5回　Shop-n'-Chat: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 6回　More Than Just a Post Office: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 7回　Off the Beaten Path: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 8回　Pubs in Decline: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 9回　Dining Out Diversity: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 10 回　Afternoon Tea: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 11 回　The Beatles Are Forever: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 12 回　Football: Sport or Business?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 13 回　The Royal Family or TV Melodrama?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 14 回　Preserving Britain: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（６０％）＋授業ごとに実施する小テスト・レポート等（４０％）」		

（注）食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ（D）	担当者	太田　一郎
	〔履修年次〕１，２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実（初中級～中級レベル） 【概　要】(1)ビデオ等の視聴による聴き取りの訓練，および会話表現等の学習 ビデオ教材等で日常の会話で使用される生の英語にふれ，英語の音声（プロソディ）に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。 (2)シャドーイング，音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで，英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材及び副教材を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。 【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し，情報を伝えることができる。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)プリント等による (2) 授業中に適宜指示する		
授業スケジュール	第1回　ガイダンス 第2～13回　シャドーイング等によるリスニング・スピーキングの訓練 第 14 回　朗読試験 第 15 回　まとめと試験 【注意】LL 教室を使っての授業なので，遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	平常点 30%と試験 70% 。試験は朗読と筆記の二種類。		

（注）日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(E)	担当者	ティムソン　デイビット
	〔履修年次〕１，２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 Developing oral communication skills and learning to express ideas and opinions in English. 【概　要】 アメリカ英語におけるスピーキングの修正とリスニング・アクティビティを主におこなう。このコースでは，生徒が自信を持って自分の考えや意見をペア・アクティビティやグループ・アクティビティで表現できるように，興味深い革新的で幅広いトピックを取り上げる。ネイティブ・スピーカーの自然な会話の録音をリスニングの教材として使用するリスニング・アクティビティにより，リスニングスキルを向上させる。 【到達目標】 ４つのコミュニケイティブ・スキル（reading，writing，listening，speaking）を上達させる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）未定		
授業スケジュール	第 1回　Interests and Hobbies 第 2回　Health 第 3回　Holidays 第 4回　Shopping 第 5回　Movies 第 6回　Sports 第 7回　Travel 第 8回　Hotel 第 9回　Social Issues 第10回　Culture 第11回　Appearances 第12回　Work 第13回　Memories 第14回　Restaurant 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス（80%）＋宿題，授業中に行う小テストの成績（20%）		

(注) 日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(F)	担当者	アンネ　ヨハンセン
	〔履修年次〕１，２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を話す･聞く自信と能力を身につける。 【概　要】 ペアワーク･ゲームなどの方法で，実用的な英語を学ぶ授業をする。 【到達目標】 日常生活の様々な場面において，相手の情報や考えを理解でき，会話を続行させる方略（言い換え，繰り返し，強調等）をうまく用いて，沈黙をせずに相手と話し続けられる。		
（1）テキスト （2）参考文献	Tom Kenny & Linda Woo 『Nice Talking With You Ⅰ』　ISBN 976-0-521-18808-1　Cambridge University Press　税込 2,100 円		
授業スケジュール	第 1回　Introductions 第 2回　Family 第 3回　Shopping 第 4回　Food 第 5回　Music 第 6回　Free time 第 7回　Review 1 第 8回　Travel 第 9回　Sports 第10回　Friends 第11回　Work 第12回　Movies 第13回　Personal tech 第14回　Review 2 第15回　Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40%　授業態度 20%　会話テスト 40%		

(注) 日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(G)	担当者	James Scott
	〔履修年次〕１，２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 This class will focus almost exclusively on speaking and listening 【概　要】 Students will spend most of their time telling and listening to stories about themselves and others. 【到達目標】 To improve students' speaking and listening skills		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）Tell Me Your Stories, by Bob Jones and David Coulson （2）Publisher:MacMillan Language House		
授業スケジュール	第１回 Introduction. 第２回 Talking about movies. 第３回 Talking about bad luck and minor accidents. 第４回 Describing our feelings about things that have happened. 第５回 Talking about happy events and achievements. 第６回 Showing interest and responding to other peoples stories. 第７回 Making comments while listening / adding a story of our own. 第８回 Talking about a time when one bad thing happened after another. 第９回 Talking about one's childhood. 第10回 Telling interesting stories about people we know. 第11回 Adding interesting stories to conversation / Explaining words we don`t know. 第12回　(Each topic will probably require about one and a half class periods) 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法	Class participation, oral examination		

(注) 日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(H)	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】多様な題材を扱った英文を精読することで，英文を正確に速読する力を養う。 【概　要】英文を読むとき，意味のまとまり（フレーズ）ごとに区切って，前から後ろへと英語の語順で読解していく方法を「フレーズ・リーディング」といいます。英文を「戻り読み」せず，「フレーズ・リーディング」することで，意味のまとまりを意識し，より正確にまたより迅速に英文を読解することができるようになります。授業では「フレーズ・リーディング」を基本的読解法と位置付け，身近な話題から時事問題までを扱った多種多様な英文を題材に，幅広い語彙力を養いながら多読，速読の技術を修得します。 【到達目標】多様なジャンルの英文を，より迅速により深く読めることを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）田村朋子　他著　*Phrase Reading*　(センゲージラーニング) （2）授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第１回　イントロダクション 第２回　Extreme Ironing 第３回　Food and Culture 第４回　Life after Death? 第５回　Addicted to the Mall 第６回　The Working Poor 第７回　A Child Hero 第８回　Don't Be Fooled Again 第９回　The Government Department of Dating and Marriage 第10回　Undercover Marketing 第11回　A Healthy Diet for Everyone 第12回　Anger around the World 第13回　Online Dating Goes Mainstream 第14回　リーディング力ＵＰ講座 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（８０％），提出物（１０％），授業への取組み態度（１０％）で評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ（A）	担当者	ジェイムズ　スコット
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは，中級程度（レベルで言えば，TOEIC 500～650 英検２級）のコミュニケーション能力の育成にある。 【概　要】このコースでは，英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために，受講生は自分自身の意見を英語で表明したり，英語で述べられる他者の意見を尊重したりして，大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。 【到達目標】コミュニケーション能力の４つの要素（**文法能力**，**社会言語能力**，**談話能力**，**方略的能力**）をそれぞれ密接に絡めながら，日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。		
（１）テキスト （２）参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	第１回：Introduction to the Course--Discussing course objectives　(導入－コースの目標についての説明) 第２回："Do you remember when?" --Talking about the past (1)　(いつか覚えているか－過去についての話し合い(1)) 第３回："Do you remember when?" --Talking about the past (2)　(いつか覚えているか－過去についての話し合い(2)) 第４回："Making plans"--Planning to do something (1)　(計画の作成－物事をするための計画(1)) 第５回："Making plans"--Planning to do something (2)　(計画の作成－物事をするための計画(2)) 第６回："What should I do?" --Asking for and giving advice (1)　(何をすべきか－忠告を求め尋ねる方法(1)) 第７回："What should I do?" --Asking for and giving advice (2)　(何をすべきか－忠告を求める方法と尋ねる方法(2)) 第８回："Tell me a story"--Storytelling (1)　(物語の語り方－その方法(1)) 第９回："Tell me a story"--Storytelling (2)　(物語の語り方－その方法(2)) 第10回："In my opinion"--Expressing opinions (1)　(私の意見では－意見の表明の仕方(1)) 第11回："In my opinion"--Expressing opinions (2)　(私の意見では－意見の表明の仕方(2)) 第12回："Looking ahead"--Talking about the future (1)　(将来の出来事や状況を判断－将来についての話し合い(1)) 第13回："Looking ahead"--Talking about the future (2)　(将来の出来事や状況を判断－将来についての話し合い(2)) 第14回："Looking ahead"--Talking about the future (3)　(将来の出来事や状況を判断－将来についての話し合い(3)) 第15回：定期試験		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋クラス活動への参加（30%）を基準に，総合的に評価する。		

（注）日本語日本文学専攻，食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ（B）	担当者	Simon　Runswick
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択(注)　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 The main theme of this class is listening and speaking skills in a variety of day-to-day interactions. 【概　要】 In this class the students will be presented with a range of listening and speaking activities in a variety of situations. The course will focus on developing the skills needed to successfully communicate in and comprehend day-to-day situations. 【到達目標】 The basic aim of this course is to revise and improve the students listening and speaking skills.		
（１）テキスト （２）参考文献	（１）NORTH STAR　Focus on Listening and Speaking – Basic　L. Frazier and R. Mills　Longman Asia ELT （２）		
授業スケジュール	第１回　Jobs 第２回　The Country 第３回　The City 第４回　Money 第５回　Shopping 第６回　Questioning styles 第７回　Review 第８回　Sports and Competition 第９回　Male and Female Roles 第10回　Food 第11回　Vacations 第12回　Polite Requests 第13回　Staying Healthy 第14回　Agreement and Disagreement 第15回　Review		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final listening and oral test.		

(注)　日本語日本文学専攻，食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ（C）	担当者	ジェイムズ　スコット
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは，中級程度（レベルで言えば，TOEIC 500～650 英検２級）のコミュニケーション能力の育成にある。 【概　要】このコースでは，英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために，受講生は自分自身の意見を英語で表明したり，英語で述べられる他者の意見を尊重したりして，大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。 【到達目標】コミュニケーション能力の４つの要素（**文法能力**，**社会言語能力**，**談話能力**，**方略的能力**）をそれぞれ密接に絡めながら，日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。		
（１）テキスト （２）参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	第１回：Introduction to the Course--Discussing course objectives　(導入ーコースの目標についての説明) 第２回："Do you remember when?" --Talking about the past (1)　(いつか覚えているかー過去についての話し合い(1)) 第３回："Do you remember when?" --Talking about the past (2)　(いつか覚えているかー過去についての話し合い(2)) 第４回："Making plans"--Planning to do something (1)　(計画の作成ー物事をするための計画(1)) 第５回："Making plans"--Planning to do something (2)　(計画の作成ー物事をするための計画(2)) 第６回："What should I do?" --Asking for and giving advice (1)　(何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1)) 第７回："What should I do?" --Asking for and giving advice (2)　(何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2)) 第８回："Tell me a story"--Storytelling (1)　(物語の語り方ーその方法(1)) 第９回："Tell me a story"--Storytelling (2)　(物語の語り方ーその方法(2)) 第10回："In my opinion"--Expressing opinions (1)　(私の意見ではー意見の表明の仕方(1)) 第11回："In my opinion"--Expressing opinions (2)　(私の意見ではー意見の表明の仕方(2)) 第12回："Looking ahead"--Talking about the future (1)　(将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1)) 第13回："Looking ahead"--Talking about the future (2)　(将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2) 第14回："Looking ahead"--Talking about the future (3)　(将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3)) 第15回：定期試験		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋クラス活動への参加（30%）を基準に，総合的に評価する。		

(注) 経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ（D）	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】この授業のテーマは，映画を利用して，英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」にふれながら，リスニングとスピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力をつけていくことです。 【概　要】　映画を使った英語学習には，（1）ストーリーを楽しみながら英語を学べる，（2）オーセンティックな（本物の）英語のシャワーを受けながら英語学習ができる，（3）会話表現・フレーズとそれを使う場面・状況をセットで学習できる，などの利点があります。 授業では，１本の映画（『ゴースト』<サスペンス・ラブストーリー>）を 14 回に分けて使用し，ストーリーを楽しみながら，ナチュラルスピードの英語の聞き取り演習に取り組んでいくとともに，日常生活で使われる口語表現や語彙を学習していきます。さらに，英語のセリフをモデルとしたパラレルリーディング（音声を聞きながらの音読練習）やロールプレイで，英語らしいリズムやイントネーションで話せるように発話練習をしていきます。 また，日・英セリフの対比や，英語セリフ・日本語セリフ作成演習を通して，ことばの表現力を高めていきます。 【到達目標】日常生活のなじみのある場面において，ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力，それに簡潔に対応できる／自分の意思を表現できる英語力の習得を目標とします。		
（１）テキスト	（１）教師作成のプリントを毎回使用します。		
授業スケジュール	<毎回，LL 教室を使用> 第 １回：授業内容と進め方　/　映画を使った英語学習について 第 ２回：The Loft　/　友人同士の会話（新居） 第 ３回：Unchained Melody　/　同僚との会話（オフィス） 第 ４回：Life After Death　/　恋人との会話（路上） 第 ５回：Willy Lopez　/　友人との会話（自宅） 第 ６回：Spiritual Adviser　/　初対面の相手との会話（店内　） 第 ７回：The Truth　/　初対面の相手との会話（店内） 第 ８回：Molly's Apartment　/　知人との会話（自宅） 第 ９回：The Police Station　/　警察官との会話（警察） 第 10 回：Rita Miller　/　顧客との会話（銀行　） 第 11 回：Revenge　/　友人との会話（自宅） 第 12 回：The Penny　/　知人との会話（自宅） 第 13 回：With All my Heart　/　知人との会話（自宅） 第 14 回：Last Chance　/　恋人との会話 第 15 回：まとめと試験		
成績評価の方法	授業への参加と取り組み（20%）＋　復習のための小テスト・セリフ作成課題など（40%）＋　定期試験（40%）		

(注) 経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(E)	担当者	アンネ　ヨハンセン
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 ビジネスで使える英語を学ぶ。 【概　要】 オフィスでの簡単な英会話から，電話の応対，FAX・電子メールのやり取りをアクテヴィティを通して学ぶ。 【到達目標】 限定された，職場において必要とされる英語を理解し，日常の業務を適切に遂行できる英語力を養成する。		
（1）テキスト （2）参考文献	Tae Kudo 『First Steps to Office English』 Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-180-5　税込 2,205 円		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション　自己紹介　コース説明 第 2回　It's nice to meet you. 第 3回　What does 'FYI' mean? 第 4回　May I speak to Mr.Yoshioka? 第 5回　May I take a message? 第 6回　I have a headache. 第 7回　I have another appointment at 9:30. 第 8回　Would you like something to drink? 第 9回　Let's go out for a drink. 第10回　How was your weekend? 第11回　The sales department is on the 3rd floor. 第12回　Turn right on Main Street. 第13回　First , press the start button. 第14回　I'd like to check in. 第15回　Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40%　授業態度 20%　期末テスト 40%		

(注) 経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(F)	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは，TOEIC 500 点以上の取得，英検２級取得を目指せるように，学生の語彙力を増やし，英文法を再確認させ，長文読解のコツを身に付けさせて，英語学習への意欲を高める。 【概　要】授業では，高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させる。テキストは毎回２章ずつ進むので，予習が必要となる。また，授業中に語彙力・文法力・並べ換えによる作文力・メール文の読解力を高める問題に取り組ませる（プリント学習）。担当者が解説を試み，間違った箇所をチェックさせることで，受講生の英語力のアップをはかり，学習意欲が高まるような工夫を凝らす。リスニング問題にも取り組めるようにLL 教室を使用する。 【到達目標】受講生がTOEIC 500 点以上の取得あるいは英検２級の取得を目指せるような英語力を身に付けることを到達目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）小池直己・佐藤誠司『５分間　実践英文法』南雲堂 適宜，プリントによる問題も配布する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（授業の進め方の説明） 第 2回　Unit 1～2　動詞 第 3回　Unit 3～4　不定詞 第 4回　Unit 5～6　分詞 第 5回　Unit 7～8　動名詞 第 6回　Unit 9～10　代名詞 第 7回　Unit 11～12　関係詞 第 8回　Unit 13～14　前置詞 第 9回　Unit 15～16　接続詞・時制 第10回　Unit 17～18　形容詞 第11回　Unit 19～20　副詞 第12回　Unit 21～22　比較 第13回　Unit 23～24　助動詞，受動態 第14回　Unit 25～26　仮定法，話法 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（60%），予習を含む授業への取り組み（40%）		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	英語Ⅳ(G)	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】英文読解力と語彙力の養成 【概　要】４年制大学編入を視野に入れて，構文と論理の組み立てを追いながら，英文を正確に読む練習をする。 【到達目標】構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 英検２級・TOEFL 対策長文問題集，吉田晴世，吉田信介，松柏社。その他参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第１回　ガイダンス 第２回　英文読解演習(1) 第３回　英文読解演習(2) 第４回　小テスト(1) 第５回　英文読解演習(3) 第６回　英文読解演習(4) 第７回　英文読解演習(5) 第８回　英文読解演習(6) 第９回　小テスト(2) 第 10 回　英文読解演習(7) 第 11 回　英文読解演習(8) 第 12 回　英文読解演習(9) 第 13 回　英文読解演習(10) 第 14 回　英文読解演習(11) 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト（40%）＋ 試験（30%）＋ 授業への参加状況（30%）		

（注）全専攻の学生が選択可能

授業科目	**異文化コミュニケーション（英語）**	担当者	英語担当教員全員
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕通年 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。 【概　要】ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジで研修を行う。授業は英語研修とアメリカ文化研修から成り立ち，滞在期間中，基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。 2010 年度ハワイ研修の実績 ・9/3(金) ～9/19(日) ・参加者　14 名 ・研修費用　約 29 万円（授業料，往復航空券，滞在費，朝食と昼食の食費，保険料） 【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジの担当教員が指示		
授業スケジュール	事前指導　特設時間を利用して受講希望者に３～４回行う。ハワイ大学コミュニティカレッジでの研修内容の説明，海外渡航に伴う種々の事柄を説明，前もって課題（レポート作成）の指示。 海外研修　９月を予定（約２週間），現地の大学で午前中に英語の授業，午後に文化に関する授業（フラダンス，レイ作り，ハワイの文化，ハワイの植物），その他学外授業としての見学。 事後指導　帰国後に総括		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌，体験記）（50%）とハワイでの研修状況（50%）で評価する。		

授業科目	**異文化コミュニケーション（中国語）**	担当者	中国語担当教員全員
	〔履修年次〕１，２年いずれでも履修可　〔学期〕通年 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。 【概　要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は，わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は，中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中，基礎的な実用中国語を習得し，さらに，南京農業大学の学生と交流し，中国の文化習慣などについて直接体験します。 ※2010 年度中国研修の実績 ・日程：8 月 28 日（土）～9 月 11 日（土）［15 日間］ ・参加者：13 名（文学科日本語日本文学専攻５名，英語英文学専攻２名，商経学科経済専攻３名，経営情報専攻３名） ・費用：約 14 万円（授業料，往復航空券，寮の滞在費，南京市内・市外の見学費用） 【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	<u>事前指導</u>　特設時間を利用して受講希望者に3～4 回行います。 ［1］南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明， ［2］海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明， ［3］課題（レポート作成）の指示などです。 <u>海外研修</u>　9 月の夏期休業期間に約２週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて，中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。 <u>事後指導</u>　帰国後に総括します。		
成績評価の方法	担当教員が課した課題，および中国での学習成果を基に成績を算出します。		

授業科目	ドイツ語Ⅰ	担当者	竹内　宏
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】現在ヨーロッパでは，ＥＵ（ヨーロッパ連合，つまりヨーロッパの統一）という歴史的大実験が進行中で，ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また，ドイツ語は１億 2000 万弱の母国語人口を擁し，ヨーロッパに限れば最大の言語と言うことができます。このように，社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら，ドイツ語を学習します。 【概　要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが，「習うより慣れろ」をモットーに，授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。 【到達目標】１年間の学習で，自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け，ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。		
（１）テキスト （２）参考文献	⑴秋田静男　他『ドイツ語インフォメーション』朝日出版社 ⑵在間進他『アクセス独和辞典　第３版』三修社		
授業スケジュール	第１回　ドイツ（文化圏）とドイツ語について，文字・アルファベット 第２回　発音と綴り字 第３～５回　第０課 第６～８回　第１課 第９～10 回　第２課 第 11～13 回　第３課 第 14 回　復習と試験準備 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 90%，授業への参加状況 10%		

（注）英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語Ⅱ	担当者	竹内　宏
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】現在ヨーロッパでは，ＥＵ（ヨーロッパ連合，つまりヨーロッパの統一）という歴史的大実験が進行中で，ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また，ドイツ語は１億 2000 万弱の母国語人口を擁し，ヨーロッパに限れば最大の言語と言うことができます。このように，社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら，ドイツ語を学習します。 【概　要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが，「習うより慣れろ」をモットーに，授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。 【到達目標】１年間の学習で，自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け，ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。		
（１）テキスト （２）参考文献	⑴秋田静男　他『ドイツ語インフォメーション』朝日出版社 ⑵在間進他『アクセス独和辞典　第３版』三修社		
授業スケジュール	第１～３回　第４課 第４～６回　第５課 第７～９回　第６課 第 10～12 回　第７課 第 13～14 回　復習と試験準備 第 15 回　まとめと定期試験		
成績評価の方法	筆記試験 90%，授業への参加状況 10%		

（注）英語英文学専攻のみ

授業科目	**フランス語Ⅰ**	担当者	小澤　晃
	〔履修年次〕英語英文学専攻は１年次，生活科学科は２年次　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	フランス語は国際語としてきわめて重要な言語の一つであり，世界の各地で外国語として広く学習されている。系統的にはラテン語の子孫であるから，スペイン語，イタリア語，ポルトガル語などとは姉妹語の関係にあり，これらとは実際よく似ている。また１１世紀に英語に多数の語彙をもたらしたため，英語ともきわめて類似点が多い。 この授業ではゆっくりとしたスピードで，フランス語の発音・綴字の読み方，初歩的な文法と単語，日常的な会話表現などを学習する。それと並行して，フランスの社会や文化についても解説する。		
（1） テキスト （2） 参考文献	（1）「はじめてのパリー新・改訂版」，大津俊克他著，朝日出版社 （2）特に必要としない		
授業スケジュール	第１回～第３回　あいさつの表現，名詞，冠詞，縮約冠詞 第４回～第６回　主語人称代名詞，être，所有形容詞 第７回～第９回　提示の表現，avoir，形容詞 第１０回～第１２回　第一群規則動詞，否定文 第１３回～第１４回　人称代名詞強勢形，il y a 第１５回　試験		
成績評価の方法	筆記試験（期末試験）（100%）		

授業科目	**フランス語Ⅱ**	担当者	小澤　晃
	〔履修年次〕英語英文学専攻は１年次，生活科学科は２年次　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	フランス語は国際語としてきわめて重要な言語の一つであり，世界の各地で外国語として広く学習されている。系統的にはラテン語の子孫であるから，スペイン語，イタリア語，ポルトガル語などとは姉妹語の関係にあり，これらとは実際よく似ている。また１１世紀に英語に多数の語彙をもたらしたため，英語ともきわめて類似点が多い。 この授業ではゆっくりとしたスピードで，フランス語の発音・綴字の読み方，初歩的な文法と単語，日常的な会話表現などを学習する。それと並行して，フランスの社会や文化についても解説する。		
（1） テキスト （2） 参考文献	（1）「はじめてのパリー新・改訂版」，大津俊克他著，朝日出版社（「フランス語Ⅰ」からの継続使用） （2）特に必要としない		
授業スケジュール	第１回～第３回　指示形容詞，疑問文，prendre 第４回～第６回　非人称構文，aller，venir，疑問形容詞 第７回～第９回　中性代名詞，命令法，faire，疑問副詞 第１０回～第１２回　疑問代名詞，補語人称代名詞，finir 第１３回～第１４回　複合過去形，比較級，最上級 第１５回　試験		
成績評価の方法	筆記試験（期末試験）（100%）		

授業科目	中国語Ⅰ(A)	担当者	未定
	〔履修年次〕1年　〔学期〕前期 〔単位〕1単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概　要】 【到達目標】		
（1）テキスト （2）参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

(注) 日本語日本文学専攻
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(B)	担当者	尾崎　孝宏
	〔履修年次〕1年　〔学期〕前期 〔単位〕1単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　中国語と中国について学ぶ (1) 【概　要】 中国の経済発展にともない，今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く，旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では，一人で中国に行った場合でも，基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として，簡単な文型を学習します。 【到達目標】　中国語検定準4級程度（後期終了時の目標）		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一歩』（白水社） （2）　辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第1回　イントロダクション，声調，短母音 第2回　子音，複合母音，-n，-ng を伴う母音 第3回　簡単な挨拶，自分の名前を中国音で読む 第4回　決まり文句 第5回　第1課 (1) 第6回　第1課 (2) 第7回　第2課 (1) 第8回　第2課 (2) 第9回　第3課 (1) 第10回　第3課 (2) 第11回　第4課 (1) 第12回　第4課 (2) 第13回　第5課 (1) 第14回　第5課 (2) 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験（50%），授業への参加状況（50%）		

(注) 日本語日本文学専攻，英語英文学専攻
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(C)	担当者	尾崎　孝宏
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　中国語と中国について学ぶ (1) 【概　要】 中国の経済発展にともない，今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く，旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では，一人で中国に行った場合でも，基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として，簡単な文型を学習します。 【到達目標】　中国語検定準４級程度（後期終了時の目標）		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一歩』（白水社） （2）　辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第１回　イントロダクション，声調，短母音 第２回　子音，複合母音，-n，-ng を伴う母音 第３回　簡単な挨拶，自分の名前を中国音で読む 第４回　決まり文句 第５回　第1課 (1) 第６回　第1課 (2) 第７回　第2課 (1) 第８回　第2課 (2) 第９回　第3課 (1) 第10回　第3課 (2) 第11回　第4課 (1) 第12回　第4課 (2) 第13回　第5課 (1) 第14回　第5課 (2) 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験（50%），授業への参加状況（50%）		

(注) 経済専攻
(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(D)	担当者	中筋　健吉
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初級中国語の学習を行います。 【概　要】 中国語Ⅰではまず基本的な中国語の発音を学び，その後テキストに従って文法，会話を勉強します。毎回小テストを行いますので，頑張ってください。なお，中国事情や文化の理解のために，適宜中国文化紹介ＤＶＤや，期間中１回は中国映画を鑑賞する予定です。 【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）戸沼市子他『縁日はとてもにぎやか』（スリム版）（郁文堂）		
授業スケジュール	第1回　発音篇　Ⅰ～Ⅱ　中国語の声調，単母音，複母音，-n,-ng 第2回　発音篇　Ⅲ　中国語のそり舌音　z(i) c(i) s(i)の音 第3回　発音篇　Ⅳ　音節表―ピンイン読みのおさえどころ　声調変化 第4回　～第5回　本文篇　第1課　庙会很热闹……述語が形容詞の文　“吗”と“不” 第6回　～第7回　本文篇　第2課　买东西……動詞述語文，疑問詞疑問文　“…的” 第8回　～第9回　本文篇　第3課　他们都是留学生……“是”と所有の“有”　反復疑問文　量詞 第10回～第11回　本文篇　第4課　天坛在哪儿……所在の“在”と存在の“有”　選択疑問文“几”と“多少“ 第12回～第13回　本文篇　第5課　他会开车……助動詞－可能　願望　義務　連動文 第14回　まとめと映画鑑賞 第15回　試験 ＊状況に応じてスケジュールを変更することがあります。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）		

(注) 経営情報専攻
(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(E)	担当者	三木　夏華
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース 【概　要】 中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりマスターし，基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。 【到達目標】 １　ピンインが読めるようになる。 ２　自己紹介など簡単な会話能力を身につける。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）「始めよう！中国語」　白水社　南雲智，趙暉　著 （2）　授業で紹介する		
授業スケジュール	第１回　発音　声調 第２回　〃 第３回　人称代名詞　指示代名詞 第４回　疑問詞 第５回　名詞判断文 第６回　動詞　助動詞 第７回　“的”について 第８回　形容詞述語文 第９回　助動詞 第10回　日付　曜日　時刻の言い方 第11回　“有”構文 第12回　“在”構文 第13回　比較文 第14回　反復疑問文 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験５０％　＋　授業での発言内容，復習・課題の状況　５０％		

(注) 経済専攻，経営情報専攻
(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(F)	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】単語で作文Ⅰ 【概　要】1 回に 25 個ほどの単語を覚えてきてもらい，それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして，書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば，外国語もそれほど難しくはないものです。 もちろん外国語ですから最初は発音から入り，それから徐々に単語を増やしていきます。そのほか，理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。 中国を知ろう，中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき，中国語ははじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため，中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】中国語検定準４級，漢語水平考試 HSK 基礎１級程度に１年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準４級』アルク		
授業スケジュール	第１回　授業の進め方について 第２回　発音 (1)　声調と母音 第３回　発音 (2)　子音 第４回　発音 (3)　発音のまとめ 第５回　発音 (4)　表記の規則 第６回　作文 (1)　名前 (1) 第７回　作文 (2)　名前 (2) 第８回　作文 (3)　数字 (1) 第９回　作文 (4)　数字 (2) 第10回　作文 (5)　簡単な動詞 (1) 第11回　作文 (6)　簡単な動詞 (2) 第12回　作文 (7)　意思表示 (1) 第13回　作文 (8)　意思表示 (2) 第14回　作文 (9)　意思表示 (3) 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト 50%，定期試験 50%		

(注) 食物栄養専攻
(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(G)	担当者	中筋　健吉
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初級中国語の学習を行います。 【概　要】 中国語Ⅰではまず基本的な中国語の発音を学び，その後テキストに従って文法，会話を勉強します。毎回小テストを行いますので，頑張ってください。なお，中国事情や文化の理解のために，適宜中国文化紹介ＤＶＤや，期間中１回は中国映画を鑑賞する予定です。 【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）戸沼市子他『縁日はとてもにぎやか』（スリム版）（郁文堂）		
授業スケジュール	第１回　発音篇　Ⅰ～Ⅱ　中国語の声調，単母音，複母音，-n,-ng 第２回　発音篇　Ⅲ　中国語のそり舌音　z(i) c(i) s(i)の音 第３回　発音篇　Ⅳ　音節表―ピンイン読みのおさえどころ　声調変化 第４回　～第５回　本文篇　第１課　庙会很热闹……述語が形容詞の文　“吗”と“不” 第６回　～第７回　本文篇　第２課　买东西……動詞述語文，疑問詞疑問文　“…的” 第８回　～第９回　本文篇　第３課　他们都是留学生……“是”と所有の“有”　反復疑問文　量詞 第10回～第11回　本文篇　第４課　天坛在哪儿……所在の“在”と存在の“有”　選択疑問文“几”と“多少“ 第12回～第13回　本文篇　第５課　他会开车……助動詞ー可能　願望　義務　連動文 第14回　まとめと映画鑑賞 第15回　試験 ＊状況に応じてスケジュールを変更することがあります。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）		

(注) 生活科学専攻
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(H)	担当者	陳　躍
	〔履修年次〕１，２年（注）　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概　要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち，70分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ基礎１級程度。前期はその前半部分の学習に当てる		
（1）テキスト （2）参考文献	テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社		
授業スケジュール	第 1回　我是上海人 第 2回　我叫王平 第 3回　这里是南京路 第 4回　现在几点了? 第 5回　今天是星期几? 第 6回　你家有几口人? 第 7回　没关系（映画） 第 8回　香港的夏天热吗?（映画） 第 9回　四川菜很好吃 第10回　我经常散步 第11回　牌价是多少? 第12回　汉语难不难? 第13回　我没吃蒜 第14回　我想去超市 第15回　テスト		
成績評価の方法	評価割合を定期試験５０%にする。　残り５０%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は１年次，生活科学科は２年次
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	未定
	〔履修年次〕1年　〔学期〕後期 〔単位〕1単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概　要】 【到達目標】		
（1）テキスト （2）参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

(注) 日本語日本文学専攻
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(B)	担当者	尾崎　孝宏
	〔履修年次〕1年　〔学期〕後期 〔単位〕1単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　中国語と中国について学ぶ (2) 【概　要】 前期に引き続き，本授業では，一人で中国に行った場合でも，基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では，日常的に良く使う文型を中心に，表現の幅を広げます。また，単に中国語を勉強するだけでなく，DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。 【到達目標】　中国語検定準4級程度（後期終了時の目標）		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一歩』（白水社） （2）　辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第 1回　前期試験の解説など 第 2回　第6課 (1) 第 3回　第6課 (2) 第 4回　第7課 (1) 第 5回　第7課 (2) 第 6回　第8課 (1) 第 7回　第8課 (2) 第 8回　第9課 (1) 第 9回　第9課 (2) 第10回　第10課 (1) 第11回　第10課 (2) 第12回　第11課 (1) 第13回　第11課 (2) 第14回　第12課 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験（50%），授業への参加状況（50%）		

(注) 日本語日本文学専攻，英語英文学専攻
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(C)	担当者	尾崎　孝宏
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　中国語と中国について学ぶ（2） 【概　要】 前期に引き続き，本授業では，一人で中国に行った場合でも，基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では，日常的に良く使う文型を中心に，表現の幅を広げます。また，単に中国語を勉強するだけでなく，DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。 【到達目標】　中国語検定準４級程度（後期終了時の目標）		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一歩』（白水社） （2）　辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第１回　前期試験の解説など 第２回　第６課（1） 第３回　第６課（2） 第４回　第７課（1） 第５回　第７課（2） 第６回　第８課（1） 第７回　第８課（2） 第８回　第９課（1） 第９回　第９課（2） 第10回　第10課（1） 第11回　第10課（2） 第12回　第11課（1） 第13回　第11課（2） 第14回　第12課 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験（50%），授業への参加状況（50%）		

（注）経済専攻
（注）受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(D)	担当者	中筋　健吉
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初級中国語の学習を行います。 【概　要】 中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく，テキストに従って，さまざまな文法，会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介ＤＶＤや中国映画（１回）を鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準４級，漢語水平考試ＨＳＫ基礎１級程度の中国語能力習得を目指します。		
（1）テキスト （2）参考文献	（１）戸沼市子他『縁日はとてもにぎやか』（スリム版）（郁文堂）		
授業スケジュール	第１回　前期の復習と後期のウォーミングアップ 第２回 ～第３回　本文篇　第６課　正在开会呢……進行と完了　前置詞“给“　二重目的語をとる動詞 第４回 ～第５回　本文篇　第７課　桃太郎没坐过飞机……経験　比較　前置詞“在”“离”“从ー到ー” 第６回 ～第７回　本文篇　第８課　二胡拉得很不错……状態の持続　様態の描写（様態補語） 第８回　中国文化紹介ＤＶＤ　＆　中国茶会 第９回 ～第10回　本文篇　第９課　他的病治好了……方向・結果の複合動詞　前置詞“把” 第11回～第12回　本文篇　第10課　快要过年了……“快要…了”　“是…的” 第13回　中国映画鑑賞 第14回　まとめと後期の復習 第15回　試験 ＊状況に応じてスケジュールを変更することがあります。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）		

（注）経営情報専攻
（注）受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(E)	担当者	三木　夏華
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 前期の中国語Ⅰに続く入門コース 【概　要】 前期に引き続き，中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。 同時に道のたずね方，買い物の仕方など，日常生活で不可欠な表現を身につける。 【到達目標】 中国語検定準４級までを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）「始めよう！中国語」　白水社　南雲智，趙暉　著 （2）　授業で紹介する		
授業スケジュール	第１回　前置詞１ 第２回　完了表現 第３回　動詞の重ね型 第４回　様態補語 第５回　連動文 第６回　経験を表す表現 第７回　前置詞２ 第８回　１～７回までの復習 第９回　選択疑問文 第10回　動詞の進行を表す表現 第11回　状態の持続を表す表現 第12回　結果補語 第13回　方向補語 第14回　９～１３回までの復習 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験５０％　＋　授業での発言内容，復習・課題の状況　５０％		

(注) 経済専攻，経営情報専攻
(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(F)	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】単語で作文Ⅱ 【概　要】１回に 25 個ほどの単語を覚えてきてもらい，それを使って作文をします。やや複雑な文にして，基本的に書かずに口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず，相手に気持ちを伝えることを大切にします。 作文のほか，理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。 中国を知ろう，中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき，中国語ははじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため，中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】中国語検定準４級，漢語水平考試 HSK 基礎１級程度に１年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準４級』アルク		
授業スケジュール	第１回　作文 (1)　疑問詞 (1) 第２回　作文 (2)　疑問詞 (2) 第３回　作文 (3)　“～の” (1) 第４回　作文 (4)　“～の” (2) 第５回　作文 (5)　場所 (1) 第６回　作文 (6)　場所 (2) 第７回　作文 (7)　状態 (1) 第８回　作文 (8)　状態 (2) 第９回　作文 (9)　状況 (1) 第10回　作文 (10)　状況 (2) 第11回　作文 (11)　介詞 (1) 第12回　作文 (12)　介詞 (2) 第13回　作文 (13)　１年間の復習 (1) 第14回　作文 (14)　１年間の復習 (2) 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト 50%，定期試験 50%		

(注) 食物栄養専攻
(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(G)	担当者	中筋　健吉
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初級中国語の学習を行います。 【概　要】 中国語Ｉで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく，テキストに従って，さまざまな文法，会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介ＤＶＤや中国映画（１回）を鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準４級，漢語水平考試ＨＳＫ基礎１級程度の中国語能力習得を目指します。		
（１）テキスト （２）参考文献	（１）戸沼市子他『縁日はとてもにぎやか』（スリム版）（郁文堂）		
授業スケジュール	第１回　前期の復習と後期のウォーミングアップ 第２回 ～第３回　本文篇　第６課　正在开会呢……進行と完了　前置詞“给“　二重目的語をとる動詞 第４回 ～第５回　本文篇　第７課　桃太郎没坐过飞机……経験　比較　前置詞“在”“离”“从ー到ー” 第６回 ～第７回　本文篇　第８課　二胡拉得很不错……状態の持続　様態の描写（様態補語） 第８回　中国文化紹介ＤＶＤ　＆　中国茶会 第９回 ～第10回　本文篇　第９課　他的病治好了……方向・結果の複合動詞　前置詞“把” 第11回～第12回　本文篇　第10課　快要过年了……“快要…了”　“是…的” 第13回　中国映画鑑賞 第14回　まとめと後期の復習 第15回　試験 ＊状況に応じてスケジュールを変更することがあります。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）		

(注) 生活科学専攻
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(H)	担当者	陳　躍
	〔履修年次〕１，２年（注）　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概　要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち，70分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ基礎１級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。		
（１）テキスト （２）参考文献	テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社		
授業スケジュール	第 １回　来我家玩吧 第 ２回　我打算去旅行 第 ３回　没看过，听过 第 ４回　我能参加 第 ５回　我记一下 第 ６回　我们边走边谈 第 ７回　好像借给小李了（中間テスト） 第 ８回　我不会打日文（映画） 第 ９回　你知道号码吗？（映画） 第10回　什么都可以 第11回　被谁偷走了呢? 第12回　让你久等了 第13回　有没有单间? 第14回　我说得不好 第15回　テスト		
成績評価の方法	評価割合を定期試験５０%にする。　残り５０%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は１年次，生活科学科は２年次
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅲ	担当者	未定
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概　要】 【到達目標】		
（1）テキスト （2）参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

（注）生活科学科を除く

授業科目	中国語Ⅳ	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】単語で作文＋長文読解 【概　要】作文と長文読解を組み合わせて，中国語の応用力を高めます。 作文，長文読解のほか，理解度を確認するため筆記の小テストを数回実施します。 中国を知ろう，中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき，中国語ははじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため，中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】中国語検定４級レベル，漢語水平考試HSK 基礎２級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。		
⑴ テキスト ⑵ 参考文献	⑴ プリントを配布します。 ⑵ 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策４級』アルク		
授業スケジュール	第１回　授業の進め方について 第２回　復習（1） 第３回　復習（2） 第４回　復習（3） 第５回　長文読解（1） 第６回　長文読解（2） 第７回　作文（1）動作の方向 第８回　作文（2）強制と恩恵 第９回　長文読解（3） 第10回　長文読解（4） 第11回　作文（3）介詞いろいろ 第12回　作文（4）やり方 第13回　長文読解（5） 第14回　長文読解（6） 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト 50%，定期試験 50%		

（注）生活科学科を除く

３　教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	**スポーツ・健康論**	担当者	瀬戸口　照夫
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会において，健康問題が取り上げられているが，その原因を追求する。そして，人びとの運動不足が生活習慣病を引き起こす要因の一つになっていることをデータに基づいて確認する。そして，人間と身体活動の関係をスポーツ人類学的に理解することを目指す。 【概　要】健康を維持する為にいかなる方策があるかを講じ，運動不足が生活習慣病の原因の一つであることを講じる。また，スポーツがその原初形態において人類にとって必要不可欠なものであったことを講じる。 【到達目標】健康な生活を維持する為の方策を理解すること。また，人類史的にスポーツの原初形態が何であったかを理解すること。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）未定 （2）プリント		
授業スケジュール	第１回　健康とは何か健康概念の変遷 第２回　健康問題と現代社会 第３回　運動と心の健康 第４回　スポーツの起源と伝播 第５回　スポーツと身体の文化 第６回　スポーツと神話・儀礼・宗教 第７回　スポーツと文化化・教育 第８回　まとめとテスト		
成績評価の方法	筆記試験（80%）＋　レポート（20%）		

（注）食物栄養専攻を除く。7.5回。

授業科目	**生涯スポーツ実習Ⅰ（A, B）**	担当者	徳田　修司
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり，仲間づくり 【概　要】ラケットスポーツとして本授業ではテニスをとりあげ，ダブルスのゲームが出来るようになることを目標として段階的に学習していく。このような学習課程の中で体力の必要性，仲間との上手な協力関係を学び，実生活でも応用できるようになることを目指す。 【到達目標】ダブルスのゲームが出来ること。試合の進め方，ルールを覚える。ラケットスポーツを通した，健康・体力づくり，仲間づくりの方法を修得する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）特に必要なし （2）必要なし ※必要に応じて，資料は配付する。		
授業スケジュール	第 1回：グループ分け。ボール投げとキャッチ。ラケットでのボール打ち。 第 2回～4回：ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとストローク（フォアとバック）。 第 5回～7回：ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとボレー（フォアとバック）。 第 8回～11回：ネットを挟んでのボール出しとストローク・ボレー（距離や強弱，正確性のコントロール技術）。 ※この段階からミニコートでの試合を経験する。 第12回：サーブを打ってみる。いろいろな打ち方で，正確に打つこと，サーブを正確にリターンすることなどを学ぶ。 第13回～14回：正式のコートの広さで，ルールに基づいてダブルスのゲームに挑戦する。審判が出来るようになる。 第15回：授業のまとめと評価		
成績評価の方法	技術の上達度（60～80%），出席状況や授業への取り組み状況（20～40%）		

（注）文学科

授業科目	**生涯スポーツ実習Ⅰ（C, D, E, F）**	担当者	瀬戸口　照夫・西迫　貴美代
	〔履修年次〕 1年　　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　　〔必修／選択〕必修（注）　　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】学生の身体運動の減少は，健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって，将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得が目標である。 【概　要】実技では，今まで実習したことのない種目を選定し，特に，ゴルフと硬式テニスを課す。 【到達目標】ゴルフの打法とアプロ　　ーチの実践ができること。，硬式テニスでは，サーブが確率的に高く入るゲームが出来るようになることが最終目標である。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1) 2種目のビデオ，指導教本や技術書の抜粋プリントと各種目のルール集		
授業スケジュール	第1回：ゴルフの概要 ・ゴルフの歴史やゲームの方法，各クラブの機能の説明，練習上の注意事項 第2回： ショートアイアンの打法の解説と実践 ・9,7番アイアンの打法とグリップの習得 第3回：ミドルアイアンの打法の解説 ・前回のショートアイアンの復習と5番アイアンの打法の解説と実践 第4回：フェアーウエイクラブの打法 ・スプーンとクリークの打法の解説と実践 第5回：ドライバーの打法 ・ 今までのクラブの打法とドライバーの打法の違いの概説と実践 第6回：アプローチの実践 ・ ショートアイアンによる実践 第7回：アプローチのゲーム ・打数によるゲーム 第8回：テニスの概要 ・テニスの歴史とゲームに必要な打法の解説 第9回： フォアハンドストロークの解説と練習 ・グリップの説明。送り出されたボールをフォアサイドで打ち返す練習 第10回：バックハンドストロークの解説と練習 ・グリップの説明。送り出されたボールをバックサイドで打ち返す練習 第11回：サーブの練習 ・フォアハンド，バックハンドストロークの練習とアンダーサーブの練習 第12回：ダブルスゲームの解説とゲーム ・フォメーションの説明とゲーム 第13回：シングルスゲームの解説とゲーム ・フォメーションの説明とガーム 第14回：ダブルスゲーム ・ 第15回：まとめと技術評価		
成績評価の方法	技術評価（60%）＋練習ノート（40%）を基準に，総合的に評価する。		

(注) 生活科学科，商経学科

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ（A，B，C，D）	担当者	瀬戸口　照夫・西迫　貴美代
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕後期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】学生の身体運動の減少は，健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得を目標とする。 【概　要】卓球，バレーボール，バドミントン等の種目から一種目を選択し実習する 【到達目標】**卓球**：カットサーブから始まるゲームができること，　**バドミントン**：ショート，ロングサーブを使い分けてゲームができること　**バレーボール**：誰もがアタックを打ち，チームフォーメーションが理解できること		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)　各種目のビデオ （2）		

授業スケジュール

回数／教材	卓球	バドミントン	バレーボール
1	オリエンテーション・準備，後片づけの確認（安全な使用）　・グループ分け（リーダ決定，グループノート活用について）・試しのゲーム　・次週の計画を立てる		
2	卓球に技術について（様々な打法の理解と上回転の練習）	バドミントンの技術について　（様々な打法の理解とハイクリアーの練習）	バレーボールの技術について（Aアタックから：アタックのイメージの転換）
3	様々な打法の練習(1) 上回転と下回転の理解と練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習(1)（ハイクリアー・スマッシュ・簡易ゲーム）	Aクイックの習熟(1) トスの高さとジャンプのタイミングを意識化→2:2→3:3
4	様々な打法の練習(2) (1)の練習に加えてスマッシュ練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習(2)（ハイクリアー・スマッシュ・ドロップ・簡易ゲーム）	A クイックの習熟(2)（トスの場所の変化→2:2→3:3 簡易ゲーム）
5	様々な打法の練習(3) (2)の練習に加えてサーブの練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習−３（ハイクリアー・スマッシュ・ドロップ・ドライブ・ヘアピン・簡易ゲーム）	A クイックの習熟(3)（トスの場所，高さの変化→2:2→3:3 簡易ゲーム）・投げいれサーブ，キャッチングレシーブ
6	様々な打法の練習(4) (3)の練習に加えてカットサーブのリターン練習・ゲーム	シングルゲームの解説とゲーム（リーグ戦）→ゲーム結果をもとにチーム分け	アタックの習熟とブロックの解説と練習（3:3→6:6 簡易ゲームへ）
7	シングルスゲームの解説とゲーム(1)	ダブルスゲーム解説とゲーム（二人のコンビネーションについての課題の発見）（1）	アタックレシーブの場所，アンダーパスの方法の解説（3:3→6:6 簡易ゲームへ）
8	シングルスゲーム（2）	ダブルスゲーム（2）	ゲーム（ポジション決定）
9	ダブルスゲームの解説とゲーム（1）	コンビネーションの解説と練習→ダブルスゲーム（チーム内リーグ戦）	セッターの決定とアタックとサーブのレシーブの違いの解説と練習・サーブ練習
10	ダブルスゲーム（2）	チーム対抗ゲーム(1)（シングルス，ダブルス混合）	ゲーム ポジションの確認と作戦
11	チーム対抗ゲームの解説とゲーム(1)	チーム対抗ゲーム(2) データを元に作戦を立てる	フォーメーションの解説とチーム作戦を立てゲームをする
12	チーム対抗ゲーム(2)	チーム対抗ゲーム(3)	チーム対抗ゲーム(1)
13	チーム対抗ゲーム(3)	チーム対抗ゲーム(4)	チーム対抗ゲーム(2)
14	チーム対抗ゲーム(4)	チーム対抗ゲーム(5)	チーム対抗ゲーム(3)
15	まとめと技術評価	まとめと技術評価	まとめと技術評価

成績評価の方法	技術評価（60%）＋練習ノート（40%）を基準に，総合的に評価する。

（注）文学科，生活科学科

授業科目	**生涯スポーツ実習Ⅱ（E，F）**	担当者	徳田　修司
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】スポーツと体力・運動能力づくり／健康づくり 【概　要】前期の実習Ⅰを踏まえ，後期には前半７回と後半７回（まとめ：１回）の中で２種類の異なるスポーツを選択し，グループ学習を通して技術やゲームの進め方を学習する。卓球，バトミントン，バレーボール，バスケットボールなどの中から２種目選択し，ゲーム中心に進めていく。 【到達目標】選択したスポーツの基礎的な技術の習得と試合の進め方，戦術，作戦の立て方，パートナーやチームの協力のあり方などを学習し，楽しくより高度にゲームを進められるようになることを目指す。勝敗よりも楽しさや協力の大切さに主眼を置き，練習の過程とグループ（ペア）の協力の重要性を学ぶ。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）特に必要なし （2）必要なし ※必要に応じて，資料は配付する。		
授業スケジュール	第 1回：1回目グループ編成。実習ノートと担当者の決定。セッティングの説明。 第 2回：準備運動，種目による基礎技術の練習，試合の進め方，練習ゲーム。 第 3回：準備運動，種目による基礎技術の練習，審判の行い方，練習ゲーム。 第 4回：準備運動，種目による基礎技術の練習，シングルスのゲーム。 第 5回：準備運動，種目による応用技術の練習，ダブルスのゲーム。 第 6回：準備運動，種目による応用技術の練習，正式のコート，ルールでのゲーム。 第 7回：準備運動，ダブルスゲームによる総当たりのゲーム。 第 8回：2回目のグループ編成（前半と異なる種目を選択すること），実習ノートと担当者の決定，セッティング。 第 9回：準備運動，種目による基礎技術の練習，試合の進め方，練習ゲーム。 第10回：準備運動，種目による基礎技術の練習，審判の行い方，練習ゲーム。 第11回：準備運動，種目による基礎技術の練習，シングルスのゲーム。 第12回：準備運動，種目による応用技術の練習，ダブルスのゲーム。 第13回：準備運動，種目による応用技術の練習，正式のコート，ルールでのゲーム。 第14回：準備運動，ダブルスによる総当たりのゲーム。 第15回：授業のまとめと評価		
成績評価の方法	技術の上達度・試合の進め方（60～80%），出席状況や授業への取り組み状況（20～40%）		

（注）商経学科

４　教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシーⅠ(A)	担当者	刈屋　美枝子
	〔履修年次〕1年　〔学期〕前期 〔単位〕1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターする。 【概　要】基本的な使い方から始まり，電子メール，インターネット，ワープロ，画像処理，プレゼンテーション等，学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。 【到達目標】取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし，日常的にパソコンが身近なものとなる。		
(1)　テキスト (2)　参考文献	(1)　なし (2)　随時，資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回　電子メールにおける文書処理（1） 第2回　授業前アンケート（パソコン使用歴，授業への希望など） 第3回　Windowsパソコンの基本的な使い方 第4回　電子メールにおける文書処理（2） 第5回　パソコンによる効率的な検索 第6回　MS-WORDによるワープロ実習（1） 第7回　MS-WORDによるワープロ実習（2） 第8回　画像ファイルの扱い方･･･ペイント 第9回　画像ファイルの扱い方･･･スキャナー・デジカメ 第10回　画像を利用した文書作り（1） 第11回　画像を利用した文書作り（2） 第12回　表計算ソフトExcel 第13回　プレゼンテーション･ソフトウェアPowerPoint 第14回　総復習 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験（1：1）の結果を合せて評価		

(注) 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅠ(B)	担当者	刈屋　美枝子
	〔履修年次〕1年　〔学期〕前期 〔単位〕1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターする。 【概　要】基本的な使い方から始まり，電子メール，インターネット，ワープロ，画像処理，プレゼンテーション等，学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。 【到達目標】取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし，日常的にパソコンが身近なものとなる。		
(1)　テキスト (2)　参考文献	(1)　なし (2)　随時，資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回　電子メールにおける文書処理（1） 第2回　授業前アンケート（パソコン使用歴，授業への希望など） 第3回　Windowsパソコンの基本的な使い方 第4回　電子メールにおける文書処理（2） 第5回　パソコンによる効率的な検索 第6回　MS-WORDによるワープロ実習（1） 第7回　MS-WORDによるワープロ実習（2） 第8回　画像ファイルの扱い方･･･ペイント 第9回　画像ファイルの扱い方･･･スキャナー・デジカメ 第10回　画像を利用した文書作り（1） 第11回　画像を利用した文書作り（2） 第12回　表計算ソフトExcel 第13回　プレゼンテーション･ソフトウェアPowerPoint 第14回　総復習 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験（1：1）の結果を合せて評価		

(注) 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅠ（C）	担当者	青山　究
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】ワードプロセッサソフト（Microsoft Word，以下 Word）と表計算ソフト（Microsoft Excel，以下 Excel）が使えるようになること 【概要】Word, Excel が使えることは，いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である．この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となる Word を，実習を通して使えるようにする． 【到達目標】高度な知識や能力を要求するわけではない．日常で必要となった時，利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Word や Excel を利用できるようになって欲しい．つまり，各種ビラ，授業のレポート，あるいは卒業研究の報告所などを作成する際に必要に応じて Word や Excel を活用できようになることを目標とする．		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）実教出版編集部著「３０時間でマスター Windows7 対応 Word & Excel 2010」実教出版 USB フラッシュメモリを用意すること． （2）特に指定しないが Word や Excel の入門書，解説書なら何でも参考になる．		
授業スケジュール	第 1回　タッチタイピング： 第 2回　Windows 7 入門：画面構成，アプリケーションソフトの起動と終了，タスクバー，エクスプローラ 第 3回　日本語入力１：日本語入力設定，文字の入力，漢字変換 第 4回　Word 入門：起動と終了，画面構成 第 5回　日本語入力２：文章入力，入力の訂正 第 6回　日本語入力３：特殊な入力方法，各種辞書 第 7回　文書の作成１：ページ設定，ファイルの保存・読み込み，印刷のページ設定 第 8回　文書の作成２：複写，削除，移動 第 9回　文書編集：左右揃え，中央揃え，箇条書き 第 10 回　文書編集：フォント・フォントサイズの変更，下線 第 11 回　文書編集：表の作成，均等割付，文字の網掛け 第 12 回　表の編集：行・列の挿入削除，セル結合 第 13 回　ビジュアル：ワードアート，クリップアート，ページ罫線 第 14 回　アプリケーション間のデータ活用：Word 文書への Excel データ活用，Web データ活用，新機能など 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	授業中に課される演習問題（50%）＋実技試験（50%）		

（注）食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅠ（D）	担当者	遠矢　守
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得 【概　要】 現代人にとってコンピュータとインターネットなどは，情報の収集，分析（解決），情報の発信のための重要な道具となっている。本授業では，これらを利用した「情報活用技術」の基礎について実際にコンピュータを操作しながら学ぶことにする。 コンピュータの仕組みや Windows の基本的事項の学習から始め，インターネット（メール，情報検索）や応用ソフト（ワープロ，表計算ソフト）に関して，これからの社会で生き抜く上で修得しておくべき事項について学習し体得する。 【到達目標】 現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能を獲得する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）なし（ただし，必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのため USB メモリなどを毎回準備すること） （2）なし		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（授業の方針・目標，受講上の注意），コンピュータの仕組みと簡単な操作 第 2回　タッチタイピング，Windows の基本的操作，保存メディア，ショートカットキー 第 3回　日本語入力（部分確定・文節の切り替え，文字列の編集加工，単語登録，再変換など），簡単なファイル処理 第 4回　Word による文書作成１（Word の基礎） 第 5回　電子メールの仕組み，ファイル添付，メールに関する情報モラル 第 6回　Web を利用した情報検索の方法１，ブラウザの効果的操作方法 第 7回　Web を利用した情報検索の方法２，調査事項の文書化 第 8回　ネット犯罪とセキュリティ 第 9回　ペイント系ソフトの技法，絵入り文書の作成など 第 10 回　Word による文書作成２（図形描画ツールに関する技法） 第 11 回　Word による文書作成３（表，インデント，段組み，Word のショートカットキー） 第 12 回　Excel の基礎１（簡単な縦横計算） 第 13 回　Excel の基礎２（簡単なグラフ作成，Word 文書への表やグラフの貼り付け） 第 14 回　簡単なファイルの整理（ファイルの概念，フォルダの概念） 第 15 回　期末試験		
成績評価の方法	期末試験（100%）の結果による。なお，課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

（注）生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅠ(E)	担当者	永仮　ゆかり
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概　要】 情報機器を活用し，文字の入力から文書の作成，編集，保存，印刷などの基本操作をはじめ，表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また，あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。 使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし，Word の基本操作も習得する。 【到達目標】 タッチタイピングの習得，基本的な文書作成能力の習得		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　富士通オフィス機器株式会社（著）『よくわかる初心者のための Word 2007』FOM 出版 （2）		
授業スケジュール	第 1 回　パソコンの基本操作・・概要説明，起動と終了，ウィンドウ操作，Word の画面構成 第 2 回　文字の入力・・・・・・キータッチ練習，文字の入力・訂正・削除・変換 第 3 回　文章の入力・・・・・・キータッチ練習，文章の入力（分節単位の変換，一括変換） 第 4 回　文書の作成・・・・・・ビジネス文書の構成について，ページ設定，文章の入力，コピーと移動，保存 第 5 回　文書の編集・・・・・・文書の書き方について，文字の配置，書式設定（フォント，サイズ変更，太字など） 第 6 回　通知状の作成・・・・・課題文書作成（通知状），印刷 第 7 回　表の作成・・・・・・・文書管理について，表の挿入，表への文字入力，表の選択 第 8 回　表の編集・・・・・・・行の挿入・削除，列幅変更，表内の文字の配置，網掛け，線種変更 第 9 回　表の活用・・・・・・・課題文書作成（表を含む文書） 第 10 回　図形描画・・・・・・・図解について，図形描画を使った地図の作成 第 11 回　案内状の作成・・・・・課題文書作成（案内状） 第 12 回　画像の利用・・・・・・クリップアートの挿入，ワードアートの挿入，図の挿入 第 13 回　チラシの作成・・・・・課題文書作成（チラシ） 第 14 回　総合復習・・・・・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験（知識科目 20%＋実技科目 60%）＋授業ごとに実施する課題（20%）		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシーⅠ(F)	担当者	永仮　ゆかり
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕前期 〔単位〕 1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概　要】 情報機器を活用し，文字の入力から文書の作成，編集，保存，印刷などの基本操作をはじめ，表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また，あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。 使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし，Word の基本操作も習得する。 【到達目標】 タッチタイピングの習得，基本的な文書作成能力の習得		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　富士通オフィス機器株式会社（著）『よくわかる初心者のための Word 2007』FOM 出版 （2）		
授業スケジュール	第 1 回　パソコンの基本操作・・概要説明，起動と終了，ウィンドウ操作，Word の画面構成 第 2 回　文字の入力・・・・・・キータッチ練習，文字の入力・訂正・削除・変換 第 3 回　文章の入力・・・・・・キータッチ練習，文章の入力（分節単位の変換，一括変換） 第 4 回　文書の作成・・・・・・ビジネス文書の構成について，ページ設定，文章の入力，コピーと移動，保存 第 5 回　文書の編集・・・・・・文書の書き方について，文字の配置，書式設定（フォント，サイズ変更，太字など） 第 6 回　通知状の作成・・・・・課題文書作成（通知状），印刷 第 7 回　表の作成・・・・・・・文書管理について，表の挿入，表への文字入力，表の選択 第 8 回　表の編集・・・・・・・行の挿入・削除，列幅変更，表内の文字の配置，網掛け，線種変更 第 9 回　表の活用・・・・・・・課題文書作成（表を含む文書） 第 10 回　図形描画・・・・・・・図解について，図形描画を使った地図の作成 第 11 回　案内状の作成・・・・・課題文書作成（案内状） 第 12 回　画像の利用・・・・・・クリップアートの挿入，ワードアートの挿入，図の挿入 第 13 回　チラシの作成・・・・・課題文書作成（チラシ） 第 14 回　総合復習・・・・・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験（知識科目 20%＋実技科目 60%）＋授業ごとに実施する課題（20%）		

(注) 経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(A)	担当者	望月　正道
	〔履修年次〕1年　〔学期〕後期 〔単位〕1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】課題の探求・解決・表現（出力）のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。 【概　要】情報リテラシーは，専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに，セキュリティーやマナー，ルールといった知識を学び，情報化社会に対応する能力を身につける科目である。 Ⅱでは，Ⅰで学んだ基礎のうえにたち，その応用を図るともに，ネットワークの基本的仕組みと役割，ネットワーク利用において被害者，加害者とならないためのセキュリティー知識，ネットワーク上のマナー，著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス，情報化社会における社会とＩＴの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。 　なお，教職課程に関連して，中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。 【到達目標】情報機器を活用し，ネットを安全かつ効率的に利用することができる。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社		
授業スケジュール	第 1回　電子メールとネットワークセキュリティー，漢字コード 第 2回　ネットの仕組みと情報検索，文字エンコード 第 3回　マナーとコンプライアンス 第 4回　表計算ソフト　関数の利用 第 5回　表計算ソフト　グラフの作成 第 6回　表計算ソフトとワープロ文書の連携 第 7回　表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携 第 8回　Web による情報発信　ページの作成 第 9回　Web による情報発信　javascript と Web2.0 第10回　Web による情報発信　CSS，コンピュータでの色の扱い 第11回　Web による情報発信　アクセシビリティー 第12回　中学校における情報教育について 第13回　オープンソースとは 第14回　オープンソースの教育利用 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験（パソコンを使ってレポートを作成し，電子メールで提出する）の成績(80%)に，随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(B)	担当者	望月　正道
	〔履修年次〕1年　〔学期〕後期 〔単位〕1単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】課題の探求・解決・表現（出力）のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。 【概　要】情報リテラシーは，専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに，セキュリティーやマナー，ルールといった知識を学び，情報化社会に対応する能力を身につける科目である。 Ⅱでは，Ⅰで学んだ基礎のうえにたち，その応用を図るともに，ネットワークの基本的仕組みと役割，ネットワーク利用において被害者，加害者とならないためのセキュリティー知識，ネットワーク上のマナー，著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス，情報化社会における社会とＩＴの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。 　なお，教職課程に関連して，中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。 【到達目標】情報機器を活用し，ネットを安全かつ効率的に利用することができる。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社		
授業スケジュール	第 1回　電子メールとネットワークセキュリティー，漢字コード 第 2回　ネットの仕組みと情報検索，文字エンコード 第 3回　マナーとコンプライアンス 第 4回　表計算ソフト　関数の利用 第 5回　表計算ソフト　グラフの作成 第 6回　表計算ソフトとワープロ文書の連携 第 7回　表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携 第 8回　Web による情報発信　ページの作成 第 9回　Web による情報発信　javascript と Web2.0 第10回　Web による情報発信　CSS，コンピュータでの色の扱い 第11回　Web による情報発信　アクセシビリティー 第12回　中学校における情報教育について 第13回　オープンソースとは 第14回　オープンソースの教育利用 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験（パソコンを使ってレポートを作成し，電子メールで提出する）の成績(80%)に，随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 英語英文学専攻

授業科目	**情報リテラシーⅡ(C)**	担当者	青山　究
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】ワードプロセッサソフト（Microsoft Word，以下Word）と表計算ソフト（Microsoft Excel，以下Excel）が使えるようになること 【概要】Word, Excel が使えることは，いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である．この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となるExcel を，実習を通して使えるようにする． 【到達目標】高度な知識や能力を要求するわけではない．日常で必要となった時，利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Word や Excel を利用できるようになって欲しい．つまり，各種ビラ，授業のレポート，あるいは卒業研究の報告所などを作成する際に必要に応じてWordやExcel を活用できようになることを目標とする．		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）実教出版編集部著「３０時間でマスター Windows7 対応 Word & Excel 2010」実教出版 USB フラッシュメモリを用意すること． （2）特に指定しないがWordやExcel の入門書，解説書なら何でも参考になる．		
授業スケジュール	第 1回　タッチタイピング： 第 2回　Windows 7 入門：コントロールパネル，フォルダ，右クリック，ガジェット，ファイル検索，Internet Explorer 第 3回　日本語入力：日本語入力設定，文字の入力，漢字変換 第 4回　Excel 入門：起動と終了，画面構成 第 5回　データ入力：数値データの入力，文字列データの入力，ファイルの保存と読み込み 第 6回　ワークシートの編集：セルの挿入・削除，移動．コピー．データ修正，連番データの入力．数式入力 第 7回　ワークシートの書式設定：列幅・行高の変更，表示形式，文字の配置とフォント，罫線，塗りつぶし 第 8回　グラフ：グラフの作成，棒グラフ，円グラフ 第 9回　グラフ：系列の変更，数値軸目盛の変更，グラフ種類の変更，データ系列，軸ラベル．凡例，フォント，データラベル 第10回　関数の活用１：最大値(MAX)，最小値(MIN)，個数(COUNT)，順位付け(RANK)，四捨五入(ROUND) 第11回　関数の活用２：判定(IF)，条件集計(COUNTIF, SUMIF)，表の検索(VLOOKUP) 第12回　データベース機能１：ソート，フィルタ，条件付き書式，テーブル 第13回　データベース機能２：ピボットテーブル，クロス集計，レポートフィルタ 第14回　アプリケーション間のデータ活用：Word 文書への Excel データ活用，Web データ活用，新機能など 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	授業中に課される演習問題（50%）＋実技試験（50%）		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	**情報リテラシーⅡ(D)**	担当者	遠矢　守
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得 【概　要】 本科目は，情報リテラシーⅠから続くものでⅠと同じ授業方針で進める。 本科目Ⅱでは，Ⅰで学んだことをもとに，Ⅰより高度な Word や Excel のスキルの修得を目指す。さらに，デジタルプレゼンテーションやホームページ作成など情報発信に関するスキル修得を目指す。加えて，Word や Excel などオフィスソフトの機能を自分なりに拡張できるマクロプログラミング技法の基礎について紹介する。 【到達目標】 現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能を獲得する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）なし（ただし，必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのため USB メモリなどを毎回準備すること） （2）		
授業スケジュール	第１回　前期の復習 第２回　PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション１（文字だけのプレゼンテーション，テキストアニメーション） 第３回　PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション２（図・表・動画の活用，図やグラフのアニメーション） 第４回　PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション３（効果的プレゼンテーションとは） 第５回　Excel による縦横計算１（関数の利用１） 第６回　Excel による縦横計算２（関数の利用２，Excel のショートカットキー） 第７回　Excel による縦横計算３（演習） 第８回　Excel によるグラフ作成，グラフ入り文書の作成１ 第９回　Excel によるグラフ作成，グラフ入り文書の作成２ 第10回　Excel によるデータベース処理１ 第11回　Excel によるデータベース処理２ 第12回　エディタによるホームページの作成 第13回　ファイルの整理（ファイルの圧縮解凍），ＯＳの概念 第14回　マクロプログラミング入門 第15回　期末試験		
成績評価の方法	期末試験（100%）の結果による。なお，課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

(注) 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(E)	担当者	刈屋　美枝子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし，各種ソフトウェアに習熟する。 【概　要】情報リテラシーII（E）と（F）は，授業開始前にパソコン使用経験に応じて両クラスを合せてクラス編成する。基本的な使い方から始まり，電子メール，インターネット，画像処理，ファイル変換等，学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。 【到達目標】初心者クラスは，取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし，日常的にパソコンが身近なものとなること。経験者クラスは，基本レベルに習熟し，応用レベルまで使いこなせるようになること。		
(1)　テキスト (2)　参考文献	(1)　なし (2)　随時，資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第１回　授業前アンケート（パソコン使用歴，授業への希望など） 第２回　Windows パソコンの基本的な使い方 第３回　電子メール 第４回　ファイルの基本操作 第５回　パソコンによる効率的な検索 第６回　インターネット検索 第７回　画像ファイルの扱い方･･･ペイント 第８回　画像ファイルの扱い方･･･スキャナー・デジカメ 第９回　画像ファイルの扱い方･･･画像の加工・編集 第10回　画像を利用したワープロ文書作り（1） 第11回　画像を利用したワープロ文書作り（2） 第12回　ファイルの応用的処理･･･圧縮・解凍 第13回　インターネットの活用 第14回　総復習 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験（1：1）の結果を合せて評価		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(F)	担当者	刈屋　美枝子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし，各種ソフトウェアに習熟する。 【概　要】情報リテラシーII（E）と（F）は，授業開始前にパソコン使用経験に応じて両クラスを合せてクラス編成する。基本的な使い方から始まり，電子メール，インターネット，画像処理，ファイル変換等，学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。 【到達目標】初心者クラスは，取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし，日常的にパソコンが身近なものとなること。経験者クラスは，基本レベルに習熟し，応用レベルまで使いこなせるようになること。		
(1)　テキスト (2)　参考文献	(1)　なし (2)　随時，資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第１回　授業前アンケート（パソコン使用歴，授業への希望など） 第２回　Windows パソコンの基本的な使い方 第３回　電子メール 第４回　ファイルの基本操作 第５回　パソコンによる効率的な検索 第６回　インターネット検索 第７回　画像ファイルの扱い方･･･ペイント 第８回　画像ファイルの扱い方･･･スキャナー・デジカメ 第９回　画像ファイルの扱い方･･･画像の加工・編集 第10回　画像を利用したワープロ文書作り（1） 第11回　画像を利用したワープロ文書作り（2） 第12回　ファイルの応用的処理･･･圧縮・解凍 第13回　インターネットの活用 第14回　総復習 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験（1：1）の結果を合せて評価		

(注) 経営情報専攻

7　生活科学科共通科目

授業科目	**生活科学概論**	担当者	倉元　綾子・多々良　尊子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。 【概　要】　中学・高校における技術・家庭の学習内容をふまえ，さらに生活科学への展開を図る。生活科学の対象，目的，研究方法を学び，個人・家族の生活の現状と課題について理解を深める。前半は，生活の機能，生活にかかわる政策，世界の家政学，家政学・生活学の歴史などに焦点をあて，生活科学の基本を学ぶ。後半は，生活のしくみをどのようにとらえるのか，具体的な事例に基づいて解説する。それにより，生活全体をグローバルに俯瞰するだけでなく，逆に個人として見つめ，生活科学の構造を理解する。 【到達目標】　生活科学とは何かを理解し，生活を科学的な視点で把握し，生活にかかわる課題に主体的に関与できるようにする。それにより，各自が生活科学科で勉学する意義を探求して欲しい。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）プリント （2）ヴィンセンティ著，倉元綾子訳『アメリカ・ホーム･エコノミクス哲学の歴史』近代文芸社 ステイジ，ヴィンセンティ編著，倉元綾子監訳『家政学再考』近代文芸社 西村敬子，加藤祥子，早瀬和利『生活を科学する』開隆堂出版		
授業スケジュール	第 1回 ～ 第 2回　生活とは何か，私たちの生活はどうなっているか（個人・家族の生活の現状） 第 3回 ～ 第 4回　生活科学／家政学の対象，目的，体系・領域 第 5回 ～ 第 7回　生活科学／家政学の歴史（日本，アメリカ合衆国，世界），生活科学／家政学の将来 第 8回 ～ 第 9回　生活の基本は人間関係から：家族で生活すること，地域・社会の一員であること 第10回 ～ 第11回　生活を環境としてとらえる：＜人体ー衣服ー住居ー社会＞のつながりと相互作用 第12回 ～ 第13回　生活をデザインする：もののデザイン，生き方のデザイン，社会のデザイン 第14回　生活科学は社会的な課題にどのようにアプローチするか 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	倉元担当分（50%），多々良担当分（50%）：レポートおよび授業時間内の課題による		

授業科目	**生活経営学**	担当者	倉元　綾子・多々良　尊子
	〔履修年次〕食栄専攻は2年，生活専攻は1年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕食栄専攻は選択，生活専攻必修　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　生活の質を高めるために，生活の実態と課題を把握し，主体的な生活経営力を身につける。 【概　要】〔第1回～第7回〕生活の価値・規範とは何か考える。それに基づき，生活者自身の意思で，様々な生活資源を管理し，それぞれが思い描くライフスタイルを具体化し，社会参加していくプロセスを学ぶ。生活に必要なものやサービス，金銭，時間，人の能力やエネルギー，人間関係など様々な資源をマネージメント（経営）していく力を育成する。〔第8回～第15回〕家族生活にかかわる課題について考える。個人・家族・地域社会においては様々な課題が生じている。その背景，問題点を明らかにするとともに，課題解決のために必要な知識とスキルを学ぶ。 【到達目標】就労による経済的な自立，健康で豊かな生活，多様な生き方や価値観が認められる社会を目指し，将来の生活像を描き，生き方を選択し，実現していくことを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）プリント 神原文子・杉井潤子・竹田美知編著『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房，2,625 円 （2）日本家政学会生活経営部会『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 日本家政学会家政教育部会「家族生活支援の理論と実践」 その他，適宜指示する。		
授業スケジュール	第 1回　生活の価値・規範とは何か 第 2回　生活経営の主体，生活の単位，生活経営力とは何か 第 3回　マネージメントするもの (1) 生活者自身の健康・知識・経験・生活技術など 第 4回　マネージメントするもの (2) 人間関係，家族，親戚，友人，知人，地域 第 5回　マネージメントするもの (3) ものやサービス，資産・収入，時間，情報 第 6回　ワークライフバランス：働くこと，結婚すること，社会参加すること 第 7回　自己実現のための生活設計 第 8回　現代社会と個人・家族・地域社会の課題１ 第 9回　現代社会と個人・家族・地域社会の課題２ 第10回　家族とは何か 第11回　ジェンダーと個人・家族・地域社会 第12回　子どもであること 第13回　夫になること，妻になること，親になること 第14回　高齢期の家族 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	倉元担当分（50%），多々良担当分（50%）：レポートおよび授業時間内の課題による		

授業科目	**社会福祉論**	担当者	未定
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概　要】 【到達目標】		
（1）テキスト （2）参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

（注）栄養士必修，教職必修

８　食物栄養専攻専門科目

授業科目	**食品学Ⅰ**	担当者	釜田　忠
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】食品中の成分について，物理化学的な性質，成分の反応，栄養的特性，食品の物性ならびに食品成分より見た食品の特性について学ぶ。 【概　要】食品中には様々な成分が含まれている。本講義では，健康な日常生活を営むために必要不可欠な栄養素である，タンパク質，脂質，炭水化物，食物繊維，ビタミンについて，化学構造を含めた基礎的な化学と特徴について理解することに始まり，これらの成分の変化，各種反応，栄養的効果について学習していく。 【到達目標】栄養士に必要とされる基礎的な知識である食品中に含まれている各種成分の特徴，性質，栄養効果について基本的な知識を理解することを到達目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)　加藤保子，中山勉共著「食品学Ⅰ　食品の化学・物性と機能性」南江堂 加藤保子，中山勉共著「食品学Ⅱ　食品の分類と利用法」南江堂 (2)		
授業スケジュール	第１回：イントロダクション　・食品の分類 第２回：水分　・水の化学　生理作用　食品中の水の状態 第３回：炭水化物１　・単糖類の化学と性質 第４回：炭水化物２　・オリゴ糖・多糖類の化学と性質 第５回：炭水化物３　・炭水化物の栄養効果　食物繊維の特性ならびに栄養効果 第６回：タンパク質１　・アミノ酸の化学と性質　タンパク質の化学 第７回：タンパク質２　・タンパク質の性質と変化 第８回：タンパク質３　・タンパク質の栄養効果・機能 第９回：脂質１　・脂質の分類　脂肪酸の化学と性質 第10回：脂質２　・脂質の変化・反応（自動酸化など） 第11回：脂質３　・脂質の栄養効果 第12回：ビタミン１　・ビタミンの歴史　脂溶性ビタミンの化学と生理機能 第13回：ビタミン２　・水溶性ビタミンの化学と生理機能１ 第14回：ビタミン３　・水溶性ビタミンの化学と生理機能２ 第15回：まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（70%）　＋　小テスト（30%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**食品学Ⅱ**	担当者	釜田　忠
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】食品中の成分について，物理化学的な性質，成分の反応，栄養的特性，食品の物性ならびに食品成分より見た食品の特性について学ぶ。 【概　要】食品中に含まれる成分であるミネラルについての化学・栄養効果，食品中の嗜好成分（色素，呈賞成分，香気成分）について物理化学的な性質，食品中での変化・反応，栄養効果似ついて学ぶとともに，食品中の有害物質，食品の物性について学習する。植物性食品（穀類，野菜類，果実類など），動物性食品（畜肉類，魚介類，乳製品，卵など）の特性について学習する。 【到達目標】食品中の成分の特性，栄養効果について理解するとともに，植物性食品，動物性食品の特性を理解することを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)　加藤保子，中山勉共著「食品学Ⅰ　食品の化学・物性と機能性」南江堂 加藤保子，中山勉共著「食品学Ⅱ　食品の分類と利用法」南江堂		
授業スケジュール	第１回：ミネラル１　・ミネラルの栄養効果と機能１ 第２回：ミネラル２　・ミネラルの栄養効果と機能２ 第３回：ミネラル３　・ミネラルの栄養効果と機能３ 第４回：食品色素１　・クロロフィル，ミオグロビンの化学的性質と食品中での変化・反応 第５回：食品色素２　・カロテノイド，フラボノイドの化学的性質と変化 第６回：食品色素３　・酵素的褐変反応，非酵素的褐変反応 第７回：呈味成分　・呈味成分の特性 第８回：香気成分　・食品中の香気成分の特性 第９回：食品中の有害物質 第10回：食品の物性　・コロイドの化学，弾性，粘弾性 第11回：植物性食品１　・穀類とイモ類の特性 第12回：植物性食品２　・野菜類と果実類 第13回：動物性食品１　・畜肉類と魚介類 第14回：動物性食品２　・牛乳と乳製品 第15回：まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋　小テスト（30%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**食品学実験**	担当者	釜田　忠
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実験方式		
テーマ及び概要	【テーマ】食品中の成分について実験を通して，これら成分の物理化学的性質を学ぶ。 【概　要】化学実験では多種多様の薬品，実験器具を使用するため正確な操作を誤ると大きな事故につながる危険性を常にはらんでいる。本実験では講義で学んだ食品成分の性質について実験を通して理解を深めていく。同時に，化学実験に対する取り組み，各種薬品，器具等の正確な操作法，安全対策など化学実験に必要とされる基礎的知識を習得する。 【到達目標】食品中に含まれる各種成分の性質・特性について基本的な知識を習得するとともに，化学実験についての基礎的知識を習得することを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第１回：ガイダンス　・実験概要の説明 第２回：実験の基本操作１　・各種実験器具の操作法 第３回：実験の基本操作２　・天秤，顕微鏡の取り扱い 第４回：試薬作成　・実験で使用する試薬作成と各種薬品の取り扱い方 第５回：滴定　・0.1規定水酸化ナトリウムの作成・評定，市販食酢中の酢酸の定量 第６回：糖質１　・単糖類と二糖類の定性実験 第７回：タンパク質１　・アミノ酸，タンパク質の定性実験 第８回：無機質　・煮干し，きな粉に含まれるカルシウム，リン，鉄の検出 第９回：糖質２　・多糖類に関する定性実験 第10回：糖質３　・市販果汁中の還元糖の定量（ベルトラン法） 第11回：油脂　・油脂の定性実験，ケンカ価，ヨウ素価 第12回：タンパク質２　・酵素によるタンパク質の消化実験 第13回：牛乳　・市販牛乳中のカゼインと乳脂肪分の定量 第14回：実験の総括　・水溶性ビタミンの化学と生理機能２		
成績評価の方法	実験レポート（70%）　＋　実験への取組姿勢（30%）		

(注) 栄養士必修，教職必修

	食品衛生学	担当者	村山　恵美子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】食品の安全について，その問題点と注意点，予防策と解決策を学び，衛生観念を身につける。 【概　要】　近年，食中毒の大規模化，輸入野菜中の残留農薬，新しい感染症や食品汚染物質の増加，偽称表示等，食品の安全性を脅かす多くの問題が生じている。これらに対処するため，法律や規格の制定や改正が行われているが，全面解決に至っていないのが現状である。この講義では，その原因となる微生物や自然毒，化学物質，食品添加物等に対する認識を深め，健康かつ安心・安全な食生活を営めるよう，食中毒や食品の変質，変敗の予防法，食品衛生行政，食品衛生管理等を学ぶ。 【到達目標】日常の生活の中で，衛生に関心を持つようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)小栗重行他著「イラスト食品の安全性」東京教学社 (2)中村好志・西島基弘編著「食品安全学」同文書院，細貝祐太郎他編「新訂原色食品衛生図鑑第２版」建帛社		
授業スケジュール	第1回　食品衛生行政と法規　（衛生行政の対象，関連法規，表示，食品衛生監視員，コーデックス） 第2回　食品の変質（微生物学の基礎，食品の腐敗・変質・油脂の酸敗の予防） 第3回　食中毒総論（食中毒の定義，種類と発生状況等） 第4回　細菌性食中毒（サルモネラ属，腸炎ビブリオ，腸管出血性大腸菌，カンピロバクター等） 第5回　ウィルス性，原虫性食中毒（ノロウィルス，その他のウィルス，クリプトスポリジウム等） 第6回　自然毒食中毒（動物性，植物性） 第7回　食品による感染症（　消化器系感染症，人獣共通感染症） 第8回　食品から感染する寄生虫症（魚介類，獣肉類，飲料水，野菜類） 第9回　化学性食中毒と食品汚染化学物質（農薬，カビ毒，動物用医薬品，その他の汚染物質） 第10回　食品衛生管理（HACCP，食品工場・給食施設における一般衛生管理，家庭における衛生管理） 第11回　食品の器具と容器包装（プラスチック，金属，ゴム，紙等） 第12回　食品添加物（概要，表示方法，安全性評価等） 第13回　食品添加物（種類と用途） 第14回　その他の食品の安全性問題（有機栽培，遺伝子組み換え，放射線照射，牛海綿状脳症等） 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（８０%），授業中の小テスト（２０%）		

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	**食品衛生学実験**	担当者	釜田　忠
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実験方式		
テーマ及び概要	【テーマ】日常の食生活から食品の安全性を確保するために必要な知識を実験を通して認識する。 【概　要】本実験は微生物実験と化学実験から構成される。微生物実験では，身の回りのあらゆる環境に病原性微生物を始め多くの微生物が存在することを確認することによって，消毒，滅菌等の意義を理解し，食品の安全性の確保のために必要な衛生観念を理解する。 一方，化学実験では，食品添加物の使用実態，鮮度判定，水質検査などを通して，日常の食生活に潜む問題点を認識し，安全な食生活について理解する。 【到達目標】身の回りに潜む危険から，安心・安全な食生活を営むために不可欠な衛生に関する知識を習得することを目的とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)　プリント		
授業スケジュール	第１回：ガイダンス１　・微生物実験の概要説明と実験器具の洗浄ならびに実験室の清掃 第２回：微生物基礎実験１　・器具の滅菌と培地作成（斜面培地，高層培地，平板培地） 第３回：微生物基礎実験２　・菌（4 種類）の接取・培養，グラム染色による菌の観察 第４回：微生物基礎実験３　・菌の形態観察 第５回：布巾・まな板の衛生検査　・洗い落とし法，拭取り法による総菌数，大腸菌の確認 第６回：大腸菌群の定量実験　・最殻数法による大腸菌の定量 第７回：サルモネラ菌　・市販ひき肉，鶏肉からサルモネラ菌の検出 第８回：ブドウ球菌　・おにぎり中のブドウ球菌の検出，ブドウ球菌の人体付着検査 第９回：耐熱性・紫外線抵抗試験　・加熱，紫外線の殺菌効果の測定 第 10 回：ガイダンス２　・化学実験の概要説明，実験器具の洗浄，微生物実験に使用した器具の後片付け 第 11 回：合成着色料の検出　・合成タール試験法による市販食品中に含まれる合成着色料の検出 第 12 回：発色剤の定量　・市販ハム中の発色剤（亜硝酸）の検出ならびに定量 第 13 回：タンパク質の変敗試験　・市販魚肉中の揮発性塩基窒素の測定による鮮度判定 第 14 回：水質検査　・家庭用飲料水の理化学試験（平常試験） 第 15 回：実験の総括		
成績評価の方法	実験レポート（70%）＋　実験への取組姿勢（30%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**食品加工学**	担当者	釜田　忠
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義・実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】食品保存，加工についての概念，基本的な知識を学ぶ。 【概　要】「食品加工」は食品の加工，保蔵，包装・表示など加工食品だけでなく保蔵食品，包装食品を作ることである。生活様式の変化に伴い，多種多様の食品が生産利用され，需要が高まってきていると同時に安全性の問題など新たな問題も生じ，加工食品に対する正しい知識が求められている。本講義では食品の特性を理解したうえで，加工食品の原理や食品保蔵に関する基礎的知識を理解し習得する。 【到達目標】食品加工の基本的知識を理解し，日常の食生活で加工食品を上手に取り入れることによって食生活の改善に役立てる事		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)　露木英男・田島　眞編「食品加工学―加工から保蔵まで―」共立出版 (2)		
授業スケジュール	第１回：イントロダクション　・食品加工の基本理念 第２回：食品加工の原理　・物理的操作と化学的操作 第３回：食品保蔵の原理１　・低温保存と水分制御による保存 第４回：食品保蔵の原理２　・浸透圧の利用，pH，燻煙 第５回：食品保蔵の原理３　・殺菌による保存，環境ガス 第６回：食品の加工１　・農産物 第７回：食品の加工２　・農産物 第８回：食品の加工３　・畜産物 第９回：食品の加工４　・水産物 第 10 回：食品の加工５　・乳製品，卵 第 11 回：包装と包装食品　・包装の意義，食品の包装 第 12 回：実習１ 第 13 回：実習２ 第 14 回：実習３ 第 15 回：まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（60%）　＋　レポート（40%）		

授業科目	**調理学**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】食品の調理過程における科学的現象 【概　要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶ。 【到達目標】嗜好を満足させ，健康を維持するために，おいしく調理する作業を再現でき，また，調理や食物選択が理にかなったものにする。		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴ 金谷昭子著『食べ物と健康，調理学』　医歯薬出版 ⑵ 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版		
授業スケジュール	第 1回　調理学の意義と目的 第 2回　調理と栄養とライフステージ 第 3回　調理操作　加熱操作 第 4回　〃　非加熱操作 第 5回　〃　その他の調理操作 第 6回　調理法　米 第 7回　〃　小麦粉 第 8回　〃　芋及び豆類 第 9回　〃　野菜及び果実類 第10回　〃　食肉類 第11回　〃　魚介類 第12回　〃　卵類及び乳類 第13回　〃　油脂類及び砂糖類 第14回　〃　その他（冷凍食品・市販食品），まとめ 第15回　試験とまとめ		
成績評価の方法	筆記試験（50%）・授業態度及び出席・小テスト（50%）を考慮		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**調理学実習Ⅰ**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術 【概　要】一食の献立として学習出来るよう，様々な食品の利用法，料理の歴史・文化的特徴を，食事のマナーや常識を踏まえ，和洋中その他諸外国の基礎的な料理を網羅しながら基本的な調理技術を習得できるようなカリキュラム 【到達目標】調理の見方，考え方を確立させ，器具や食品の扱いを含め，栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴ 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 ⑵ 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第 1回　調理機器の使い方，調味の割合， 第 2回　和食喫食法：炊飯，鰹と昆布のだしの取り方と利用法，魚の焼き物，即席漬物 第 3回　日本料理：煮干だし，魚の煮付け，お浸し（下洗い），上新粉の扱い 第 4回　西洋風朝食：卵の扱い，トマトの湯剥き，洋風スープ（鶏がらの扱い），パンケーキ 第 5回　中華喫食法：中華の鶏がらスープ，中華素材と器具の扱い，寒天の扱い，（大量調理） 第 6回　日本料理：炊きおこわ，炒め煮，乱切り，あく抜き，わらび粉 第 7回　洋食喫食法：洋風炊き込み，たまねぎの扱い，冷製魚の扱い，ラビゴット（ヴィネグレット）ソース，ゼラチンの扱い 第 8回　中華料理：コーンスープ，春巻き，えびの扱い，油通し，タピオカ・ココナッツの扱い 第 9回　日本料理：ソーメン，焼魚（器具と化粧塩，鮎の食べ方），いり豆腐，和え物，水ようかん 第10回　西洋料理：冷製スープ，果物のサラダ，ひき肉の扱い，カスタードプリン 第11回　中華料理：中華麺の扱い，焼売，香辛料，中華風の漬物，白玉粉の扱い 第12回　郷土料理：具沢山の炊き込みご飯（具の量と調味），ささがき，寄せ卵，白和え，ふくれ菓子 第13回　お盆料理：かいのこ汁，落花生豆腐，にがごりの扱い 第14回　まとめ 第15回　調理実技試験とまとめ		
成績評価の方法	調理技術試験40%，調理実習ノート30%，実習態度及び出席30%を考慮		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**調理学実習Ⅱ**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕 1年　　〔学期〕後期 〔単位〕 1単位　　〔必修／選択〕選択（注）　　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用 【概　要】和食，洋食，中華料理を交互に，個人の食事はもちろん給食施設における食事作りへの応用を考慮したカリキュラム 【到達目標】献立作成，衛生観念を身につけ，給食への応用ができる力を養う。		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴ 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 ⑵ 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第 1回　夏のお盆料理の報告 第 2回　日本料理：栗の扱い，さんまの扱い，茶碗蒸し，なます，十五夜団子 第 3回　西洋料理：カレー粉の扱い，ブイヨン（牛肉）スープ，マヨネーズの作り方，レアチーズケーキ 第 4回　日本料理：行楽弁当（いなり，出し巻き卵，きじ焼き，酢蓮根，高野豆腐の含め煮），土瓶蒸し，小倉ケーキ 第 5回　スチームコンベクション料理：焼き魚（ドライモード），焼きそば（コンビ），温野菜（スチーム），りんごのコンポート 第 6回　日本料理：さつますもじ（ちらし寿司），青のりの汁，芋のそぼろあんかけ，抹茶饅頭 第 7回　中華料理：八宝菜，いかの扱い（花いか），くらげの扱い，中国粥，さつま芋のあめがらめ，点心について 第 8回　日本料理：霜降りの方法と役目，かつら剥き魚の三枚おろし，魚のだし 第 9回　正月料理：おせち料理の意味と重箱の詰め方，雑煮，飾り切り 第10回　クリスマス料理，ビーフストロガノフ（ブラウンソース），ブッシュドノエル 第11回　西洋料理：（ホワイトソース），フルーツパウンドケーキ 第12回　中国の行事食：春節の意味と代表料理，皮 第13回　西洋料理：パンとジャム，コーヒーの入れ方 第14回　テーブルマナー（会席料理），懐石料理とは 第15回　調理技術試験		
成績評価の方法	調理技術試験40%，調理実習ノート30%，実習態度及び出席30%を考慮		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**調理学実習Ⅲ**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕 2年　　〔学期〕後期 〔単位〕 1単位　　〔必修／選択〕選択（注）　　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】調理学実習Ⅱの調理技術の応用から上級レベル 【概　要】和食，洋食，中華料理の給食施設における食事作りへの応用を考慮し，食材の持つ特徴（糊化作用，凝固作用，膨張作用など）を十分活かした調理実習カリキュラム 【到達目標】おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴ 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 ⑵ 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第 1回　大量調理の応用 ～5回　和食の応用，郷土料理， 第 7回　自作の献立 調理への応用 ～10回 第11回　正月料理：おせち料理 ～13回　西洋料理の応用：クリスマス：ローストチキン，ショートケーキ　イタリア料理：パスタ，ピザ 東・東南アジア地区の料理 第14回　テーブルマナー（洋食） 第15回　調理技術試験		
成績評価の方法	調理技術試験40%，調理実習ノート30%，実習態度及び出席30%を考慮		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養学総論**	担当者	倉元　綾子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】栄養学とはなにか。 【概　要】健康な生活を営むためには，適切な栄養摂取が必要である。日本人の食生活は食料不足の時代から飽食の時代へと急速に変化し，国民の栄養摂取状況も大きく変化した。とはいえ，栄養素欠乏症は克服されたが，栄養素の過剰やアンバランスが顕著になり，生活習慣病のような代謝性疾患が増加している。食料の生産・加工・流通のしくみの変化・発達，生活環境の変化，科学技術の発達，情報化の進展なども著しい。このように，健康と栄養，食をとりまく問題は，大きな広がりと深さをもっている。栄養学領域を全体的に把握し，栄養学の本質や基本的考え方を学ぶ。各回の講義の導入部では，食生活の現状についてのトピックスにも触れる。 【到達目標】栄養学の基礎的事項を理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　奥恒行，高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己，三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 （2）　『栄養学辞典』同文書院 『管理栄養士国家試験キーワード集』女子栄養大学出版部， カーソン『沈黙の春』新潮文庫 NHK取材班『NHKサイエンススペシャル驚異の小宇宙・人体１～６別巻１，２』日本放送出版協会 各 3,200 円		
授業スケジュール	第 1回　栄養と食生活，栄養学の歴史（世界，日本） 第 2回　栄養と食生活，栄養学の歴史（世界，日本） 第 3回　栄養と食生活，栄養学の歴史（世界，日本） 第 4回　「消化吸収の妙ー胃・腸」 第 5回　栄養補給，消化，吸収，栄養素の人体への取り入れ， 第 6回　エネルギー代謝，水分代謝， 第 7回　非栄養成分と人体，（小テスト） 第 8回　「壮大な化学工場ー肝臓」 第 9回　栄養素とその機能， 第10回　糖質の栄養と代謝， 第11回　脂質の栄養，（小テスト） 第12回　タンパク質の栄養 第13回　ビタミンの栄養 第14回　無機質の栄養 第15回　まとめとテスト		
成績評価の方法	小テスト・レポート（５０点），テスト（５０点）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養学各論**	担当者	鉾之原　昌
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】小児栄養学 【概要】小児期の成長と発達を学び，乳児期，幼児期，学童期，思春期の特徴を理解し，各期の栄養の概説を述べる。また，各期の病気も学びその治療と栄養の関係について理解を深める 【到達目標】小児の特徴を理解し，小児栄養の成長や発達における影響を把握し，小児が将来長生きできる成人になるように栄養法を考えられることを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	堤ちはる，土井正子編著『子育て・子育ちを支援する小児栄養』　萌文書林，2520 円		
授業スケジュール	第1回　人の健康と小児の特徴，小児期の分類 第2回　小児栄養の特徴，小児栄養の必要性 第3回　小児期における栄養素の特性と栄養所要量 第4回　乳児栄養特に母乳栄養について 第5回　幼児および学童期栄養 第6回　小児保健と病気 第7回　小児期の栄養障害，生活習慣病の予防 第8回　テスト		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養学各論**	担当者	吉田　泰与
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】ライフステージ別の健康と栄養及び病態栄養療法 【概　要】日本人の食事摂取基準を基に食と健康のかかわりについて学習する。エネルギー及び栄養素摂取量の多少に起因する健康障害は欠乏症または摂取不足によるものだけでなく，過剰によるものも存在する又栄養素摂取量の多少が生活習慣病の予防に関与する場合もある。これらに対応することを目的とした各ライフステージの健康と栄養の理解を深めさらに病態栄養療法をも学ぶ。 【到達目標】個々に必要なエネルギー，たんぱく質等の栄養素摂取量算出及び栄養ケア・マネジメントの立案ができるようになる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）日本病態栄養学会編　『改定第３版　認定病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック』　メディカルレビュー社　3500 円＋税 厚生労働省策定　『日本人の食事摂取基準　2010 年版』　第一出版　2800 円＋税 （2）日本糖尿病協会　『糖尿病食事療法のための食品交換表』　文光堂　900 円＋税 食品成分研究調査会編　『五訂増補日本食品成分表』　医歯薬出版　1500 円＋税　（女子栄養大学出版部でも可）		
授業スケジュール	第１回　食事摂取基準による個々の推定エネルギー算出 第２回　同上　たんぱく質及び他の栄養素算出 第３回　ライフステージ別の栄養 成人期の生活活動　メタボリック・シンドローム　特定健診　特定保健指導 第４回　同上　思春期　妊娠・授乳期　高齢期 第５回　病態栄養と栄養療法 消化器疾患　代謝疾患　呼吸器疾患 第６回　同上　循環器疾患　腎疾患 第７回　同上　血液疾患　他　周産期医療　外科術前術後 第８回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（６０％），レポート（４０％）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養学実習**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】ライフステージ別の健康と疾病予防，臨床を対象とした栄養学の実践から応用 【概　要】妊娠，乳幼児・・高齢期に至るまでの健康保持・疾病予防，疾病の臨床的な栄養管理，つまり食品の選択から食品構成，献立作成，調理，供食までを実際に行う。 【到達目標】ライフステージごとの食形態，疾病により異なる栄養素配分の献立，常食からの展開ができる力を養う。		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴　『臨床栄養学実習書』，『ライフステージ実習栄養学』　医歯薬出版 糖尿病食事療法のための『食品交換表』　日本糖尿病協会・文光堂，『腎臓病食品交換表』　医歯薬出版 ⑵ 香川芳子監修『五訂増補食品成分表 2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準 2010 年版』第一出版		
授業スケジュール	第 1回　成長期（乳児期，幼児期，学童期）の栄養的特徴 第 2回　妊娠，授乳期の栄養学的特徴 第 3回　高齢期の栄養的特徴，実習（骨粗鬆症，咀嚼嚥下困難食） 第 4回　〃 第 5回　成人期の臨床栄養（エネルギーコントロール食：糖尿病食演習，実習） 第 6回　〃 第 7回　成人期の臨床栄養（たんぱく質コントロール食：腎臓病食演習，実習） 第 8回　〃 第 9回　成人期の臨床栄養（ナトリウムコントロール食：高血圧食演習，実習） 第 10 回　〃 第 11 回　成人期の臨床栄養（脂質コントロール食：脂質異常症食演習，実習） 第 12 回　〃 第 13 回　易消化食の特徴 第 14 回　経腸栄養の特徴 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	レポート 50%，出席 50%		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**解剖生理学**	担当者	倉元　綾子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】人体の構造と機能 【概　要】食物栄養の専門知識においては，食物や栄養のことばかりでなく，消化・吸収・排泄などの機能を担う人体についても深く理解しておくことが重要である。人体を構成している各種臓器，組織，細胞を構造的，形態的，機能的な側面から総合的に学ぶ。使用するテキストやビデオ，プリントなどをとおして，それらの形態と機能の有機的関連を理解することに重点を置く。関連する生化学，栄養学への関心を高めるようにする。主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して，理解を深めたい。また，解剖生理学のトピックスにも触れる。 【到達目標】人体の構造と機能を理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　プリント，講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円 （2）　NHK 取材班『NHK サイエンススペシャル驚異の小宇宙・人体１～６別巻１,２』日本放送出版協会 各 3,200 円 『驚異の小宇宙・人体Ⅱ 脳と心１～６』NHK 出版 各 3,200 円		
授業スケジュール	第 1回　「生命誕生」人体の構造と機能（人体の大要，細胞，組織，器官と器官系，個体発生と系統発生）， 第 2回　人体の構造と機能（人体の大要，細胞，組織，器官と器官系，個体発生と系統発生） 第 3回　生殖系（生殖器とその機能），（小テスト） 第 4回　「しなやかなポンプ－心臓・血管」循環系（構成，血液，リンパ系，生理）， 第 5回　循環系（構成，血液，リンパ系，生理）， 第 6回　呼吸系（構成，生理），（小テスト） 第 7回　「なめらかな連携プレー－骨・筋肉」骨格系（形状と構造，主要骨格とその連結，生理） 第 8回　筋系（形状と構造，主要骨格筋，生理），（小テスト） 第 9回　「生命を守る－免疫」内分泌系（内分泌腺の構造と機能） 第 10 回　内分泌系（内分泌腺の構造と機能）， 第 11 回　免疫系（小テスト） 第 12 回　「脳の構造と機能（記憶，再生）」神経系（神経系の大要，中枢神経系の構造と機能） 第 13 回　神経系（末梢神経系の構造と機能，自律神経系の構造と機能） 第 14 回　感覚系(感覚の種類，視覚器の構造と機能，聴覚器の構造と機能，味覚および嗅覚，体性感覚・内臓感覚，皮膚と体温調節(皮膚の構造，皮膚の機能，体温の調節) 第 15 回　まとめとテスト		
成績評価の方法	小テスト・レポート（５０点），テスト（５０点）		

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	**解剖生理学実験**	担当者	倉元　綾子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実験方式		
テーマ及び概要	【テーマ】人体の構造と機能 【概　要】人体を構成している各種臓器，組織，細胞についての解剖生理学的知識を，実験・観察・スケッチなどを通して，体得し深める。また，食品学実験における定性実験を基礎に，生体における健康の指標である血液などの各種成分の定量的分析を行う。これらを通じて，正確さ，根気強さ，コミュニケーション能力などを養う。（なお，時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。） 【到達目標】実験，観察を通して，人体の構造と機能を理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　プリント （2）　奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円 川村一男『新訂解剖生理学実験』建帛社 1,785 円 林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 1,785 円		
授業スケジュール	第 1回　実験の予備知識，実験の進め方，レポートの書き方，器具洗浄 第 2回　骨格観察（脳解説） 第 3回　骨格観察 第 4回　骨格観察 第 5回　人体モデル観察（各種臓器）（腎臓解説） 第 6回　人体モデル観察（各種臓器） 第 7回　人体モデル観察（各種臓器） 第 8回　人体モデル観察（各種臓器） 第 9回　組織観察（肝臓，腎臓，膵臓，胃） 第 10 回　血液(1)赤血球数算定，白血球数算定 第 11 回　血液(2)ヘモグロビン量，ヘマトクリット値 第 12 回　血液(3)血糖定量，血中タンパク質定量 第 13 回　血液(4)血清コレステロール測定 第 14 回　ラットの解剖 第 15 回　器具洗浄，そうじ，まとめ		
成績評価の方法	レポート（７０点），予習の状況，実験への取り組み状況（３０点）		

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	生化学Ⅰ	担当者	倉元　綾子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】脂質，糖質，タンパク質の生化学 【概　要】栄養とは，生物が体外から物質を取り入れ，それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は対外から取り入れる物質（主に栄養素）の体内における化学変化，すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は，必要に応じて調節され，変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり，この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように，生化学は，食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で，人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ，さらに，生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち，脂質，糖質，タンパク質などを中心に，より深く，多面的に学習する。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して，理解を深める。また，講義の最初には生化学のトピックスにも触れる。 【到達目標】脂質，糖質，タンパク質の生化学を理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 （2）　『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円		
授業スケジュール	第 1回　生化学を学ぶ意義１ 第 2回　生化学を学ぶ意義２ 第 3回　エネルギー生産と利用（ＡＴＰ，エネルギーの生成など） 第 4回　エネルギー生産と利用（ＡＴＰ，エネルギーの生成など） 第 5回　エネルギー生産と利用（ＡＴＰ，エネルギーの生成など），（小テスト） 第 6回　アミノ酸の代謝（アミノ基転移と脱アミノ，尿素回路） 第 7回　アミノ酸の代謝（アミノ酸の炭素骨格の代謝，尿素以外の窒素化合物の代謝） 第 8回　アミノ酸の代謝（アミノ酸代謝各論），（小テスト） 第 9回　タンパク質の代謝（DNA，RNA，タンパク質の合成，分解，代謝調節） 第10回　タンパク質の代謝（DNA，RNA，タンパク質の合成，分解，代謝調節），（小テスト） 第11回　糖質の代謝（解糖，ＴＣＡ回路など） 第12回　糖質の代謝（解糖，ＴＣＡ回路など） 第13回　糖質の代謝（解糖，ＴＣＡ回路など） 第14回　糖質の代謝（解糖，ＴＣＡ回路など） 第15回　まとめとテスト		
成績評価の方法	小テスト・レポート（５０点），テスト（５０点）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	生化学Ⅱ	担当者	倉元　綾子
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】脂質，核酸，生体機能の調節の生化学 【概　要】栄養とは，生物が体外から物質を取り入れ，それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は対外から取り入れる物質（主に栄養素）の体内における化学変化，すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は，必要に応じて調節され，変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり，この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように，生化学は，食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で，人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ，さらに，生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち，脂質，糖質，タンパク質などを中心に，より深く，多面的に学習したい。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して，理解を深めたい。また，講義の最初には生化学のトピックスにも触れる。 【到達目標】脂質，核酸，生体機能の調節の生化学を理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 （2）　講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円		
授業スケジュール	第 1回　脂質の代謝（トリグリセリドの分解，脂肪酸の酸化） 第 2回　脂質の代謝（不飽和脂肪酸の酸化，ケトン体の生成・代謝） 第 3回　脂質の代謝（脂肪酸の生合成など），（小テスト） 第 4回　核酸の代謝（プリン塩基<ヌクレオチド>の合成と分解） 第 5回　核酸の代謝（ピリミジン塩基<ヌクレオチド>の合成と分解） 第 6回　核酸の代謝（核酸の合成と分解），（小テスト） 第 7回　生体機能の調節（ホルモンの構造と化学） 第 8回　生体機能の調節（ホルモンの構造と化学） 第 9回　生体機能の調節（ホルモンの構造と化学），（小テスト） 第10回　生体機能の調節（ビタミン） 第11回　生体機能の調節（ビタミン） 第12回　生体機能の調節（ミネラル）（小テスト） 第13回　生体機能の調節（水），血液，尿 第14回　生体機能の調節（水），血液，尿 第15回　まとめ，テスト		
成績評価の方法	小テスト・レポート（５０点），テスト（５０点）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**生化学実験**	担当者	倉元　綾子
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実験方式		
テーマ及び概要	【テーマ】生体成分，栄養成分の定量的分析 【概　要】生化学は，食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で，人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について，栄養成分の定量分析，尿，ホルモンなどの実験を通してさらに理解を深める。実験を通じて，正確さ，根気強さ，コミュニケーション能力などを養う。（なお，時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。） 【到達目標】実験を通して，生体成分，栄養成分の生化学を理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　プリント （2）　林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 1,785 円 奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円		
授業スケジュール	第 1回　実験の予備知識，実験の進め方，レポートの書き方，器具洗浄 第 2回　灰分,脂肪,食物繊維の定量（解説） 第 3回　水分の定量（解説，実験） 第 4回　ステロイドホルモンの分離定性（解説，実験） 第 5回　アミラーゼによる酵素実験（解説，実験） 第 6回　ビタミンB_2の定性（解説，実験） 第 7回　ビタミンB_1の定量（解説，実験） 第 8回　タンパク質の定量（解説，実験） 第 9回　タンパク質の定量（実験） 第10回　タンパク質の定量（実験） 第11回　カルシウムの定量（解説，実験） 第12回　尿（1）クレアチニン，カルシウム・マグネシウムの定量（解説，実験） 第13回　尿（2）ウロペーパー，タンパク，糖，アセトン体 第14回　器具洗浄 第15回　まとめ，そうじ		
成績評価の方法	レポート（７０点），予習の状況，実験への取り組み状況（３０点）		

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	**健康と運動**	担当者	瀬戸口　照夫
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは，現代社会において，健康問題が取り上げられているが，その原因を追求する。そして，人びとの運動不足が生活習慣病を引き起こす要因の一つになっていることをデータに基づいて確認する。生活習慣病を予防し，健康を維持するため運動がどのような貢献ができるかを学ぶことである。 【概　要】講義では，「現代社会の特徴と健康状態」，「健康とは何か，健康概念の変遷」，「これまでの健康づくりとこれからの健康づくり」「運動による健康づくり」，「健康づくりに適切な運動」，「運動処方」，「健康と心の健康」，「健康生活と運動・スポーツ」「高齢化社会での運動・スポーツ」を講じていく。 【到達目標】自分自身が，測定で認識した自己の運動作業能力を今以上に高めるための方法を習得することと，健康的な生活を送るための知識を獲得することを到達目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)　九州大学健康科学センター編 『健康と運動の科学』大修館書店　1999 年 適宜，プリントによる資料も配布する。		
授業スケジュール	第1回：現代社会の特徴と健康状態　・健康問題に留意しなければならない現代社会 第2回：健康とは何か，健康概念の変遷　・WHO の保健憲章と今日的健康の定義 第3回：これまでの健康づくりとこれからの健康づくり (1)　・疾病対策から健康づくり 第4回：これまでの健康づくりとこれからの健康づくり (2)　・消極的健康づくりから積極的健康づくり 第5回：これまでの健康づくりとこれからの健康づくり (3)　・健康づくりの統合化 第6回：運動による健康づくり (1)　・ウオークによる自己の身体作業能力の測定 第7回：運動による健康づくり (2)　・ペースウオークによる自己の身体作業能力の測定 第8回：運動による健康づくり (3)　・ジョギングにおける自己の身体作業能力の測定 第9回：運動による健康づくり (4)　・ペースジョギングにおける身体作業能力の測定 第10回：健康づくりに適切な運動　・測定から得られたデータをもとに自己の運動計画作成 第11回：運動処方　・疾病別の運動処方 第12回：運動と心の健康　・ストレス解消法としての運動 第13回: 健康生活と運動・スポーツ　・運動・スポーツの生活科 第14回：高齢化社会での運動とスポーツ　・年齢に応じた運動・スポーツ 第1 5回：まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（60%）＋ミニレポート（40%）を基準に，総合的に評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	**健康管理概論**	担当者	森口　哲史
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】健康を維持増進するために，病気の予防法について学ぶ 【概　要】人口統計及び疾病統計の現状について把握し，疾病の予防，健康維持増進の方法についての知識を習得することで，健康についての科学的な考え方や理解を養う 【到達目標】 1）健康の概念について説明できる　2）健康指標の意義について説明できる 3）疾病の予防法について列挙できる　4）主な感染症について，微生物と感染経路について列挙できる 5）人口統計および疾病統計について把握し，健康維持の具体的方法について説明できる 6）身の周りの生活環境や労働環境による健康障害について説明できる		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 松元秀明　よくわかる公衆衛生　金原出版 (2) 国民衛生の動向など		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第　2回　健康の概念, 第　3回　健康の指標１ 第　4回　健康の指標２ 第　5回　疾病予防 第　6回　感染症予防１ 第　7回　感染症予防２ 第　8回　健康の現状１　人口統計 第　9回　健康の現状２　疾病統計 第10回　健康増進の施策 第11回　健康増進の実際１ 第12回　健康増進の実際２ 第13回　環境と健康障害 第14回　労働と健康障害 第15回　期末試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	**公衆衛生学**	担当者	波多野　浩道
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】公衆衛生学およびその実践である公衆衛生の昨日，今日，明日 【概　要】人間の健康擁護のための学的体系つまり公衆衛生学とその実践つまり公衆衛生を理解する上で，基本となる疫学方法論の修得及び保健統計の読み方，主要な概念を修得する。 過去に起こった公衆衛生上の出来事や現在のトピックを素材に，公衆衛生リテラシーを獲得できるように，講義と一部演習を取り入れる。 【到達目標】公衆衛生学の主要な概念を用いることができる。保健統計の意味を解説できる。新聞報道等の公衆衛生トピックを理解することができる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）国民衛生の動向2010/2011年版，厚生統計協会 （2）適宜紹介する。		
授業スケジュール	第１回　公衆衛生とは；新旧粉ミルク事件，Winslow C.E.A.の定義 第２回　公衆衛生史とNew Public Health：W HOの理念と戦略を中心として 第３回　疫学１：Snowと記述疫学 第４回　疫学２：分析疫学，介入疫学（高木兼寛） 第５回　保健統計１：人口現象と生命表 第６回　保健統計2:健康指標とヘルスケアシステム評価 第７回　環境保健１；生態学的環境論と４大公害 第８回　環境保健２：地球環境保健と新興・再興感染症 第９回　地域保健活動１基本理念とヘルスサービスの構造 第10回　地域保健活動２母子保健，学校保健 第11回　地域保健活動３：産業保健，老人保健，精神保健 第12回　地域保健活動４：感染症，健康危機管理 第13回　公衆衛生行政１：健康づくり施策と医療計画 第14回　公衆衛生行政２：医療制度改革と社会保障 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（８０%），小論文（２０%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**運動生理学**	担当者	森口　哲史
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】身体活動による人体機能の変化について学ぶ 【概　要】人体の生理機能を基礎とし，運動を行った際の人体機能の変化を習得することで，運動習慣の必要性に関する科学的根拠を学ぶ 【到達目標】 1）骨格筋の構造を把握し，筋線維タイプ，筋収縮様式，エネルギー供給系について説明できる 2）神経系の分類を把握し，ニューロンと興奮伝導，反射について説明できる 3）運動と酸素摂取，エネルギー代謝について説明できる　4）運動時の中心・末梢循環について説明できる 5）運動と各種栄養素・水分摂取との関わりについて説明できる　6）運動処方の原則について説明できる 7）運動と暑熱環境，運動と高所環境など，環境変化に伴う運動時の生理変化について説明できる		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 勝田茂　運動生理20講　朝倉書店，朝山正巳　「運動生理学」　東京教学舎 (2) オストランド運動生理学，スポーツ栄養学，高所医学，など		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第　2回　健康と運動 第　3回　筋肉1 第　4回　筋肉2 第　5回　神経1 第　6回　神経2 第　7回　呼吸 第　8回　エネルギー代謝 第　9回　循環 第10回　運動と栄養1 第11回　運動と栄養2 第12回　運動処方1 第13回　運動と生活習慣病 第14回　運動と環境 第15回　期末試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**給食管理**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において，対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について 【概　要】食事計画から栄養計画，献立作成，衛生・安全管理，作業管理，設備管理，労務管理，原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について，給食の目的，方法，評価を明らかにできる方法を学ぶ 【到達目標】給食の運営管理できる力を養う。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1) 『栄養士のための給食計画論』，『栄養士のための給食実務論』　学建書院 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版		
授業スケジュール	第 1回　給食の意義と目的（特定給食施設，役割），給食関連法規と行政指導 第 2回　経営・作業・人事管理 第 3回　施設・設備管理 第 4回　食材・原価管理 第 5回　大量調理 第 6回　衛生・安全管理 第 7回　〃 第 8回　栄養管理 第 9回　給食施設の種類と特性 第10回　献立作成 第11回　〃 第12回　〃 第13回　調査・研究，栄養教育 第14回　まとめ 第15回　試験とまとめ		
成績評価の方法	レポート30%，試験40%，出席30%		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅰ	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期・後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】学内実習　本学学生を主要対象とした給食サービス 【概　要】給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。帳票類の作成・まとめを行い，栄養教育の方法，評価を行う。 【到達目標】給食施設でのすべての業務を理解，計画，実施できる力を養う。		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴ 『栄養士のための給食計画論』，『栄養士のための給食実務論』　学建書院 『給食運営管理　実習テキスト』　第一出版 ⑵ 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版		
授業スケジュール	オリエンテーション（実習の概要） 献立計画・・食事計画・栄養計画のもと，期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし，調整する。 食材購入計画・・市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。 運営計画・・大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し，実施日の運営計画を立案する。 試作・試食・・献立に忠実で正確な分量による料理を試作し，盛り付け方法・食器の選択・試食を行い，最終的な調整をする 衛生管理計画・・給食における安全ポイントを確認し，衛生検査計画をたてる。 実験調査計画・・評価のための調査計画を立案する。 栄養教育計画・・対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し，栄養教育媒体を作成する。 供食サービス・・計画に従って，喫食者が満足できるサービスを実施する。 評価・・実習後のデータ整理・総合評価・まとめ（報告発表）		
成績評価の方法	実習ノート（30%），報告発表（10%），実習態度及び出席（60%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅱ	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期集中 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習　給食施設（事業所，福祉施設など）での栄養士の給食業務 【概　要】学内実習で学んだことをもとに，喫食対象者のニーズや給食条件，それに伴う献立やサービス，栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。 【到達目標】給食運営の実態を体得し，給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴ 『栄養士のための給食計画論』，『栄養士のための給食実務論』　学建書院　実習ノート ⑵ 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版　香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版		
授業スケジュール	各施設による特徴 1，給食施設の概要 2，給食業務の流れ 3，給食組織と業務分担および栄養士業務 4，栄養教育 5，献立内容 6，大量調理の技術 7，食材管理 8，衛生管理 9，各調査と評価 10，実習終了後，学内で報告発表を行う。		
成績評価の方法	実習ノート（30%），報告発表（10%），実習態度および出席（60%）		

（注）栄養士必修　※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる。

授業科目	**給食管理実習Ⅲ**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期集中 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習　給食施設（学校）での栄養士の給食業務 【概　要】学内実習で学んだことをもとに，喫食対象者のニーズや給食条件，それに伴う献立やサービス，栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。 【到達目標】給食運営の実態を体得し，給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴ 『栄養士のための給食計画論』，『栄養士のための給食実務論』　学建書院　実習ノート ⑵ 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版　香川芳子監修『五訂増補食品成分表 2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準 2010 年版』第一出版		
授業スケジュール	各施設による特徴 1，給食施設の概要 2，給食業務の流れ 3，給食組織と業務分担および栄養士業務 4，栄養教育 5，献立内容 6，大量調理の技術 7，食材管理 8，衛生管理 9，各調査と評価 10，実習終了後，学内で報告発表を行う。		
成績評価の方法	実習ノート（30%），報告発表（10%），実習態度および出席（60%）		

（注）栄養士必修，教職必修　※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる。

授業科目	**栄養教育論**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法 【概　要】栄養教育は，対象とする個人や集団のＱＯＬを高めるため適正な食生活を営み，望ましい健康状態を維持・増進できるよう，単なる栄養知識の伝達に終わることなく教育的手段を用いて，好ましい食行動の実践と習慣化をさせること，また，生活習慣病の増加に対応するためには，栄養・食生活上問題のある人々を対象として，その栄養状態を改善することを目的とした教育的働きかけである。 【到達目標】　対象の実態とニーズに沿って，健康やＱＯＬの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得させる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）大里進子他著『演習栄養教育』医歯薬 （2）日本栄養士会編　『平成 22 年版　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第 1 回　栄養教育の概念（目的，対象，栄養教育の場，法的根拠），栄養教育の歴史 第 2 回　食行動変容と栄養教育（行動科学，個人・集団の態度，社会の行動変容に関する理論） 第 3 回　食行動変容と栄養教育の実践（保育園） 第 4 回　食行動変容と栄養教育の実践（学校） 第 5 回　栄養教育のためのアセスメント，栄養教育の方法 第 6 回　栄養教育マネジメント（栄養アセスメント，栄養ケア，栄養教育プランニング，栄養教育の評価など） 第 7 回　栄養教育におけるカウンセリング 第 8 回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験の成績（80%），小テスト（20%）を加え総合的に評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修　7.5 回

授業科目	**栄養指導論**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕 1年　〔学期〕通年 〔単位〕 4単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】栄養学的基礎理論に基づいた対象者の自らの行動変容に導く栄養指導 【概　要】本講義では，対象とする個人や集団の食生活の問題点や環境に対して，その食習慣を形づくった背景を正しく理解して，指導を受けた人が自らの意思で食生活の改善に取り組み，問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。 【到達目標】対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解させ，食生活の改善を積極的に行うための正しい知識や方法を習得させる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）未定 （2）第一出版編集部編『日本人の食事摂取基準（2010年版）』第一出版 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病学会・文光堂 日本栄養士会編　『平成23年版　管理栄養士ｉ栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第1回　栄養指導の目的，栄養指導の歴史 第2回　食事栄養摂取基準　（身体活動指数，エネルギー） 第3回　食事栄養摂取基準　（各栄養素） 第4回　食品構成（各栄養素の基準量） 第5回　食品構成（栄養比率） 第6回　栄養価の算定（日本食品標準成分表の活用とその留意点） 第7回　各種調査による実態把握（身体状況） 第8回　各種調査による実態把握（生活時間） 第9回　各種調査による実態把握（栄養調査） 第10回　各種調査による実態把握（食生活調査） 第11回　栄養指導の基本的な進め方（個別指導と集団指導 第12回　栄養指導の基本的な進め方（栄養状態の評価） 第13回　栄養指導の基本的な進め方（運動） 第14回　栄養指導の基本的な進め方（休養） 第15回　まとめと試験 第16回　ライフステージと栄養指導（妊産婦） 第17回　ライフステージと栄養指導（乳・幼児期） 第18回　ライフステージと栄養指導（学童期） 第19回　ライフステージと栄養指導（思春期・青年期） 第20回　ライフステージと栄養指導（壮年期） 第21回　ライフステージと栄養指導（高齢期） 第22回　ライフスタイルと栄養指導（生活習慣病） 第23回　ライフスタイルと栄養指導（生活習慣病　肥満症） 第24回　ライフスタイルと栄養指導（生活習慣病　高血圧症） 第25回　ライフスタイルと栄養指導（生活習慣病　糖尿病） 第26回　ライフスタイルと栄養指導（生活習慣病　脂質異常症） 第27回　学校給食と栄養指導 第28回　病院給食と栄養指導 第29回　事業所給食と栄養指導，福祉施設給食と栄養指導 第30回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験の成績（70%），小テスト（10%），授業中に提示する課題（20%）を加え総合的に評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養指導論実習Ⅰ**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法 【概　要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し，個人や集団を対象として，そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のために，栄養アセスメント，栄養指導プログラムの立案，教育媒体・資料の作成，栄養指導の実施・評価を想定し，その実際を学び，栄養指導が実践できるように技術を習得することを目的とする。特に栄養指導論実習Ⅰでは，事業所，学校での栄養指導・教育のシュミレーションを展開し，体験学習により栄養指導・教育に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。 【到達目標】対象者（幼児，学童，生徒）への的確な栄養アセスメント，指導案の作成，媒体の選択，プレゼンテーションのスキルを習得する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）大里進子他著『演習栄養教育』医歯薬 「プリント」 （2）日本栄養士会編　『平成23年版　管理栄養士 栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第１回　栄養指導実習の意義と目的 第２回　栄養指導の基礎知識（食事摂取基準） 第３回　栄養指導の基礎知識（食品構成の作成） 第４回　実態把握の方法⑤食品構成の算定実習（その１） 第５回　実態把握の方法⑥食品構成の算定実習（その２） 第６回　栄養指導の基礎知識（献立作成，食生活指針） 第７回　実態把握の方法　栄養・食事調査 第８回　実態把握の方法　生活調査 第９回　実態把握の方法　身体状況調査 第10回　実態把握の方法　体力測定 第11回　指導案の作成（基本） 第12回　指導案の作成（実践用） 第13回　プレゼンテーションの資料・媒体作成　その１ 第14回　プレゼンテーションの資料・媒体作成　その２ 第15回　発表		
成績評価の方法	授業中に指示する課題（40%），発表（50%），出席状況（10%）を加え総合的に評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養指導論実習Ⅱ**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法 【概　要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し，個人・集団を対象として，そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のために，栄養アセスメント，栄養指導プログラムの立案，教育媒体・資料の作成，栄養指導の実施・評価を想定し，その実際を学び栄養指導が実践できるように，技術を習得することを目的とする。特に栄養指導論実習Ⅱでは，病院での栄養指導のシュミレーションを展開し，体験学習により栄養指導に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。 【到達目標】⑴ 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。 ⑵ 対象に応じた指導案の作成，媒体の選択が出来る。 ⑶ 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）大里進子他著『演習栄養教育』医歯薬 「プリント」 （2）日本栄養士会編　『平成23年版　管理栄養士 栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第１回　集団を対象とした栄養指導の方法　栄養指導内容の作成① 第２回　集団を対象とした栄養指導の方法　栄養指導内容の作成② 第３回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その１ 第４回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その２ 第５回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その３ 第６回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その４ 第７回　個別対症の栄養指導の基本的な考え方 第８回　個別対症の栄養指導の方法　栄養指導計画の作成 第９回　個別対症の栄養指導の方法　栄養指導計画の作成 第10回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その１ 第11回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その２ 第12回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その３ 第13回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その４ 第14回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その５ 第15回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その６とまとめ		
成績評価の方法	発表（60%），授業中に指示する課題と小テスト（30%），出席状況（10%）を加え総合的に評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**公衆栄養学**	担当者	米盛　麻美
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式,実技（発表形式）		
テーマ及び概要	【テーマ】公衆栄養学は，国民の疾病予防と生涯にわたる健康の保持増進を目的に，臨床栄養学，生化学の知識をとりいれながら，地域社会の実践に必要な理論と方法を研究する実践科学である。 本講義では，現在，日本や世界で起こっている栄養学に関わる問題を認識しながら，現代の公衆栄養学上の問題点と栄養学的解決の糸口を考える。 【概　要】日本の栄養摂取状況の変化にともなう，生活習慣病の対策において，栄養士として取り組んでいく方法を具体的に統計調査表などを読むちからをつけながら学んでいく。 【到達目標】公衆栄養学をとりいれて栄養指導を行う方法を学び，実践で役立てるようになること。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）『公衆栄養学』講談社　山本茂・森口博・中原澄男編　第3版（購入必須） （2）『日本人の食事摂取基準（２００５年版）』第一出版 『日本人の食事摂取基準の活用』　第一出版 『栄養カウンセリング論』・『栄養教育論』　講談社		
授業スケジュール	第１回　公衆栄養学の概念 第２回　公衆栄養学の歴史 第３回　わが国の食生活と栄養問題の変遷と現状 第４回　わが国の栄養問題の現状と課題 第５回　食生活とがん・貧血・骨粗鬆症・アレルギー 第６回　食事摂取基準（1） 第７回　食事摂取基準（2） 第８回　わが国の栄養政策（1） 第９回　わが国の栄養政策（2） 第10回　地域栄養学 第11回　実技（発表形式） 第12回　栄養疫学 第13回　公衆栄養学で必要な統計 第14回　国際栄養 第15回　定期試験		
成績評価の方法	筆記試験（８０％），質問に対する回答内容（１０％），授業中に課した課題（１０％）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養情報処理**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】栄養士が健康・栄養状態，食行動，食環境に関する情報の収集・分析，それを総合的に判断する能力を養う。 【概要】栄養士には，集めた情報を統計学的に処理し，客観的に評価することが求められている。そのためには，コンピュータを使用し，短時間で必要な情報をできる限り集め，分析するといったことが必要である。そこで，実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法にはどのようなものがあるかを学ぶ。 【到達目標】本実習は，栄養士業務にかかわる情報処理の基礎ならびにアンケート集計の基礎を学び，これからの栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を身につけることを目的とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（１）未定 「プリント」		
授業スケジュール	第1回　栄養教育とコンピュータ　コンピュータの役割，機能，実際 第2回～第6回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方 ・第2回　度数分布表，ヒストグラム ・第3回　平均値，標準偏差 ・第4回　棒・円・折れ線グラフ ・第5回　散布酢・相関係数 ・第6回　回帰直線 第7回～第12回　データ変換によるデータ集計のまとめ方 ・第7回　単純集計 ・第8回　クロス集計（オッズ比） ・第9回　確立分布 ・第10回　区間推定（母平均の区間推定，比率の区間推定） ・第11回　仮設の検定　（平均の差の検定，比率の検定） ・第12回　クロス集計　（独立性の検定） 第13回～第14回 コンピュータによる献立作成，栄養計算 ・第13回　コンピュータによる献立作成 ・第14回　コンピュータによる栄養計算 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（60%），レポート（30%），出席状況（10%）を加えて総合的に評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅰ	担当者	堀内　正久
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】１．頻度の高い（将来経験するであろう）疾患の病態生理を理解すること ２．病態生理に基づき，栄養の重要性の理解を深めること 【概　要】講義を中心に授業を進める。疾患の病態生理を学習することで，各種疾患の検査データの読み方や栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。 【到達目標】主要な疾患（消化管疾患，肝疾患，代謝性疾患）の病態生理を説明でき，疾患の発症と栄養との関連を認識できること		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）プリント （2）後藤昌義ら　新しい臨床栄養学　南江堂　山口和克　病気の地図帳　講談社 著者多数　病気がみえる　メディックメディア社		
授業スケジュール	第1回：病態生理に基づく疾患の理解1 第2回：病態生理に基づく疾患の理解2 第3回：消化管疾患1 第4回：消化管疾患2 第5回：消化管疾患3 第6回：消化管疾患4 第7回：肝疾患1 第8回：肝疾患2 第9回：肝疾患3 第１０回：肝疾患4 第１１回：代謝性疾患1 第１２回：代謝性疾患2 第１３回：代謝性疾患3 第１４回：代謝性疾患4 第１５回：まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（80%）＋　授業ごとに実施する小テスト（20%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅱ	担当者	堀内　正久
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】１．頻度の高い（将来経験するであろう）疾患の病態生理を理解すること ２．病態生理に基づき，栄養の重要性の理解を深めること 【概　要】講義を中心に授業を進める。疾患の病態生理を学習することで，各種疾患の検査データの読み方や栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。 【到達目標】主要な疾患（循環器疾患，腎疾患，呼吸器疾患など）の病態生理を説明でき，疾患の発症と栄養との関連を認識できること		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）プリント （2）後藤昌義ら　新しい臨床栄養学　南江堂　山口和克　病気の地図帳　講談社 著者多数　病気がみえる　メディックメディア社		
授業スケジュール	第1回：循環器疾患1 第2回：循環器疾患2 第3回：循環器疾患3 第4回：腎疾患と体液調節1 第5回：腎疾患と体液調節2 第6回：腎疾患と体液調節3 第7回：呼吸器疾患1 第8回：呼吸器疾患2 第9回：内分泌疾患1 第１０回：内分泌疾患2 第１１回：血液疾患 第１２回：免疫とアレルギー 第１３回：発熱・感染症 第１４回：小児と妊産婦と臨床検査他 第１５回：まとめと試験		
成績評価の方法	成績評価の方法：筆記試験（80%）＋　授業ごとに実施する小テスト（20%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**臨床栄養学実習**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期集中 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習　病院での栄養士全般の業務による実習 【概　要】県内外の医療現場での２週間の実習で献立作成，給食業務と同様以下のような内容を学ぶ。 1，医療に携わる他職種と連携を図ったチーム７医療の中で，専門職として栄養士の実情を把握。 2，対象者の臨床成績を把握し，的確な食事計画や栄養管理，臨床栄養指導。 3，対象者の心理を理解し信頼を得る。 【到達目標】医療現場で提供されている治療食の実態を把握し，実際に遂行されている栄養士の栄養管理業務の習得		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴ 臨床栄養学実習ノート ⑵ 『臨床栄養学実習書』　医歯薬出版 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版		
授業スケジュール	各施設による特徴 1，院内における栄養部門の位置と役割 2，病院給食管理業務の実際 3，供食状況の実際 4，病態栄養管理業務の実際 5，栄養指導業務の実際 6，栄養教育用媒体および指導評価の方法 実習終了後，報告発表を行う。		
成績評価の方法	実習ノート（30%），報告発表（10%），実習態度および出席（60%）		

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	**病理学**	担当者	山田　博久
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】人体等における病気の成り立ち。 【概　要】 １．　ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。 ２．　学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。また学習効果を上げるために一つの項目を繰り返して授業することもあります。 【到達目標】管理栄養士国家試験勉強に必要な基本知識を得ること。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）系統看護学講座　専門基礎４　病理学 （2）特に定めないが，さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。		
授業スケジュール	第１回　病理学で学ぶこと 第２回　炎症，免疫，感染症 第３回　循環障害，循環器，呼吸器系の疾患 第４回　消化器系，腎泌尿器系，神経系，内分泌系の疾患 第５回　先天異常，遺伝子異常，代謝障害，腫瘍，血液の疾患，老化と死 第６回　補足，（症例など） 第７回　補足，（症例など） 第８回　試験(筆記試験)		
成績評価の方法	筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。（質問や発言は高く評価することもあります。）		

※ 7.5回

授業科目	学校栄養教育論	担当者	町田　和恵・木場　幸子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法 【概　要】　学校での年間指導計画の下に学校給食の時間や学級活動，総合的な学習の時間などにおいて，学級担任や教科担任と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。児童・生徒の栄養に関する指導及び学校給食の管理をつかさどる栄養教諭は，これらを一体的に担う職員として，教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有する必要がある。学校給食を生きた教材として活用し，効果的な指導を行うために，栄養教諭の役割や職務内容，食文化，食に関する指導方法等について学ぶ。 【到達目標】　児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導や学校教育全体に参画し，学級担任や養護教諭，学校外関係者と連携して食に関する教育を行うために，実践を兼ねた演習を行い，知識や方法を修得させる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）金田雅代『栄養教諭論』建帛社 （2）坂本元子『こどもの栄養・食教育ガイド』医歯薬出版 山本公弘『気がるにできる総合学習・体験学習－新しい栄養指導３』東山書房 文部科学省「食生活学習教材」		
授業スケジュール	第１回～４回　栄養教諭の役割及び職務内容（担当：町田） ・第１回　児童・生徒に対する栄養指導と栄養管理の意義，現状と課題 （児童・生徒の食事に関する実態把握，分析等に必要な事項を含む） ・第２回　栄養教諭の職務内容，使命，役割 ・第３回　学校給食の意義，役割等 ・第４回　児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会的事情，法令及び諸制度 第５回　幼児・児童・生徒の栄養に係る諸課題（担当：町田） 第６回　児童・生徒の栄養に係る諸課題（国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む）（担当：木場） 第７回　食生活に関する歴史的及び文化的事項（担当：町田） 第８回～11 回　食に関する指導の方法（対象実態把握等）（担当：木場） ・第８回　食に関する指導に係る全体的な計画の作成（計画・実施・評価） 給食の時間における食に関する指導（地場産品の活用含む） 栄養教諭が行う授業の特性，発達に応じた食に関する指導， 食生活学習教材の活用 ・第９回　教科における食に関する指導（家庭科，技術・家政科，体育科，保健体育科，その他の教科） 効果的な栄養教諭の授業参画 ・第 10 回　道徳，特別活動における食に関する指導 生活科，総合的な学習の時間における食に関する指導 ・第 11 回　食物アレルギー等食に関する特別な指導等を要する児童・生徒，他の児童・生徒への指導上の配慮 第1 2回～14 回　児童・生徒への指導上の配慮（担当：木場・町田） ・第 12 回　食に関する指導の指導案作り ・第 13 回　学生が作成した指導案の発表，相互批評等 ・第 14 回　模擬授業，指導効果の評価 学校，家庭，地域と連携した食に関する指導 第 15 回　まとめと試験（担当：木場・町田）		
成績評価の方法	筆記試験（80%）＋小テスト・レポート（20%）により評価する。		

（注）教職必修

授業科目	**有機化学概論**	担当者	釜田　忠
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】自然界の物質や人工的に合成された物質の構造，性質，変化学ぶ科学の基礎知識について理解を深める。 【概　要】食物栄養専攻の専門科目や実験・実習を学んでいく上で化学の知識が要求される。本講義では化学の基礎的な知識を習得するために，原子，化学反応，化学結合，有機化学の基礎的な知識を学習する。 【到達目標】食物栄養専攻で履修する専門科目の基礎科目でることを念頭に，「化学」という学問に親しみを感じること。そして，専門科目に必要な基礎的知識を習得し，これから学んでいく専門科目の理解を一層深める手助けとなることを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第１回：ガイダンス　・有機化学概論の概要説明 第２回：原子の構造　・電子構造と混成軌道 第３回：化学結合　・共有結合，イオン結合，配位結合，水素結合 第４回：化学反応　・化学反応と反応式 第５回：酸化・還元 第６回：溶液の濃度　・溶液の濃度，中和反応 第７回：有機化合物　・有機化合物の特徴，分子式と構造式 第８回：異性体　・構造異性体，立体異性体，光学異性体 第９回：有機化合物の種類と反応１　・脂肪族化合物 第10回：有機化合物の種類と反応２　・アルコール，エーテル，エステル 第11回：有機化合物の種類と反応３　・カルボニル化合物とカルボン酸 第12回：有機化合物の種類と反応４　・芳香族化合物と複素環式化合物乳 第13回：有機化合物の反応 第14回：生体高分子　・炭水化物とタンパク質 第15回：まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋　小テスト（30%）		

授業科目	**生物概論**	担当者	夛田　司
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】生命科学を学ぶための基礎となる生物学の概念と考え方を系統的に理解する。 【概　要】生物を構成する物質の化学構造と特徴についての理解から始まって，細胞の構造や機能，生命維持のためのエネルギー代謝の仕組み，さらに遺伝についての基本的概念を学習し，最後に動物の生殖と体の成り立ち，恒常性の維持や刺激に対する応答について学習を進める。また，それぞれのテーマに関するいろいろな話題を取り上げて，生物に対する理解を深める。 【到達目標】食物栄養専攻で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭に，生命現象や生活現象を基礎的，原理的な面から理解できるようになること，特に高校で生物を履修していなかった学生が，生命や生活の機構の精緻さに興味を持ち，これから学ぶ専門科目をさらに深く理解できるようになることを到達目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）大島泰郎 監修『生命科学のための基礎シリーズ 生物』実教出版　2007 年 適宜，プリントによる資料も配付する。 （2）あれば講義中に紹介する。		
授業スケジュール	第１回　ガイダンス：生物概論を学習するにあたって 第２回　分子から細胞へ：生体を構成する分子 第３回　細胞の構造と機能：生物の体の成り立ちについて 第４回　細胞分裂と細胞周期：体細胞分裂と核の変化 第５回　生命活動とエネルギー代謝：同化，異化 第６回　生命活動とエネルギー代謝：解糖系，TCA 回路，電子伝達系 第７回　生命活動とエネルギー代謝：光合成 第８回　遺伝と遺伝情報：メンデルの法則とセントラルドグマ 第９回　遺伝情報とその複製：遺伝子の本体 DNA 第10回　遺伝情報の発現：遺伝情報からタンパク質合成へ 第11回　生殖と発生：減数分裂と性の決定 第12回　生殖と発生：配偶子形成と受精，発生 第13回　個体の構造と機能：内分泌系と中枢神経系 第14回　個体の構造と機能：生体防御 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）により評価する。		

９　生活科学専攻専門科目

授業科目	**衣生活学**	担当者	多々良　尊子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 生活における衣服の役割を，ファッション，消費性能，環境，生活文化など多様な視点から考える。 【概　要】 衣服は常に人体の近くにあり，第二の皮膚と言われる。衣服を着ることによって生じる人と衣服の相互作用，社会と衣服の相互作用を基本として，合理的で快適な衣生活を営むために必要な知識と感性について複合的に解説する。 【到達目標】 現在の衣生活について，近接環境としての衣服，自己表現としての衣服，生活文化としての衣服など多面的にアプローチして論じることができる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）使用しない。適宜，プリントを配布する。 （2）田村照子『衣環境の科学』建帛社 文化服装学院『アパレル品質論』文化服装学院教科書出版部		
授業スケジュール	第 1 回　近接環境としての衣服：空気を着る，光を着る 第 2 回　衣服の機能(1)：人体の構造と衣服の構成 第 3 回　衣服の機能(2)：人体保護，気候調整，清潔 第 4 回　衣服の成り立ち(1)：日本服飾史，和服の構成の特徴 第 5 回　衣服の成り立ち(2)：西洋服飾史，立体構成の特徴 第 6 回　自己表現としての衣服(1)：デザインとコーディネート，イメージマップ，外見と評価 第 7 回　自己表現としての衣服(2)：ファッション，モード，スタイル，プレタポルテ，既製服 第 8 回　自己表現としての衣服(3)：流行のメカニズム，ブランドの価値 第 9 回　衣服の生産：繊維メーカー，テキスタイルメーカー，アパレルメーカー，生産システム 第10回　衣服の流通：アパレル卸売業，小売業，ファッション情報 第11回　衣服の消費：アパレル商品の分類と名称，品質管理と消費性能，価格 第12回　衣服の取り扱い(1)：洗濯の条件，洗濯機器，クリーニング 第13回　衣服の取り扱い(2)：洗剤・仕上げ加工剤の種類と特徴，保存 第14回　衣生活にかかわる環境問題：資源・エネルギー問題，化学物質のリスク，生態系に及ぼす影響 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験（80%），ノート作成（20%）		

（注）教職必修

授業科目	**衣造形論**	担当者	多々良　尊子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】衣服の造形に必要なことは何か　ー服飾文化の歴史を知ること，感性をみがくこと，人体構造を理解すること，衣服製作のために必要な技術を身につけることー 【概　要】衣服の造形は，単に「衣服の形を作る」だけではない。自分の個性を表現し，地域の生活文化を活かし，安全で快適な近接環境を形成することが求められる。多様な価値観を反映させるために，衣服造形の基礎的な理論と実践方法を学ぶ。 【到達目標】衣造形に必要な知識を理解し，衣造形実習での応用につなげる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）使用しない。適宜，プリントを配布する。 （2）三吉満智子『服装造形学　理論編Ⅰ』文化出版局 千村典生『ファッションの歴史』平凡社		
授業スケジュール	第 1 回　衣服造形学の内容：服飾デザイン，パターンメーキング，テキスタイルデザイン，縫製，消費科学，服装社会学など 第 2 回　衣服の種類と名称 第 3 回　西洋服飾史(1)：古代から中世まで 第 4 回　西洋服飾史(2)：近世から現代まで 第 5 回　日本服飾史(1)：和服の成立と染織工芸の歴史 第 6 回　日本服飾史(2)：和服から洋服へ 第 7 回　人体の構造と人体計測 第 8 回　衣服のパターン(1)：平面構成と立体構成 第 9 回　衣服のパターン(2)：原型の種類と作図法 第10回　衣服のパターン(3)：パターンの展開とシルエット 第11回　衣服のサイズ：年齢・性別・体型によるサイズ展開 第12回　ファッションブランド：オートクチュールからファストファッションまで 第13回　ファッションデザイナーの個性 第14回　ファッションイメージと自己表現 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験（80%），製図やデザインなどの課題（20%）		

授業科目	**繊維と染織**	担当者	坂上　ちえ子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】 衣服（被服）の素材である布や繊維とそれらを装飾する染織について学ぶ。 【概　要】 衣服（被服）は私たちの最も身近な環境であるにもかかわらず，その特性は十分に知られていない。この科目では被服材料と染織の２つの方向から衣服に対する理解を深めていく。いずれについても，物理的，化学的基礎事項を消費科学的視点から捉え，試料の観察や簡単な実験なども行い把握していく。染織についてはさらに，その歴史や文化，伝統技法も取り上げる。 【到達目標】 基礎事項を修得し，さらに修得した内容を今後の衣服選択や購入に反映できるようになること。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）プリント （2）随時紹介		
授業スケジュール	第１回　オリエンテーション 第２回　被服材料　繊維の種類と構造 第３回　被服材料　糸と織物・編物 第４回　被服材料　消費性能(1)－外観的性能 第５回　被服材料　消費性能(2)－物理的性能 第６回　被服材料　新素材と機能性付与素材 第７回　被服材料　繊維製品の表示と取り扱い 第８回　染織　化学染料の種類とメカニズム 第９回　染織　天然染料の種類とメカニズム 第10回　染織　テキスタイルの製造工程 第11回　染織　染織の歴史と文化 第12回　染織　日本の伝統染織技法(1)－織り 第13回　染織　日本の伝統染織技法(2)－染め 第14回　染織　鹿児島の染織－大島紬 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（80%）＋授業での活動内容（20%）		

授業科目	**衣生活学実習**	担当者	多々良　尊子
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】衣生活における消費者の視点は，量から質へ，機能性から感性へと変化している。素材や加工剤の多様化，感性重視の商品開発が行なわれる中で，安全・安心な衣生活を営むためには，消費科学的知識が不可欠である。社会的な問題を抽出し，それを解決するための要因を整理して，今後の課題をまとめる。 【概　要】衣服の機能性を調べる実験や消費者問題にかかわる演習を行ない，衣生活の安全・安心について考える。また，鹿児島の衣生活文化について調査する。 【到達目標】衣生活にかかわる社会的な課題に主体的に取り組み，解決することができる。鹿児島の衣生活文化について理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）使用しない。適宜，プリントを配布する。 （2）田中直人・箕寺貞子『ユニバーサルファッション』中央法規 日下部信幸『衣生活のもの作りと科学実験』家政教育社		
授業スケジュール	第１回　衣生活の安全・安心にかかわる課題 第２回　衣服の消費性能試験(1)　織物・編物の構造 第３回　衣服の消費性能試験(2)　保温性 第４回　衣服の消費性能試験(3)　吸湿性 第５回　衣服の消費性能試験(4)　織物・編物の製作 第６回　衣服の品質表示の規程と問題点 第７回　衣服のサイズ表示の規程と問題点 第８回　せっけん・洗剤類の表示規程と問題点 第９回　ユニバーサルファッション(1)　動作，姿勢，障がいと衣服の構成，加齢による体型変化とサイズ対応 第10回　ユニバーサルファッション(2)　生活を楽しみ，社会参加を促進するデザイン 第11回　ドレーピングの基礎(1)　ピンワーク 第12回　ドレーピングの基礎(2)　素材別のドレーピング 第13回　鹿児島の衣生活の歴史 第14回　鹿児島の伝統的な衣生活について聞き取り調査 第15回　プレゼンテーション		
成績評価の方法	レポート３回（60%），プレゼンテーション（20%），グループワークにおける貢献度（20%）		

授業科目	衣造形実習Ⅰ	担当者	多々良　尊子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】基礎的な縫製技術の習得とブラウスの製作 【概　要】衣服製作をするために縫製技術の習得は不可欠である。合理的で美しい縫い方を身につけることにより，造形の幅を広げる。ブラウスの製作を行うことにより，採寸・製図・裁断・仮縫い・縫製の流れを把握し，人体と衣服の形態について考察する。 【到達目標】縫製器具・機器の使用法を理解し，衣服の製作過程を経験する。製図を立体化するイメージをつかむ。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）使用しない。適宜，プリントを配布する。 （2）文化服装学院『文化ファッション大系　服飾造形講座３　ブラウス・ワンピース』文化服装学院教科書出版部 八角節子『わかりやすい写真でマスターする　縫い方の基礎の基礎』文化出版局		
授業スケジュール	第１回　洋裁用具・機器の種類と扱い方 第２回　基礎縫い(1) 運針，まつり縫い（普通まつり，奥まつり，たてまつり，流しまつり），丈夫で美しい縫い方 第３回　基礎縫い(2) ボタンつけ，スナップつけ，かがり縫い 第４回　基礎縫い(3) ミシンとロックミシンの練習 第５回　人体計測と製図法 第６回　ブラウスのデザインと製図 第７回　ブラウスの裁断と印つけ 第８回　仮縫い，試着，補正 第９回　身頃の縫製 第10回　衿：衿つくりと衿つけ 第11回　袖：袖下とカフス 第12回　袖つけ 第13回　身返しとボタンホール 第14回　ボタンつけと仕上げ 第15回　コーディネートの提案		
成績評価の方法	製作技術（50%），作業の着実性（30%），プレゼンテーション（20%）		

（注）教職必修

授業科目	衣造形実習Ⅱ	担当者	多々良　尊子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】スカートの製作とコーディネート 【概　要】スカートは，女性の服飾の歴史の中で最も古く，また，年令にかかわらずに広く着用されている基本的な衣服である。シルエットやスカート丈により，様々なデザインを展開することができ，個性を表現するコーディネートにおける重要なアイテムである。スカートのデザインの特徴について学び，裏布つきスカートの製作実習を行なう。 【到達目標】実習を通して，スカートの製図，裁断，ウェストまわりの構成，ファスナーつけ，裏布の取り扱いなどを習得する。スカートを基本とするコーディネートを提案する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）使用しない。適宜，プリントを配布する。 （2）文化服装学院『文化ファッション大系　服飾造形講座２　スカート・パンツ』文化出版局 笠井フジノ『わかりやすい写真でマスターする　スカート&パンツの縫い方の基礎』文化出版局		
授業スケジュール	第１回　スカートの機能とデザイン 第２回　体型と製図 第３回　表布の裁断，印つけ 第４回　仮縫い 第５回　試着，補正 第６回　裏布の裁断，印つけ 第７,８回　表布の縫製 第９回　ファスナーつけ 第10,11回　裏布の縫製 第12回　表布と裏布のまとめ 第13回　ウエストまわりの縫製 第14回　仕上げ 第15回　コーディネートの提案		
成績評価の方法	製作技術（50%），作業の着実性（30%），プレゼンテーション（20%）		

授業科目	**衣造形実習Ⅲ**	担当者	森田　寛子
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 和服―平面構成の基礎と実際― 【概　要】 和服の歴史的背景を探り，日本の民族衣装としての伝統を受け継ぎながら，さらに時代に即応した新しいきものについて理解を深める。 女物単衣長着の製作を通して，基礎的事項を把握し，能率的にすすめる技術を習得する。 【到達目標】 ・和服全般の基礎知識を深める。 ・ゆかたの完成および美しい着付けの習熟をはかる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）プリント （2）田京てる子著「和裁の基礎」衣生活研究会		
授業スケジュール	第１回　和服総論 第２回　基礎技法 第３回　女物ひとえ長着理論 第４回　女物ひとえ長着製作，柄合わせ 第５回　裁ち方 第６回　袖つくり 第７回　身ごろ標つけ，背縫い 第８回　居敷当・肩当て 第９回　衽の標つけ，衽つけ 第10回　衿つくり 第11回　衿つけ 第12回　脇縫い 第13回　袖つけ，裾ぐけ 第14回　着つけ実習 第15回　和服礼法		
成績評価の方法	作品評価（６０％），実習への取り組み（２０％），着付け（２０％）		

授業科目	**住生活学**	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テ ー マ】　人間の生活行為と住空間の関連について学ぶ。 【概　　要】　今日的課題について考えるときに必要な，住居の果たすべき役割を理解し，設計に必要な計画学的思考法を知る。 【到達目標】　住居のありかたと選択・取得・設計の際に注意すべきことを修得する。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1) 内藤ほか「設計に活かす建築計画」彰国者 2010　ISBN978-4-7615-2484-5 (2) 小原二郎ほか「インテリアの計画と設計」彰国社		
授業スケジュール	第 1回　住居計画学１：住居の成立条件とプロセス 第 2回　住居計画学２：計画と設計の実際 第 3回　建築と住居１：住居存在 第 4回　建築と住居２：集合住宅 第 5回　建築と住居３：福祉施設と医療施設 第６回　建築と住居４：公共施設と学校 第７回　建築と住居５：図書館　博物館 第 8回　高齢者と居住：高齢者の特質と住空間 第 9回　計画・設計：手法と表現の基礎 第10回　平面計画１：空間の性質とゾーニング 第11回　平面計画２：アクティビティとシークエンス 第12回　平面計画３：ユニバーサルデザインと住居・建築 第13回　住宅問題：住環境問題　住宅政策 第14回　我々はどう住むか 第1 5回　まとめと試験		
成績評価の方法	試験（100%）による。		

（注）教職必修，二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目(学生便覧参照)

授業科目	**住居史**	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テ ー マ】　現代住居を理解するうえで日本居住史の理解が欠かせない。 【概　　要】　日本固有の伝統のうえに成り立っている日本の住居の歴史とその特質を知る。 【到達目標】　講義では日本建築史を学びながら現代住居との関連でその姿を概括し，世界の住居とも比較しながら検討の材料とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1) コンパクト版建築史　日本・西洋　「建築史」編集委員会編著　ISBN9784-4-395-00876-6		
授業スケジュール	第１回　建築史序説　：歴史と住居　上古の住まい方　竪穴式住居と高床式住居 第２回　古代建築　：神社建築と住居　仏教建築と住居　貴族住居・都城の成立 第３回　中世の建築と住居１　：浄土建築　大仏様　禅宗様　主殿造り） 第４回　中世の建築と住居２　：和洋　折衷様　中世住居から書院の成立 第５回　近世の建築と住居１　：座敷と玄関の成立 第６回　近世の建築と住居２　：茶室と数寄屋 第７回　近世の建築と住居３　：民家　町家と農家 第８回　近代の建築と住居４　：洋風住宅と近代化 第９回　西洋建築史概論１　：エジプト　オリエント　ギリシャ 第10回　西洋建築史概論２　：ローマ　初期キリスト教　ビザンチン　ロマネスク 第11回　西洋建築史概論３　：ゴチック　ルネッサンス　バロック　リヴァイバル 第12回　西洋建築史概論４　：産業革命と近代建築 第13回　アジアの住居と集落　：中国（台湾）　朝鮮半島　インドネシア 第14回　現代の建築と住居　：モダニズム　ポストモダニズム　日本現代建築 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	レポート（100%）による。		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目(学生便覧参照)

授業科目	**住居・インテリア設計学**	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 住居とインテリアの設計と表現・プレゼンテーション手法 【概　要】 住空間を構成する様々なインテリア・エクステリア要素について学習するとともに，計画・設計に際して必要となるエスキースについて理解する。また，作図課題を通し，住空間を平面的・立体的に表現する作図手法を習得する。 【到達目標】 設計条件を整理し，合理的な間取りを検討し，それを平面的・立体的に表現し，他者に対し理論的・視覚的にプレゼンテーションする一連の「設計プロセス」を理解することを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）授業中に指示 （2）渡辺秀俊編『インテリア計画の知識』彰国社		
授業スケジュール	第 1回　設計の実務　：設計の業務内容とプロセス 第 2回　様々な図面表現１　：配置図・平面図・立面図 第 3回　様々な図面表現２　：断面図・展開図・天井伏図 第 4回　透視図１　：一点透視図 第 5回　透視図２　：二点透視図 第 6回　透視図３　：アイソメ図・アクソメ図 第 7回　身体寸法と単位空間　：校内フィールドサーベイ 第 8回　インテリアエレメント１　：照明・家具・他 第 9回　インテリアエレメント２　：床・壁・開口部・他 第10回　エクステリアエレメント　：外構（庭）計画・敷地図 第11回　住居設計エスキース１　：設計条件の整理と設定・各所要室の大きさ 第12回　住居設計エスキース２　：アプローチと玄関・各室との関係・ゾーニング 第13回　住居設計エスキース３　：畳グリッドを用いた間取りプランニング 第14回　建築空間プレゼンテーション　：プレゼンテーションテクニック 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	授業中の作図課題（６０%）＋レポート（４０%）		

(注) 二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目（学生便覧参照）

授業科目	**設計製図Ⅰ**	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テ ー マ】　設計製図Ⅰは住居を計画・設計するときに必要な図法と表現法を習得する。 【概　　要】　実習は設計製図法の基礎から始め，単位空間から住居空間にいたる計画・設計を行う。 【到達目標】　小住宅の設計に必要な図面製作と模型製作の方法を習得して発表する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2)		
授業スケジュール	第１回　製図基礎１　：線の種類と意味　模写 第２回　製図基礎２　：平面記号の練習　模写 第３回　作品研究プレゼンテーション：プレゼンテーション 第４回　小空間の計画　：平面図　立面図の製作 第５回　小空間の製作　：断面図　その他の製作 第６回　模型による表現　：模型表現基礎 第７回　小住宅の計画と設計１　：作品構想プレゼンテーション 第８回　小住宅の計画と設計２　：平面計画と平面図１ 第９回　小住宅の計画と設計３　：平面計画と平面図２ 第10回　模型製作１　：模型製作 第11回　模型製作２　：模型製作 第12回　模型製作３　：模型製作 第13回　プレゼンテーション製作　：プレゼンテーションボードの製作 第14回　成果発表　：プレゼンテーション 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	成果物（100%）の評価による		

（注）二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修C科目(学生便覧参照)

授業科目	**設計製図 Ⅱ**	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テ ー マ】　各種詳細図の表現法を習得したうえで，小住宅を計画・設計する。模型を製作してこれを完成させる。 注）住居・インテリア設計学の履修が望ましい。 【概　　要】　３世代住宅の計画と設計を行い，図面と模型でこれを表現し，発表する。 【到達目標】　詳細図の表現を修得し，住宅設計の成果をわかりやすくプレゼンテーションする。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)　未定 (2)		
授業スケジュール	第1回 平面詳細図1　：　真壁と大壁) 第2回 平面詳細図2　：　開口部:ドア 第3回 平面詳細図3　：　開口部:窓 第4回 平面詳細図4　：　開口部:和室建具 第5回 平面詳細図5　：　開口部:木造平面図 第6回 断面詳細図1　：　断面図 第7回 断面詳細図2　：　矩計詳細図 第8回 断面詳細図3　：　計詳細図 第9回 住宅の計画と設計 第10回 住宅の計画と設計 第11回 住宅の計画と設計 第12回 住宅の計画と設計 第13回 住宅の計画と設計 第14回 住宅の計画と設計 第15回 プレゼンテーション　：　成果発表		
成績評価の方法	成果物（100%）の評価による		

（注）二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修C科目(学生便覧参照)

授業科目	**住居構造学Ⅰ**	担当者	徳富　久二
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択(注)　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　住居を主とする建築物を構成する要素とその特徴および構築するための構造方式について学ぶ 【概　要】　建物にはたらく力　木造，鉄骨造，鉄筋コンクリート造，基礎などの概要と特徴について講ずる。 【到達目標】　さまざまな構造形式に対応した構工法など建築全般について，知識として蓄積する。		
（1）テキスト （2）参考文献	図説　やさしい建築一般構造，今村仁美・田中美都，学芸出版社		
授業スケジュール	第 1回　建物にはたらく力　……　建物にはたらく力 第 2回　木構造　1　……　木材の特徴と性質 第 3回　2　……　木構造の構造形式 第 4回　3　……　在来工法　枠組壁工法 第 5回　鉄骨造　1　……　鋼材の特徴と性質 第 6回　2　……　鉄骨造の接合と各部の構法 第 7回　鉄筋コンクリート造　1　……　鉄筋とコンクリートの特徴と性質 第 8回　2　……　鉄筋コンクリート造の原理と構造形式 第 9回　3　……　鉄筋の配筋，各部の構法 第10回　4　……　壁式鉄筋コンクリート造 第11回　その他の構造　……　鉄骨鉄筋コンクリート造　プレストレストコンクリート造　基礎 第12回　下地と仕上げ　1　……　屋根，壁，床 第13回　2　……　天井　防水 第14回　3　……　開口部　階段 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（６０％）＋　レポート（４０％）		

(注)　二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目（学生便覧参照）

授業科目	**住居構造学Ⅱ**	担当者	徳富　久二
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　構造物の安全性と力学との関わりについて学ぶ 【概　要】　構造物に作用する力によって，構造物の柱，はりなどの部材に生じる力を求め，安全性を検討する。 【到達目標】　静定構造物，トラスの応力を求め，変形を求める基本的手法，不静定構造物の基本的考え方を理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	やさしい建築の構造力学，山田　修　著，オーム社		
授業スケジュール	第 1回　構造物の安全性　……　講義の概要　構造物の安全性を検討するには 第 2回　力の釣合　1　……　表現，記号と単位， 第 3回　2　……　力の合成と分解，構造物の支持状態 第 4回　3　……　構造物の反力，静定と不静定，安定と不安定 第 5回　片持はり，単純はり　1　……　応力　力の釣合と軸方向力，せん断力，モーメントと曲げモーメント 第 6回　2　……　応力図（軸方向力図，せん断力図，曲げモーメント図） 第 7回　門型静定ラーメン　……　図式解法と数式解法 第 8回　静定構造物の演習　……　各種静定構造物の応力図 第 9回　トラス骨組の解析　……　力の釣合の表現　切断法 第10回　材料の試験　応力度　……　応力度とひずみ度　断面内の応力 第11回　断面の性質　……　断面１次モーメント　断面２次モーメント 第12回　曲げモーメント，せん断力による応力　曲げ応力度，せん断応力度 第13回　柱の圧縮　……　短柱の圧縮　長柱の圧縮（座屈） 第14回　不静定構造物（１次不静定）……　不静定構造物の考え方　１次不静定構造物の解法 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（６０％）＋　レポート（４０％）		

(注)　二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目（学生便覧参照）

授業科目	**住居環境学**	担当者	曽我　和弘
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 快適で環境に優しい住いや建築物の計画 【概　要】 居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには，建築環境（熱・光・音・空気・水環境）をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では，適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法，さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。 【到達目標】 建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)三浦昌生 著，基礎力が身につく建築環境工学，森北出版株式会社		
授業スケジュール	第１回　気候と建築環境 第２回　建築環境と建築設備 第３回　光環境計画 第４回　照明設備計画 第５回　熱環境計画１ 第６回　熱環境計画２ 第７回　空調設備計画 第８回　住まいと結露 第９回　音環境計画１ 第10回　音環境計画２ 第11回　空気環境計画１（室内空気汚染） 第12回　空気環境計画２（通風，換気） 第13回　換気設備計画 第14回　給排水設備計画 第15回　定期試験		
成績評価の方法	筆記試験（80%）とレポート（20%）で評価する。		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目（学生便覧参照）

授業科目	**住居環境学演習**	担当者	曽我　和弘
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 身近な居住環境の快適性や健康性の測定 【概　要】 居住環境の物理環境（熱・光・音・空気など）の測定を行い，測定データに基づいて，居住環境の快適性や健康性の評価を行う。測定を通して物理環境の測定法を修得すると同時に，データ処理にはパソコンの表計算ソフトなどを活用しパソコンの利用技術を養う。また，気候と住居形態，環境共生住宅に関する調査を通して，環境にやさしい住居に対する理解を深める。 【到達目標】 身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な測定・評価方法を習得する。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)三浦昌生 著，基礎力が身につく建築環境工学，森北出版株式会社およびプリント		
授業スケジュール	第１回　クリモグラフの作成と気候に適した住居形態調査 第２回　日影図の作成と日照環境の評価 第３回　教室の照度分布測定 第４回　照明計算 第５回　レポート発表会 第６回　屋外気候の測定 第７回　室内気候の測定 第８回　定常結露計算 第９回　交通騒音測定 第10回　教室の騒音測定 第11回　レポート発表会 第12回　CO_2濃度等の測定と評価 第13回　HCHO及び揮発性有機化合物の濃度測定及び評価 第14回　環境共生住宅に関する調査 第15回　レポート発表会		
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度，レポートの内容及び発表内容を総合的に評価する。		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目（学生便覧参照）

授業科目	**建築材料学**	担当者	迫田　順一
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テ ー マ】住居を中心とした建築物を構成する様々な材料とその特質 【概　　要】どのような材料がどの様な特質を持ち，どのように使われて建築物が構築されているのかについて可能な限り現物を見ながら学ぶ。 【到達目標】講義では建築材料の特質と建築の各種構造方式と仕上工事の関係について，工種毎に理解することを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）松本進　「図説　やさしい建築材料」　学芸出版社 （2）建築学会篇　「建築材料用教材」　彰国社		
授業スケジュール	第 1回　構法と建築材料 第 2回　主要構造部材と仕上材 第 3回　木材１　特性 第 4回　木材２　用法 第 5回　木材３　種類と用法 第 6回　コンクリート１　特性 第 7回　コンクリート２　配合と強度 第 8回　コンクリート３　製作 第 9回　鉄材１　鉄筋 第10回　鉄材２　鉄骨と接合 第11回　その他の主要材料（石・左官・ガラス・建具） 第12回　材料の力学（曲がりにくさ） 第13回　環境にやさしい建築材料 第14回　材料の積算 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目（学生便覧参照）

授業科目	**建築生産**	担当者	迫田　順一
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テ ー マ】各種建築構造方式の生産過程について学ぶ。 【概　　要】住居を中心とした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で，建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する。 【到達目標】講義では建築の各種構造方式の施工手順について，工種と工程に沿って理解することを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）今村仁美，田中美都　『図説　やさしい建築一般構造』　学芸出版社 （2）久富洋，古澤忠正　『図説　建築施工入門』　彰国社		
授業スケジュール	第1回　構法と施工過程 第2回　木構造と木工事 第3回　鉄筋コンクリート造と鉄筋・型枠・コンクリート工事 第4回　鉄骨構造 その他の構造 第5回　建具・ガラス・屋根・防水工事・その他の仕上げ工事 第6回　施工計画と管理 第7回　契約と実行 第8回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目（学生便覧参照）　※7.5回

授業科目	**建築法規**	担当者	西薗　幸弘
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 建築物の安全や衛生を守り，都市の防災対策や街並みを形成するための基準である建築基準法 【概　要】 建築物は，人間の生活や社会活動の基盤であり，社会資本でもある。建築物は，建築基準法など建築法規に適合させる必要がある。 建築物の構造安全性，防火規定，室内環境，避難規定，集団規定など建築物の基本法としての建築基準法について，解説する。 【到達目標】 建築物，特に住宅を建築する際に，必要な建築法規の基礎を理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	超入門 建築基準法―イラスト解説による―		
授業スケジュール	第 1回　建築基準法の基礎　1　建築基準法の目的と構成 2　法規を理解するための用語，面積や高さの算定方法等 第 2回　構造耐力に関する規定　1　荷重や外力に対し安全性を確保するための構造計算に関する規定 2　木造，鉄筋コンクリート造等の構造方法に関する規定 第 3回　防火に関する規定　1　耐火建築物等しなければならない特殊建築物 2　火災の拡大を防止する防火区画 第 4回　室内環境に関する規定　1　室内の環境を守る採光・換気 2　シックハウス対策等 第 5回　避難に関する規定　1　安全に避難するための内装制限，廊下や直通階段等 2　排煙設備，非常用照明設備等 第 6回　位置や形状に関する規定　1　都市計画区域内の道路と敷地 2　用途制限 3　容積率，建ぺい率，高さ制限等の形態規制 第 7回　その他の関係法令　1　建築基準法に基づく手続き 2　建築士法，都市計画法の建築関連法 第 8回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目（学生便覧参照）　※7.5 回

授業科目	**生活化学**	担当者	井余田　秀美
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】身の回りの化学物質について学び，生活の様式や環境との関わりについて考える。 【概　要】多くの人が豊かで快適に暮らすために化学の果たす役割は大きい。人はこれまで，自然の物をうまく利用したり，自然にはない有益な物を作り出して，生活のために活用してきている。しかしながら一方で，人工の有害物質や生活や生産活動に伴う大量の廃棄物等が，人の生活や自然環境を損なってきている。本講義では，生活の中の化学物質について学ぶ。 【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）環境と人にやさしい化学」田中春彦著(陪風館)をテキストとして使用する。 （2）		
授業スケジュール	第 1回　空気 第 2回　燃焼 第 3回　金属の利用 第 4回　水と水溶液 第 5回　結晶 第 6回　洗剤 第 7回　光と物質 第 8回　セラミックス 第 9回　合成高分子 第10回　天然高分子 第11回　微量栄養素 第12回　化学物質と生体・環境 第13回　資源とエネルギー 第14回　放射能の利用 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	試験またはレポート		

授業科目	**生活コロイド学**	担当者	井余田　秀美
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】生活の中で出会う様々なコロイドや界面の現象について理解する。 【概　要】コロイドや界面の学問的基礎を説明し，次に日常の事柄，特に洗濯や染色について詳しく述べる。更に，生活や環境での関連する事柄を取り上げ，最後に，生体に関する事に触れる。 １　界面とコロイドの基礎 ２　環境とコロイド ３　生活とコロイド ４　生体とコロイド 【到達目標】コロイドや界面の現象と日常生活との関わりについて理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）プリントを配布する。 (2) 北原文雄，「界面・コロイド化学の基礎」講談社 水野上与志子他編，「被服整理学」建帛社		
授業スケジュール	第 1～3 回　界面とコロイドの基礎 界面とコロイドとは 界面現象 コロイド（ミセル，高分子，粒子コロイド） 第 4～13 回　生活とコロイド 繊維，染色，洗濯 食品とコロイド 化粧品 第 14 回　環境とコロイド，産業とコロイド，生体とコロイド 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	試験またはレポート		

(注) 教職必修

授業科目	**生活化学実験**	担当者	井余田　秀美
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕実験方式		
テーマ及び概要	【テーマ】生活の中の化学物質について理解し，その正しい取り扱いができるようにする。 【概　要】衣食住や生活環境に関する実験を行う 【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	プリントを配布する		
授業スケジュール	第 1 回　実験全般の説明 第 2～11 回　衣食住の実験 染色 水の硬度 洗剤および洗剤水溶液 漂白剤 吸水性樹脂 食品の塩分濃度 第 12～15 回　生活環境の実験 pH の測定(生活，土壌，酸性雨) 脱酸素剤と使い捨てカイロ 木炭やシリカゲルと吸着		
成績評価の方法	レポート（100%）		

授業科目	**生活デザイン学**	担当者	丸山　容爾
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】人間が創り出してきたもの（食器，文具，家具・・等）のデザインに焦点を当てて鑑賞・考察し，それを基に今後のデザインの方向性を探究する。 【概　要】産業革命から現代に至るまでのデザインの変遷と，社会生活への影響を時代ごとの代表的な作品を通して学ぶ。 【到達目標】講義を通して，身の周りのデザイン作品の「用と美」を探求する。		
（1） テキスト （2） 参考文献	（1）テキストは，プリントしたものを配布する。 （2）参考文献は，講義中に適時示す。		
授業スケジュール	第 1回　「導入」　講義方式の説明と資料配布 第 2回　「産業革命前後のデザイン」」　イギリス産業革命時にデザインの世界に何が起こったか 第 3回　「シノワズリーとジャポニスム」　欧州にシノワズリーとジャポニスムが広まった要因 第 4回　「産業革命と万国博」　ロンドン万国博覧会と水晶宮 第 5回　「ウイリアム・モリスの仕事」　ウイリアム・モリスの商会における仕事とプライベート・プレス 第 6回　「ウイリアム・モリスの仕事とアーツ＆クラフツ運動」　ウイリアム・モリス後のデザインの変遷 第 7回　「アール・ヌーヴォー１」　欧州に流行したアール・ヌーヴォーとその時代背景 第 8回　「アール・ヌーヴォー２」 第 9回　「アール・ヌーヴォー３」 第10回　「アール・デコ」　アール・デコの時代とデザイン。 第11回　「アメリカ・マシンエイジ」　アメリカが大国に成長していく中の機械時代 第12回　「バウハウス」　バウハウスの歴史と活動 第13回　「欧米の現代デザイン」　欧米の現代デザイン作品を参考にしての鑑賞と考察 第14回　「日本の現代デザイン」　日本の現代デザイン作品を参考にしての鑑賞と考察 第15回　「まとめと試験，あるいはレポート」		
成績評価の方法	出席と授業態度（30%），試験あるいはレポート（70%）で評価		

（注）インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目（学生便覧参照）

授業科目	**色彩学**	担当者	丸山　容爾
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義（一部演習）方式		
テーマ及び概要	【テーマ】色彩の性質，知覚のメカニズム，色の働き等，色彩の基礎を学ぶ。 【概　要】我々がモノの色をどのようにして知覚しているのか。本講義では，色彩とは何か，色彩の心理，色彩の調和，色彩計画等を学ぶ。 【到達目標】色彩の不思議を実感し，最終的に色彩検定３級，カラーコーディネーター検定試験３級程度の色彩に関する知識を身につけ，実践的にファッションやインテリアのカラーコーディネート等に応用できるよう，発展させていく。		
（1） テキスト （2） 参考文献	（1） 大井義雄・川崎秀昭　著　カラーコーディネーター入門　色彩　改訂増補版　（監修　財団法人日本色彩研究所） （2） 参考文献は，講義中に適時示す。		
授業スケジュール	第 1回　「導入」　講義方式の説明と資料配布 第 2回　「色とは」　色と光　視覚のメカニズム 第 3回　「色の記録・伝達方法１」　色名　色の標準 第 4回　「色の記録・伝達方法２」 第 5回　「色の混合」　加法混色　減法混色 第 6回　「照明」　色と照明の関係 第 7回　「色彩の心理１」　色の見えの効果 第 8回　「色彩の心理２」 第 9回　「色彩調和１」　色の秩序・配色 第10回　「色彩調和２」 第11回　「色彩調和論」　様々な色彩調和論 第12回　「色彩計画」　対象に対応した色彩表現の検討 第13回　「色と文化」　色と文化の関係 第14回　「商品と色」　商品の特徴を表す色彩 第15回　「まとめと試験，あるいはレポート」		
成績評価の方法	出席と授業態度（30%），試験あるいはレポート（70%）で評価		

（注）インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目（学生便覧参照）

授業科目	**生活造形史**	担当者	丸山　容爾・多々良　尊子
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】長い歴史の中でどのように物が変化してきたかを学ぶと同時に，未来を考える。 【概　要】前半は，丸山担当で「商業・工業デザイン」について，後半は多々良担当で「ファッションデザイン」についての歴史を中心に講義をする。 【到達目標】造形の歴史を探り，私たちとこれからの造形とのつながりを考えていく。		
（1） テキスト （2） 参考文献	（1）テキストは，プリントしたものを配布する。 （2）参考文献は，講義中に適時示す。		
授業スケジュール	（担当　丸山）第１回　「導入」（講義方式の説明と資料配布） 第２回　「文字の起源」 第３回　「文字と書写体」 第４回　「文房四宝 1」 第５回　「文房四宝 2」 第６回　「書体・印刷 1」 第７回　「書体・印刷 2」 第８回　「書籍」 第９回　「現代の書籍　装幀」 （担当　多々良）第10回　「生活造形の視点から見るファッションデザインの歴史」 第11回　「ファッションデザイナーの誕生とオートクチュールの成立」 第12回　「ファッションブランドの起源と発展」 第13回　「既製服産業におけるデザインの価値」 第14回　「ファッションデザイナーの個性（シャネル，ディオール，川久保玲）」 第15回　「まとめと試験，あるいはレポート」		
成績評価の方法	出席と授業態度（30%），試験あるいはレポート（70%）で評価		

（注）インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目（学生便覧参照）

授業科目	**デザイン実習Ⅰ**	担当者	丸山　容爾
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】基礎的な作図技術と考え方を学ぶ。 【概　要】各種の平面構成やコラージュ等を通じて，自分のアイデアを作品上に反映させる。 【到達目標】作品制作と講評を通じて，デザイン表現の理論と楽しさを体験する。		
（1） テキスト （2） 参考文献	（1）なし （2）なし　（デザイン用具については，第１回目に説明する。）		
授業スケジュール	第 1回　「導入」　実習方式の説明等 第 2回 ～ 第 4回　「基本作図・平面構成」　相反するテーマをセットにして，色彩表現する 第 5回 ～ 第 7回　「デッサン」　石膏デッサンを通じて，物の見方を学ぶ 第 8回 ～ 第10回　「コラージュ」　雑誌を使用したコラージュ作成 第11回 ～ 第14回　「パソコンを使用した作図」　Illustrator の基礎 第15回　「まとめ講評」　作品講評		
成績評価の方法	出席と授業態度（30%），　提出作品（70%）で評価		

（注）インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目（学生便覧参照）

授業科目	デザイン実習Ⅱ	担当者	丸山　容爾
	〔履修年次〕今年度は１・２年合同　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】色々なテーマの下，作図実習を通じてデザインの基本的な技術と考え方を学ぶ。 【概　要】デザイン実習Ⅰの延長として，パソコンを使用した高度な表現を行う。 【到達目標】ドローイング・ソフトを使用し，学んだ手法を駆使して最終的にポスターの制作をする。		
（1） テキスト （2） 参考文献	（1）なし （2）なし　（デザイン用具については，第１回目の時間内に説明する。）		
授業スケジュール	第１回　「導入」　実習方式の説明等 第２回～第４回　「ピクトグラム」　身の回りのピクトグラムについて考える 第５回～第７回　「シンボルマーク」　パソコンによるシンボルマークの作成 第8回～第 10回　「レタリング」　各自の名前をレタリングし，文字の作りを学ぶ 第11回～第14回　「ポスター」　デザイン実習の総まとめ 第15回　「まとめ講評」　作品講評		
成績評価の方法	出席と授業態度（30%），提出作品（70%）で評価		

授業科目	CAD 設計	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義（演習を含む）方式		
テーマ及び概要	【テ ー マ】　建設の実務において必須のものとなっているCADによって各種図面の作成法を学ぶ。 【概　　要】　CAD の概念と基礎を習得することを目的とする。 【到達目標】　設計製図で培った知識をもとにＣＡＤソフトによる実際を体験する。 注）設計製図ＩⅡの履修が望ましい		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)　プリント資料		
授業スケジュール	第1回　ＣＡＤ設計概念と基礎 第2回　二次元ＣＡＤとレイヤーの概念 第3回　柱と壁の連結 第4回　開口部と建具 第5回　寸法線その他 第6回　平面図 1 第7回　平面図 2 第8回　立面図 1 第9回　立面図 2 第10回　矩計詳細図 1 第11回　矩計詳細図 2 第12回　矩計詳細図 3 第13回　三次元ＣＡＤとCG 1 第14回　三次元ＣＡＤとCG 2 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	成果物の評価（100%）による。		

（注）二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目(学生便覧参照)

授業科目	**食物と栄養**	担当者	釜田　忠
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】食品に含まれる成分の物理化学的性質とそれら食品成分の栄養効果について基礎的な知識を理解し，健康的な日常生活を送るための食生活の改善，栄養改善を図る。 【概　要】食品学は食品成分の化学，食品成分から見た食品の特性，食品成分の栄養価を扱う学問であり，一方栄養学はヒトまたは生物が栄養素を摂取し，代謝を営み，最終的には栄養改善を図ることを学ぶ学問である。本講義では，健康の維持増進に必要な食品中の栄養素（炭水化物，タンパク質，脂質，ビタミン，ミネラル，食物繊維）の基礎的な化学，特性，栄養効果について講義する。 【到達目標】食品成分の特性や栄養効果・生理機能を理化し，自らの食生活の改善に役立てることができる基礎的な知識を習得することを目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1)　プリント		
授業スケジュール	第１回：イントロダクション　・科目概要の説明 第２回：食品の分類と栄養素　・ 第３回：食品成分１　・水分の物理化学的特性と水分の生理機能 第４回：食品成分２　・炭水化物１（炭水化物の種類と物理化学的性質） 第５回：食品成分３　・炭水化物２（炭水化物の栄養効果と食物繊維の生理機能） 第６回：食品成分４　・タンパク質１（アミノ酸とタンパク質の物理化学的性質） 第７回：食品成分５　・タンパク質２（タンパク質の栄養効果と生理機能） 第８回：食品成分６　・脂質１（脂質の物理化学的性質） 第９回：食品成分７　・脂質２（脂質の反応と栄養効果） 第11回：食品成分８　・脂溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能 第12回：食品成分９　・水溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能１ 第13回：食品成分10　・水溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能２ 第12回：食品成分９　・ミネラルの物理化学的性質と生理機能１ 第12回：食品成分９　・ミネラルの物理化学的性質と生理機能１ 第13回：植物性食品の特性 第14回：動物性食品の特性 第15回：まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（70%）　＋　小テスト（30%）		

（注）教職必修

授業科目	**調理実習Ⅰ**	担当者	立石　百合恵
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】調理に親しむ 調理を日常に取り込む 【概　要】栄養素や食品の知識を生かし，食品の調理性を充分生かした調理操作をほどこしながら料理を学ぶ。 その他，食品の旬や郷土料理，食の作法などを学ぶ。 【到達目標】調理に興味を持ち，日常の食生活に取り入れる		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）実習プリント （2）調理実習：峯書房，調理と理論：同文書院		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：調理室の使用法についての説明，材料発注表の作成の練習など 第 2回　果物の調理（ジャムとマーマレード） 第 3回　日本料理の基礎（炊飯の調理操作，出汁の調理操作，焼き魚の調理操作，酢の物の料理操作） 第 4回　西洋料理（コンソメスープの調理操作と魚のムニエル，菓子用ソースカスタードを用いた菓子） 第 5回　中国料理の基礎（湯の調理操作と中国料理特有の調味料を使用した調理操作） 第 6回　日本料理（初夏の料理） 第 7回　西洋料理（ポタージの調理操作とハンバーグステーキ，菓子用ソースカラメルを用いた菓子） 第 8回　中国料理（なすの蒸しもの，かにと豆腐のくず汁，鶏手羽先の醤油煮込み，さつまいものあめからめ） 第 9回　郷土菓子と日本の保存食（かるかん，あくまき，梅干し） 第10回　西洋料理（特殊なスープの調理操作とポークコロッケ，ババロア） 第11回　テーブルマナー（日本料理） 第12回　日本料理（夏の料理） 第13回　小麦粉の調理（ロールパンとビーフシチュー） 第14回　本膳料理（一汁三菜） 第15回　「まとめと試験」		
成績評価の方法	調理実習（３０%）　レポート（７０%）		

（注）教職必修

授業科目	**調理実習Ⅱ**	担当者	立石　百合恵
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】調理を日常に取り込み，調理技術を習得する 【概　要】　調理実習Ｉで学んだ調理操作のステップアップ 【到達目標】調理を日常的に行い，調理を通して食育を理解する		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）実習プリント （2）調理実習：峯書房，調理応用編：峯書房，調理と理論：同文書院		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　日本料理（行事食：巻き寿司と巻き寿司の応用，清まし汁，サイダー寒） 第 3回　西洋料理（カレーライス，ビネグレットソースのサラダ，ドイツ風パウンドケーキ，レモンスカッシュ） 第 4回　魚の調理講習会 第 5回　中国料理（餃子，エビチリ，八宝菜，棒棒鶏） 第 6回　小麦粉の調理（焼き菓子：アップルパイ） 第 7回　西洋料理（ローストチキン，サンドウィッチ，バターケーキ） 第 8回　日本料理（行事食：おせち・三種肴，煮物，焼き物） 第 9回　日本料理（行事食：七草かゆ，鯛のでんぶ，清まし汁，はなびら餅） 第10回　テーブルマナー（西洋料理） 第11回　日本料理（冬の料理：鍋料理） 第12回　小麦粉の調理（メロンパン） 第13回　郷土料理（きびなごの刺身，さつま揚げ，豚骨煮，さつま汁） 第14回　西洋料理（フルコース） 第15回　「まとめと試験」		
成績評価の方法	調理実習（３０％）　レポート（７０％）		

授業科目	**生活文化**	担当者	揚村　固・多々良　尊子
	〔履修年次〕１，２年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】多様な生活文化を理解し比較することにより，生活することの根源的な意味を考える基礎とする。 【概　要】日常的な生活の場における文化的な要素（言語・方言，生活の知恵，芸能，技能，工芸，道具，建築，服装，料理，生活習慣，礼儀，行事，遊び，家族関係など）が社会的に共有・伝承され，生活様式として確立していることを概説する。それらが育まれてきた気候・風土や，伝えれらているこころを知り，現在の私たちの生活を相対化してみる。 【到達目標】衣食住を単なる生活手段としてではなく，それぞれの地域や民族に定着した生活様式としてとらえることにより，その背景にある価値観を理解する。また，異なる文化を知ることにより複眼的なものの見方を養う。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）使用しない （2）小池三枝，柴田美恵『日本生活文化史』光生館		
授業スケジュール	第 1回　生活文化とは何か 第 2回　風土と生活文化　：主食の違い，衣服の構成の違い，家族関係の違い 第 3回　『西洋衣食住』に描かれた日本の近代化：和洋折衷，和魂洋才 第 4回　世界の民族衣装（1）：西アジア，中央アジア，インド 第 5回　世界の民族衣装（2）：東南アジア，中国，朝鮮半島 第 6回　世界の民族衣装（3）：アメリカ，中南米 第 7回　日本の民族衣装　：祭礼の衣装，沖縄・薩南諸島の衣生文化 第 8回　日本住居のあけぼの　：歴史の実相 第 9回　竪穴と高床　：鹿児島と世界の住居 第10回　寝殿造りから書院造り：日本住居の成立過程 第11回　茶室と数寄屋　：住文化の多様化 第12回　玄関と屋敷構え　：日本と鹿児島の住空間の特質 第13回　住居の近代化　：西洋の住文化移入 第14回　世界の住文化　：世界住居と日本住居の特異性 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	多々良担当分（50%）：レポートおよび授業時間内の課題による　揚村担当分（50%）：レポートおよび授業時間内の課題による		

授業科目	**環境生物学**	担当者	市川　敏弘
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 生物と環境との相互作用を理解し，生態系の構造と特徴を考察する。さらに，環境の変化が生物の生活に及ぼす影響について考察する。 【概　要】 主に海の生物と環境について取り上げる。鹿児島湾や有明海などの身近な海，また黒潮などの外洋海域について，さまざまな生態系の特徴を説明する。また，地球環境の変動と海に関する最近の研究成果を紹介する。 【到達目標】 多様な生物とその環境について自然科学の視点から理解を深めることを目標にする。		
（1）テキスト （2）参考文献	テキストは使用しない。図表はプリントして配布する。参考図書や文献は講義中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　地球と生物の歴史：地球の誕生，海の誕生，生命の発生 第 2回　海の研究史：大航海時代，海洋大探検，近代科学として海の研究 第 3回　海の生態系と陸の生態系：生態系の景観，食物連鎖，生物の大きさと量 第 4回　海水の性質と生物の生活：光，水温，塩分，密度，栄養塩 第 5回　海水の運動と生物の生活：海流，深層水の循環，海水の年令，湧昇流 第 6回　外洋海域の生物と環境：プランクトン 第 7回　鹿児島湾の生物と環境 第 8回　有明海の生物と環境 第 9回　サンゴ礁の生物と環境 第10回　マリンスノーの発見：海にも雪があった，雪を作る 第11回　海と地球温暖化：二酸化炭素，生物ポンプ，鉄の役割 第12回　陸の環境汚染：サイレント・スプリング，足尾の鉱毒 第13回　海の環境汚染：ビキニ環礁の水爆実験，水俣 第14回　補足 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（１００％）		

授業科目	**地球環境論**	担当者	岩船　昌起
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】地球環境や自然環境のしくみと人間活動や健康とのかかわり 【概　要】イチョウやカンアオイ等の植物，サケやシカ等の動物，火山や海岸等の地形・地質を取り上げ，自然環境・地球環境に関わる基本的な内容を解説したい。そして，環境問題と人間の生活・行動との関わりや，自然環境と人間の健康との関わりについても紹介する。 【到達目標】講義で紹介した地球環境や自然環境のしくみを口頭で説明でき，自然環境への負荷を抑え，かつ自身の健康も管理できる生活習慣を実践できるようになる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）使用しない。ただし，毎回の講義でプリントを配布する。 （2）講義にて複数の書籍等を紹介する。		
授業スケジュール	第1回　ガイダンス：講義の概要と成績評価の方法等 第2回　火山とプレートテクトニクス：鹿児島・日本の地形・地質に関する基礎知識 第3回　環境と植生：鹿児島・日本の植物生態・植生地理に関する基礎知識 第4回　環境と動物：鹿児島・日本の動物生態に関する基礎知識 第5回　氷期における日本の自然：鹿児島・日本に関する第四紀学的な基礎知識 第6回　海岸の自然環境：鹿児島・日本の海岸の地形・気候・植生など，身近な自然環境の事例 第7回　河川の自然環境：鹿児島・日本の河川の地形・気候・植生など，身近な自然環境の事例 第8回　スライドショー：日本の自然（沖縄・屋久島・霧島山・日本アルプス・房総半島・北海道等） 第9回　スライドショー：海外の自然環境（北米・ドイツ・オーストリア・ネパール・タイ・台湾等） 第10回　氷河時代と人類の発達：新生代における人類の発達の概要と人類の身体的特性の概要 第11回　自然環境と人間の生理：気温・水温・気圧等の環境変化に応じた人間の生理的な適応 第12回　自然環境を活用した保養・療養：湯治，森林セラピー，タラソテラピー，生気象学等 第13回　環境倫理学の概要：環境倫理学の成り立ちと基本的な考え方，環境問題と生命の価値 第14回　自然のシステムを基盤にした地域構想：担当者の研究紹介 第15回　総まとめ：これまでの授業に関する補足等 ※ オプションとして，霧島山等での野外巡検を休日等に予定している。 ※ 以上を計画しているが，講義の進行に応じて内容が加除修正される場合もある。		
成績評価の方法	学期末等のレポート（60%），授業ごとのノートの書き方とリプライシートへのコメント（25%），野外巡検への参加と行動・意欲（15%）にて評価する。		

授業科目	**保育学**	担当者	相星　壮吾・池堂　猛彦・石川　満佐育
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。 【概　要】子どもは，出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして，子どもの発達には，周囲からの働きかけ（発達援助）が不可欠である。保育学講義では，保育（発達援助）の概念と実際を学ぶとともに，子どもの標準的な発育発達，子どもによくみられる病気と対処法，子どもの安全対策等，保育に必要な知識の習得を目指す。 【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し，説明ができるようになること。		
（1）テキスト （2）参考文献	（担当　相星）なし （担当　相星）なし		
授業スケジュール	（担当　相星）第 1回　保育とは？（その1）：子どもの成長の最終目標，児童福祉法，児童憲章，子どもの権利条約 第 2回　保育とは？（その2）：発達援助，遊びと学習，自律と自立 第 3回　子どもの発育・発達の実際（その1）：新生児期～乳児期の発育，運動発達，知的発達，社会性の発達 第 4回　子どもの発育・発達の実際（その2）：幼児期～学童期の発育，運動発達，知的発達，社会性の発達 第 5回　発達に問題を抱える子どもたち（その1）：身体障害，知的障害 第 6回　発達に問題を抱える子どもたち（その2）：発達障害 第 7回　子どもの健康と安全（その1）：子どもによくみられる病気とその症状・対応 第 8回　子どもの健康と安全（その2）：子どもの事故防止対策 第 9回　もう一度，保育とは？（その1）：保護者への支援･･育児援助・育児不安対策・児童虐待防止 第10回　もう一度，保育とは？（その2）：発達援助の実際 （担当　石川）第11回　事前指導 （担当　池堂）第12回　保育園における保育実習（1） 第13回　保育園における保育実習（2） 第14回　保育園における保育実習（3） （担当　石川）第15回　事後指導		
成績評価の方法	（担当　相星）筆記試験 各担当者が１００点／３で点数を算出した後，３人の合計を総合点として評価する。		

（注）教職必修

授業科目	**卒業研究**	担当者	井余田　秀美
	〔履修年次〕２年　〔学期〕通年 〔単位〕４単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】自ら研究課題を設定し，課題探求と問題解決の能力を養う。 【概　要】生活化学及び生活コロイド学の分野から基礎課題や応用課題を設定し取り組む 【到達目標】実験や演習を行うことにより，衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（１）中西茂子著「洗剤と洗浄の科学」 北原文雄著「界面・コロイド科学の基礎５」 近藤保也著「優しいコロイドと界面の科学」		
授業スケジュール	第 1～3回　研究課題の決定，参考資料の収集 第 4～8回　予備実験 第 9～22回　本実験 第23～第24回　まとめ 第25～第27回　論文作成 第28～第29回　発表準備 第30回　発表		
成績評価の方法	口頭発表（30%）と論文（70%）		

授業科目	**卒業研究**	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕2年　〔学期〕通年 〔単位〕4単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　住居と建築にまつわる興味深いテーマについて独自に設定・探求し，結論を得てプレゼンテーションする。 【概　要】　住生活学と住居設計学に関連する分野からディスカッションのうえ特定の研究課題を設定する。これまでの知見を整理し，未解決の問題を明らかにして，調査・実験・制作を通して独自の成果をまとめ，これを発表する。（特定の設計課題を意図した住居・建築の設計も含む。） 【到達目標】　研究テーマの設定，調査研究，まとめ，発表までのプロセスを経験する。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　なし （2）　テーマによって適宜		
授業スケジュール	第１回～第３回　研究基礎 第４回～第５回　テーマ設定とプレゼン1 第６回～第８回　テーマ設定と研究方針の検討 第９回～第12回　研究調査 第13回～第15回　中間発表1 第16回～第18回　研究方針の検討 第19回～第22回　調査研究 第23回～第24回　中間発表2 第24回～第27回　研究調査 第28回～第29回　まとめと発表準備 第30回　発表		
成績評価の方法	課題発表（50%）研究成果物（50%）		

授業科目	**卒業研究**	担当者	石川　満佐育
	〔履修年次〕２年　〔学期〕通年 〔単位〕４単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ＆概要】 学校教育領域，対人関係領域に関する課題について，各自がテーマを設定し，心理学の研究方法を用いて，調査・分析し，成果をまとめる。 【到達目標】 ①□「研究」のプロセスを学ぶ ②□自分の意見をまとめ，表現できるようにすることを目指す。 ③□効果的なプレゼンテーションの方法を身につけることを目指す。		
（1）テキスト （2）参考文献	(1) なし (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第１回　オリエンテーション：授業の進め方 第２回～第５回　心理学の研究方法＆基礎知識 第６回～第27回　テーマ設定，仮説生成，調査，分析，執筆（毎回の報告） 第28，29回　発表準備 第30回　発表会		
成績評価の方法	授業での毎回の報告：30%　卒業論文70%		

授業科目	**卒業研究**	担当者	多々良　尊子
	〔履修年次〕２年　〔学期〕通年 〔単位〕４単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 安全で快適な衣生活を営むために解決すべき課題について調査・研究し，成果をまとめる。 【概　要】 衣生活においてどのような課題があるのか現状分析する。これまでに学習した内容を基に，研究テーマを設定し，文献の調べ方や社会調査の方法などを検討し，実践する。その中から，問題解決につながる独自の知見をみつける。 【到達目標】 衣生活における様々な課題の中から研究テーマを見つけ，それにアプローチする方法を学習する。研究成果を発表することにより，効果的なプレゼンテーションの方法を身につける。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）使用しない。適宜，プリントを配布する。 （2）鷲田清一『ファッション学のすべて』新書館 文化服装学院『コーディネートテクニック　アパレル編Ⅰ』文化出版局		
授業スケジュール	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回 ～ 第 4 回　研究方法の概説（テーマの設定，文献検索の方法，調査の方法など） 第 5 回 ～ 第23 回　各自で研究に取り組み，適宜，中間報告を行う 第24 回 ～ 第27 回　研究のまとめ 第28 回 ～ 第29 回　発表準備 第30 回　口頭発表		
成績評価の方法	研究成果の評価（60%），研究発表（20%），議論参加の積極性（20%）		

19　教職に関する科目

授業科目	**教職入門**	担当者	田口　康明
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	【テーマ】教職の意義や役割について，実際上の学校におけるその職務内容や身分等を含めて理解し，あわせて児童生徒への進路選択の機会提供に資する教師の役割について考察する。 【概　要】本科目は，教員免許の取得に必要な科目であり，「教職の意義」について検討考察し，学校で働く教師の職務内容，すなわち教育活動と服務の関係，研修や身分とその保障について扱う。また近年，学校教育と実社会の繋がりが着目され，その際重要となるキャリア教育についても扱う。講義を中心とするが，必要に応じて資料に関連した文献，記事，VTR 等を取り入れる。 【到達目標】「教職とは何か」という点についての理解につきるが，教職の意義および教員の役割，教員の職務内容(研修，服務及び身分保障等を含む)関する知識を習得すること。子どもたちの進路選択と教職の関係を理解すること。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 古橋和夫編『教職入門―未来の教師に向けて』萌文書林 (2) 授業内で随時紹介する。		
授業スケジュール	第１回　ガイダンス　教育職員免許法における本科目の位置づけなど 第２回　教える・教えられる関係の変遷１　古代のソクラテスの対話法や中世の徒弟訓練の親方について 第３回　教える・教えられる関係の変遷２　江戸時代の寺子屋の師匠や産業革命期のヨーロッパで発生した近代学校の教師 第４回　教える・教えられる関係の変遷３　教職の位置づけについて，戦前の教師聖職論から戦後の専門職論へ 第５回　現代学校における教師の役割と仕事１　学校における教員の日常と職務内容 第６回　現代学校における教師の役割と仕事２　学級経営・生徒指導・進路指導・教育相談 第７回　現代の教師の身分と地位１　教員養成制度と研修制度 第８回　現代の教師の身分と地位２　教員の服務・身分と公務員制度 第９回　学校における分業制の理解　学校種と少数職種，校内分業体制と校務分掌，教職の全体性 第１０回　学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割１ いじめ・不登校への地域と連携した対応，学校を取り巻く社会での連携，自然体験 第１１回　学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割２ 進路選択とキャリア教育，社会体験のコーディネーターとしての役割，職業観の涵養 第１２回　教師の資質をめぐる動き１　戦後の教員政策の変遷 第１３回　教師の資質をめぐる動き２　教員評価・不適格教員・心の健康 第１４回　これからの教師に求められるものは何か　生涯学習社会における教師の成長の意義 第１５回　まとめ・試験		
成績評価の方法	授業中のミニ・レポート（３回程度）30%，筆記試験 70%		

授業科目	**教育原理**	担当者	田口　康明
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	【テーマ】教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 【概　要】教員になるために必要な教育学の知識として，最低限心得ておくべき教育学の理論を踏まえつつ，実際の教育を分析的に見る目を養うことがねらいである。主として学校教育を中心に考察する。教育の目標・意義・思想・歴史に関する広汎かつ基礎的な知識理解の習得を目指す。具体的には，現代の学校教育を支える近代公教育史及びその思想の理解である。最新の教育実践の紹介など，今日的なトピック・情報を数多く取り入れて講義を進める予定である。 【到達目標】教育の理念や歴史に関する基礎的な知識理解の習得		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)『教育原理　八訂版』，教師養成研究会，学芸図書，2003 年 (2) 参考文献は随時紹介する		
授業スケジュール	第１回　ガイダンス　この科目の位置づけと目的 第２回　教育とは何か　その目的と機能に関する教育思想の理解 第３回　現代の学校と教育課題　今日の学校教育を取り巻く「問題行動」についてに理解する 第４回　近代公教育思想１　ジョン・ロックとルソーの人間観・教育思想について理解する 第５回　西洋での学校の出現　中世から近代にかけて簇生した学校や大学について理解する 第６回　近代公教育思想２　ペスタロッチとヘルバルトの教育思想について理解する 第７回　日本における学校の成立　明治５年の学制の意義と社会的に果たした役割について理解する 第８回　近代公教育思想３　日本の教育の原型を創った森有礼と師範教育について理解する 第９回　日本における学校教育の展開　大正期から昭和初期にかけての学校改革運動の発生とその結末について理解する 第１０回　戦後日本の教育改革　戦後日本の学校教育の原型となった教育改革について理解する 第１１回　戦後日本のカリキュラムの改革史　学習指導要領の変遷とその重点の変化について理解する 第１２回　日本の 1950 年代～80 年代の教育改革　中央教育審議会・臨時教育審議会による教育改革について理解する 第１３回　世界の教育改革　1950 年代～70 年代の各国の教育改革について理解する 第１４回　新しい学力観と PISA　「生きる力」の概念や世界標準の学力について考察する 第１５回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験と小レポート（８：２程度の比率）で評価する。		

授業科目	**教育心理学**	担当者	石川　満佐育
	〔履修年次〕１年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ&概要】 教育活動を行ううえで必要となる知識（理論や概念）を提供する科目として教育心理学がある。本講義では，教育心理学の主要テーマである「学習」，「発達」，「評価」，「性格」の４つについて学ぶ。 適切な教育活動を行うには，学習に関する理論や概念を知る必要がある。また，教育の対象である子どもの発達過程や年齢に応じた心理的特性を知っておく必要がある。さらに，知識の習得だけでなく，その知識を教育活動にどのように活かしていくかを考えることを意識できるようにする。 【到達目標】 ①教育心理学に関する 知識（概念・理論）の習得 ②教育心理学の観点から教育活動を考える意識を持つ。 ③知識を応用するという意識を高める		
（1）テキスト （2）参考文献	(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第１回　オリエンテーション・教育心理学とは？ 第２回　学習①：学習理論 第３回　学習②：動機づけ 第４回　学習③：学習指導法 第５回　学習④：記憶のメカニズム 第６回　学習⑤：効果的な学習法 第７回　発達①：発達理論①（エリクソンの心理社会的発達理論） 第８回　発達②：発達理論②（ピアジェの認知発達理論） 第９回　発達③：乳幼児期の発達的特徴 第10回　発達④：児童期，青年期の発達的特徴 第11回　評価①：教育評価 第12回　評価②：知能検査 第13回　性格①：パーソナリティ理論 第14回　性格②：パーソナリティ検査 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出：40%，筆記試験：60%		

(注) 中学校教諭２種免許

授業科目	**教育行政学概論**	担当者	岩橋　法雄
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期集中 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】現代日本の教育の行政・制度 【概　要】日本の教育の管理運営は，誰(Who)が，誰(Whom)を，どのようなルール(which principles)で，行われているのか？その仕組みと今後考えるべき課題を，歴史的かつ比較的に考察していく。「誰が」は直接的には教育行政機関（文部科学省，教育委員会）であるが，まずは教育委員会の委員長と教育長の違いから説き起こそう。それは，教育委員会の理念の解説をすることとなるからである。「誰を」は学校教育だけではないのだが当面は学校を中核に説き起こし，子どもの権利条約の立場から考察する。「どのような・・・」は，案外みなさんに関心を持たれていないが，学校で学び，生活する私たちに密接に関係している<教育の法律に関すること>である。教育の様々な分野での法とその意味を歴史的に，そして構造的に概観する。 【到達目標】日本の教育行政・制度，公教育経営の基本的な事項について理解する。		
(1)　テキスト (2)　参考文献	(1)　仙波克也・榊達夫編『現代教育法制の構造と課題』（コレール社刊） (2)　授業中に随時指示		
授業スケジュール	第１回　「教育行政」の歴史的成立とその基本的性格 ・ゲルマン型とアングロ・サクソン型（Administration と Governance）の相違と特質 第２回　学校，選ばれる学校とそうでない学校（unpopular と popular）の相克。　教育の制度と管理運営。 第４回　戦後日本の教育行政の基本原理，その歴史的変遷 ・1945 年教育基本法の「教育行政」観，教育委員会委員長と教育長（レイマン・コントロールの意味），教育委員会の役割 第５回　新教育基本法の「教育行政」観。日本の教育行政機関 ・文部科学大臣・文部科学省，教育委員会（教育委員会の構成と権限） 第６回　教育関連諸法規の概要 第７回　教師と法 ・公務員としての教師は，何ができて何ができないか？（身分上の問題），対生徒の関係において，何ができて何ができないか？（①体罰になること，ならないこと，②校長の権限，教諭の権限） 第８回　まとめと試験		
成績評価の方法	授業中に課すレポート並びに最終試験によって評価する		

(注) 7.5 回

授業科目	**教育課程論**	担当者	吉田　尚史
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期集中 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】教育課程(カリキュラム）の定義・歴史・現状・課題。現在の学習指導要領との関連。 【概　要】本来，教育課程（カリキュラム）は，各学校毎に作成されるものであるが，日本には，その教育課程の基準である学習指導要領が存在し各学校種に応じて規定されている。そうした教育課程(カリキュラム）の基本概念及び編成方法，歴史と現状，課題について概説する。また，子どもの学習を促進するカリキュラムづくりのあり方について受講生ともに検討し，学習指導要領を踏まえた教育課程を編成する方法と力量を形成する。 【到達目標】教育課程(カリキュラム）の定義，歴史，現状，課題に関する基礎的認識・概念の習得。2 年次の実習に向けて各学校のカリキュラムのねらいと内容を適切に理解する能力を身につける。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）大杉昭英編『中学校学習指導要領（平成２０年版）全文と改訂のピンポイント解説』明治図書出版 （2）随時紹介		
授業スケジュール	第1回　教育課程(カリキュラム）とは何か 教育課程の基本概念や教育課程の編成方法・形式について理解する。 第2回　学習指導要領と教育課程編成，教科書 学習指導要領と各学校の教育課程並びに教科書との関係を把握し，学習指導要領について理解を深める 第3回　日本の教育課程行政(学習指導要領）史 戦後の学習指導要領の編成について理解する 第4回　現行の学習指導要領の解説(1) 平成 20 年の改訂について主に「総則」を理解する 第5回　現行の学習指導要領の解説(2) 平成 20 年の改訂について主に各教科「国語」「英語」「家庭」を理解する 第6回　教育目標と教材教具 教育目標と教材・教具の関連について理解し，優れた教材・教具を紹介する。 第7回　まとめ 今後の教育課程のあり方を展望する。これまでの学習成果をまとめる 試験（試験期間内）		
成績評価の方法	筆記試験 70%，授業内の小テスト・課題 30%		

(注) 7.5 回　0.5 回分は試験期間内の試験に充てる

授業科目	**国語科教育法**	担当者	岩本　晃代
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中学校における国語科教育の意義を明らかにし，授業の構築方法について講義する。また，一部に実践授業を組み入れる。 【概　要】 中学校学習指導要領の内容について説明する。それをもとに文部科学省検定教科書に掲載された国語科教材について具体的な指導例を紹介する。また，教材研究の方法，学習指導案の作成方法について講じ，模擬授業を行うことによって授業の作り方が具体的に理解できるようにする。 【到達目標】 中学校国語教育の意義を理解し，教材研究および指導案の作成ができるようになる。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）『中学校学習指導要領解説　国語編』文部科学省，大田勝司他編『国語科学習指導の研究』双文社出版，プリント。 （2）授業中，適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1 回　オリエンテーション　授業とは何か 第 2 回　中学校学習指導要領・国語編について 第 3 回　国語科の目標と内容 第 4 回　国語科学習指導の展開その１ 第 5 回　国語科学習指導の展開その２ 第 6 回　教材研究の方法その１ 第 7 回　教材研究の方法その２ 第 8 回　学習指導案の作成その１ 第 9 回　学習指導案の作成その２ 第 10 回　模擬授業その１ 第 11 回　模擬授業その２ 第 12 回　模擬授業その３ 第 13 回　模擬授業その４ 第 14 回　教育実習の心構え 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（指導案を含む）100%		

授業科目	**英語科教育法**	担当者	久木田　美枝子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】英語教育の大変革期を迎え，現代の英語教育に必要とされる基礎知識と未来への展望を把握すると共に，科学的に分析し，各自が多文化共生社会での望ましい英語教師像をイメージできるようにする。 【概　要】日本における英語教育の変遷を把握し，世界の外国語教育，英語教育の指導理念，枝卯木教育の指導法の変遷，言語スキルの指導法，情報技能と指導，授業論などを概説し，現代の指導者に不可欠な国際理解教育についても考察する。実践面としては，ここ数年の東京都中学校英語教育研究会の動向を踏まえつつ，同研究会の研究公開授業などのビデオ等を参考に実習前の英語教育の基礎を習得する。 【到達目標】教育実習前に，現代の英語教育の状況を把握することによって，英語教師としての資質向上に精進すると共に，自立的に，臨機応変に，授業を組み立てていくことをも目標とする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）　高梨康雄・高橋正夫著　『新・英語教育学概論』　金星堂 （2）随時プリント，		
授業スケジュール	第１回　日本の英語教育の歴史的変遷 第２回　世界の英語教育，外国語教育の目的 第３回　指導理念を考えるモデル・ケース：小学校英語教育，広い視野からみる外国語学習の目標 第４回　指導法の変遷 第５回　現代の主な指導法，評価論 第６回　言語スキルと指導技術　（リスニング，スピーキング） 第７回　言語スキルと指導技術　（リーディング，ライティング，コミュニケーション・スキル） 第８回　国際理解教育 第９回　情報技能と指導 第10回　授業展開，学習指導案 第11回　授業研究，外国語学習者の心理 第12回　教師論，教育現場が実習生に求める資質・英語力 第13回　模擬授業 第14回　模擬授業 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業の発言内容（30%），レポート(70%)で評価する。		

授業科目	**家庭科教育法**	担当者	長友　悠紀子
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】家庭科教師に必要な基礎的知識および指導方法 【概　要】中学校における家庭科を指導するために必要な基礎的知識や指導方法を具体的に講義し授業実践力を身につけることをねらいとする。学習指導要領に示された目標，内容の取り扱いの解説を行う。また，学習指導計画の作成や学習指導案の書き方を具体的に指導する。 【到達目標】家庭科教育の理念や問題を踏まえ，望ましい教師像を念頭に置き，実践しようとする人材の育成。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）佐藤文子・川上雅子　改訂版　『家庭科教育法』　高陵社書店 （2）文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年10月)　解説―技術・家庭編―』		
授業スケジュール	第1回【家庭科教育法とは】家庭科教育法を学ぶにあたっての説明および家庭科教育の意義について 第2回【教科教育としての家庭科】家庭科教育の理念および目標について 第3回【家庭科教育を支える学問】家庭科教育と家政学，家庭科教育が育む力 第4～5回【家庭科の教師，家庭科の歴史】家庭科の教師に望まれる要素，歴史的変遷と展望 第6回【小学校の家庭科】目標，内容，指導上の諸問題 第7～8回【中学校の技術・家庭科】家庭科の性格，目標，内容，指導上の諸問題 第9回【学習指導の計画】年間指導計画，領域，題材 第10回【学習指導案の作成】学習指導案の例，基本学習指導過程 第11回【学習指導法】学習指導の技術，指導の諸方式について 第12回【実験・実習指導の留意点】実験実習における基本的留意点について，教具・資料の活用 第13回【教育評価法】評価の目的，観点，評価法，記述法 第14回【家庭科指導の実際】家庭科の施設と設備および中学校における調理実習ＶＴＲ視聴 第15回　まとめと後期定期試験		
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋レポート(学習指導案等10%)		

授業科目	**道徳教育の研究**	担当者	田口　康明
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方，目標，内容，指導計画，授業での指導 【概　要】2006 年改正された教育基本法の中でも，「自律」や「規範意識」など，「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が，数多くの場面で強調されている。こうした現状について，一方的に指弾するのではなく，状況を相対化しながら今日的な「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には，学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方，目標，内容，指導計画，授業の実際について検討する。さらに今日的な意味での「道徳教育」に含まれる，消費者教育，法教育，シティズンシップ教育，環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を学校教育全体を通して行うことの意義を検討する。 【到達目標】道徳の授業が実際に行えるようその指導法の習得と，道徳教育に関する基礎的な知識理解を得ること		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)『中学校学習指導要領解説 道徳編』 文部科学省 (2)随時，指示する		
授業スケジュール	第１回　ガイダンス 　授業のねらいと目標，道徳教育の歴史（道徳教育の経緯や特徴）について理解する 第２回　「道徳教育」とは何か， 　道徳教育と道徳の時間の特質，道徳教育の構造や役割について学ぶ 第３回　道徳の目標及び内容 　ー道徳性や内容項目，現代社会と「道徳」の関係について理解する 第４回　「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 　道徳の指導計画，年間計画等の必要性や内容について学ぶ 第５回　「道徳」の指導計画と実際の指導 　授業計画，指導案作成など実際の指導法について学ぶ 第６回　評価 　道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ 第７回　新たな「道徳教育」の課題 　まとめと法教育，シティズンシップ教育，環境教育，消費者教育など 第８回　まとめと試験		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（２回程度）30%，試験 70%		

(注) 中学校教諭２種免許　7.5 回

授業科目	**道徳教育論**	担当者	田口　康明
	〔履修年次〕２年（栄養教諭課程履修者）　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方，目標，内容，指導計画，授業での指導 【概　要】2006 年改正された教育基本法の中でも，「自律」や「規範意識」など，「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が，数多くの場面で強調されている。こうした現状について，一方的に指弾するのではなく，状況を相対化しながら今日的な「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には，学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方，目標，内容，指導計画，授業の実際について検討する。さらに今日的な意味での「道徳教育」に含まれる，消費者教育，法教育，シティズンシップ教育，環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を学校教育全体を通して行うことの意義を検討する。 【到達目標】道徳の授業が実際に行えるようその指導法の習得と，道徳教育に関する基礎的な知識理解を得ること		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)『中学校学習指導要領解説　道徳編』文部科学省 (2)随時，指示する		
授業スケジュール	第１回　ガイダンス 　授業のねらいと目標，道徳教育の歴史（道徳教育の経緯や特徴）について理解する 第２回　「道徳教育」とは何か， 　道徳教育と道徳の時間の特質，道徳教育の構造や役割について学ぶ 第３回　道徳の目標及び内容 　ー道徳性や内容項目，現代社会と「道徳」の関係について理解する 第４回　「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 　道徳の指導計画，年間計画等の必要性や内容について学ぶ 第５回　「道徳」の指導計画と実際の指導 　授業計画，指導案作成など実際の指導法について学ぶ 第６回　評価 　道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ 第７回　新たな「道徳教育」の課題 　まとめと法教育，シティズンシップ教育，環境教育，消費者教育など 第８回　まとめと試験		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（２回程度）30%，試験 70%		

(注) 栄養教諭２種免許　7.5 回

授業科目	**特別活動の研究**	担当者	田口　康明
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	入学式，全校朝礼，運動会などさまざまな「学校行事」，学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」，生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」，これらによって構成されるのが，「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が，諸外国の学校に比して，量的にも質的にも「充実」していることが，歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり，今日でもその占める位置は大きい。本講義では，学習指導要領等に記載された目標・内容，その歴史，国際比較，近年の動向などを取り上げて，特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて，受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが，随時グループ討議などを加えていきたい。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文科省 『中学校学習指導要領解説　特別活動編』		
授業スケジュール	第１回　ガイダンス－授業のねらいと目標 第２回　「特別活動」とは何か， 第３回　「学級活動」の目標と内容 第４回　「生徒会活動」の目標と内容 第５回　「学校行事」の目標と内容１　儀式的行事など 第６回　「学校行事」の目標と内容２　勤労生産・奉仕的行事など 第７回　「特別活動」の現代的な意義・まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（２回程度）および，最後のレポート等を総合して評価する。		

(注) 中学校教諭２種免許　7.5 回

授業科目	**特別活動論**	担当者	田口　康明
	〔履修年次〕２年（栄養教諭課程履修者）　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	入学式，全校朝礼，運動会などさまざまな「学校行事」，学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」，生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」，これらによって構成されるのが，「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が，諸外国の学校に比して，量的にも質的にも「充実」していることが，歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり，今日でもその占める位置は大きい。本講義では，学習指導要領等に記載された目標・内容，その歴史，国際比較，近年の動向などを取り上げて，特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて，受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが，随時グループ討議などを加えていきたい。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文科省 『中学校学習指導要領解説　特別活動編』		
授業スケジュール	第１回　ガイダンス－授業のねらいと目標 第２回　「特別活動」とは何か， 第３回　「学級活動」の目標と内容 第４回　「生徒会活動」の目標と内容 第５回　「学校行事」の目標と内容１　儀式的行事など 第６回　「学校行事」の目標と内容２　勤労生産・奉仕的行事など 第７回　「特別活動」の現代的な意義・まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（２回程度）および，最後のレポート等を総合して評価する。		

(注) 栄養教諭２種免許　7.5 回

授業科目	**教育方法学概論**	担当者	吉田　尚史
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期集中 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】教育方法と教師の指導技術を中心に教育方法論の基本的事項と授業づくりの基礎的技法を学ぶ。 【概　要】授業について代表的な思想や優れた教師の実践を学ぶことを通して，授業に対する考えや教育の方法・技術に対する理解を深める。 【到達目標】授業や教育の方法・技術について，「教える」という立場から，分析したり，考えたりすることができる。 先輩教師の授業実践から，授業の世界の複雑さや奥深さを捉えることができる。自分なりに「よい授業」に対する考え（授業や教育に対する哲学）を深め，それを指導案や教材・教具・発問等の指導技術に具体化することができる。		
（１）テキスト （２）参考文献	⑴特に定めない。資料を配付する。 ⑵日本教育方法学会編『リテラシーと授業改善―ＰＩＳＡを契機とした現代リテラシー教育の探究』図書文化社		
授業スケジュール	第１回　授業とは何か 近代以前，近代以降の授業の様子を歴史的に考察する 第２回　授業を創る⑴ 具体的な教材と教育内容，教育目標の関係を理解する 第３回　授業を創る⑵ 授業のプロセスを構想し，教授行為と学習形態・学習方法について検討する 第４回　授業を創る⑶ 教育の環境づくりとメディア・教育機器の活用，授業の評価の方法について理解する 第５回　授業の技術 ベテラン教員の実践事例に学ぶ 第６回　教科書のない授業 総合的な学習の時間の指導法について理解する 第７回　まとめ 授業の世界の複雑さと教師という仕事の特異性について理解する 試験（試験期間内）		
成績評価の方法	筆記試験 70%，授業内の小テスト・課題 30%		

（注）7.5 回　0.5 回分は試験期間内の試験に充てる

授業科目	**教育相談**	担当者	石川　満佐育
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており，いじめ，不登校，暴力行為をはじめとした問題行動，児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では，教師という立場から援助者として生徒に関わるうえで必要となる知識やスキル等を，「カウンセリング心理学」，「発達臨床心理学」，「学校心理学」の観点から学ぶ。 【到達目標】 ①教育相談について学校現場で必要な知識を習得する。 ②相手と状況に応じて，どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。		
（１）テキスト （２）参考文献	⑴ 毎時プリントによる資料を配布します。 ⑵ 参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第１回　オリエンテーション・教育相談とは？ 第２回　教育相談の必要性と重要性 第３回　教育相談の基本的な考え方 第４回　校内支援体制①：役割について 第５回　校内支援体制②：連携について 第６回　生徒理解の方法①：アセスメントについて 第７回　生徒理解の方法②：アセスメントの実際 第８回　教師に求められるカウンセリング理論 第９回　教師が行うカウンセリング技法Ⅰ 第 10 回　教師が行うカウンセリング技法Ⅱ 第 11 回　心理教育プログラム 第 12 回　教育相談の実際①：不登校のケース 第 13 回　教育相談の実際②：いじめのケース 第 14 回　教育相談の実際③：発達障害のケース 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出：40%，試験あるいはレポートで評価：60%		

（注）中学教諭２種免許

授業科目	**生徒指導論**	担当者	石川　満佐育
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており，いじめ，不登校，暴力行為をはじめとした問題行動，児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では，不適応を起こしている生徒，支援が必要な生徒の実態を理解し，そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。 【到達目標】 ①生徒指導上の「問題」の背景を多面的，多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて，どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴ 毎時プリントによる資料を配布します。 ⑵ 参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第１回　オリエンテーション・生徒指導とは？ 第２回　学校心理学的アプローチ 第３回　教師と児童生徒の関係 第４回　児童生徒の仲間関係 第５回　児童生徒における諸問題①：不登校 第６回　児童生徒における諸問題②：いじめ・暴力 第７回　児童生徒における諸問題③：学校ストレス 第８回　特別支援教育 第９回　支援を必要とする子どもたち①：発達障害 第10回　支援を必要とする子どもたち②：発達障害 第11回　支援を必要とする子どもたち①：精神疾患 第12回　支援を必要とする子どもたち②：精神疾患 第13回　進路指導について① 第14回　進路指導について② 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出：40%，筆記試験：60%		

（注）中学校教諭２種免許

授業科目	**生徒指導原論**	担当者	石川　満佐育
	〔履修年次〕１年　〔学期〕後期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており，いじめ，不登校，暴力行為をはじめとした問題行動，児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では，不適応を起こしている生徒，支援が必要な生徒の実態を理解し，そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。 【到達目標】 ①生徒指導上の「問題」の背景を多面的，多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて，どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。		
（1）テキスト （2）参考文献	⑴ 毎時プリントによる資料を配布します。 ⑵ 参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第１回　オリエンテーション・生徒指導とは？（学校心理学的アプローチ） 第２回　教師と生徒との関係・教師と児童生徒の関係 第３回　児童生徒における諸問題①：不登校・いじめ・暴力 第４回　特別支援教育 第５回　支援を必要とする子どもたち①：発達障害 第６回　支援を必要とする子どもたち②：精神疾患 第７回　進路指導について 第８回　まとめと試験		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出：40%，筆記試験：60%		

（注）栄養教諭２種免許　7.5回

授業科目	教職実践演習（中学校教諭）	担当者	田口　康明・石川　満佐育・ 岩本　晃代・久木田　美枝子 未定
	〔履修年次〕２年　　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　　〔必修／選択〕必修　　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や，介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を，教師になるために必要な資質能力として，有機的に統合し定着させる。 【到達目標】 ①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち，常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。 ②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり，他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。 ③子どもの発達や心身の状況に応じて，抱える課題を理解し，規律ある学級経営を適切に行うことができる。 ④学習指導の基本事項を身に付けており，子どもの状況に応じて，授業計画や学習形態等を工夫することができる。 授業の概要 短大の２年間で学んだ教職に関する知識と，教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際，使命感や責任感，教育的な愛情など，教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するともに，社会性や対人関係能力，幼児児童生徒理解や学級経営力，教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し，教員として必要な資質能力を保持できるように，知識や技能等を補い，その定着を図る。すべての回について，教職課程専任教員が中心になって行う。ただし，第11回と第14回は教科に関する教員が中心になって行う。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2)学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回：[ガイダンス]プログラムの説明，資料の配布，課題の提示，各授業の到達目標の提示，学習計画の提示・説明，履修カルテの活用の説明を行う。 第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り，グループ討論，履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，場面に応じた教師としての話し方を身につける。 第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。 第5回：[グループ討論（1）]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導，特別支援教育の基本理念について，グループ討論を行う。 第6回：[教育委員会から講師を招いての講演]　教育現場で求められている，子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。 第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論，これまでの学修に関する小レポートの作成，履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回：[グループ討論（2）]居場所づくりを意識した生徒理解，多様化に応じた学級づくりについて，グループ討論を行う。 第9回：[学校見学]（11 月中旬を予定。ただし，この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。）教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。 第10回：[グループ討論（3）]学校見学についての省察 第11回：[模擬授業（1）]　教科に関する科目担当教員による指導の下，教科に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第12回：[模擬授業（2）]　教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第13回：[模擬授業（3）]　道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第14回：[グループ討論（4）]　教科に関する科目担当教員による指導の下，教科等の指導の重点について討論活動を行い，授業計画や学習形態の工夫を定着させる。 第15回：[レポートの作成と発表]　テーマ「これからの教師に求められること」を発表する		
成績評価の方法	学生に対する評価：授業に関するミニ・レポート，ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教職実践演習（栄養教諭）	担当者	町田　和恵・木場　幸子・田口　康明・石川　満佐育
	〔履修年次〕２年　〔学期〕後期 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や，栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を，栄養教諭となるために必要な資質能力として，有機的に統合し定着させる。 【到達目標】 ①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち，常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。 ②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり，他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。 ③子どもの発達や心身の状況に応じて，抱える課題を理解し，学級の状態に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。 ④食育の指導の基本事項を身に付けて，児童生徒の状況に応じて，学習活動，体験活動等を工夫することができる。 【概要】　短大の２年間で学んだ栄養管理並びに教職に関する知識と，教育実習などで獲得した給食管理と食育指導などの実践体験を統合する。その際，使命感や責任感，教育的な愛情など，栄養教諭として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するともに，社会性や対人関係能力，幼児児童生徒理解や学級経営力，教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し，教員として必要な資質能力を保持できるように，知識や技能等を補い，その定着を図る。すべての回について，教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし，第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』，文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房） (2)適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第１回：[ガイダンス]プログラムの説明，資料の配布，課題の提示，各授業の到達目標の提示，学習計画の提示・説明。 第２回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り，グループ討論，履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第３回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，場面に応じた教師としての話し方を身につける。 第４回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。 第５回：[グループ討論（１）]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導，特別支援教育の基本理念について，グループ討論を行う。 第６回：[教育委員会から講師を招いての講演]　教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎，生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。 第７回：[振り返り]講演についてのグループ討論，これまでの学修に関する小レポートの作成，履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第８回：[グループ討論（２）]居場所づくりを意識した生徒理解，多様化に応じた学級づくりについて，グループ討論を行う。 第９回：[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。時間は8:20～12:50までを予定している。 第10回：[グループ討論（３）]学校見学についての省察を行う。 第11回：[模擬授業（１）]教室の場面を想定した食育の指導に関する実践的な指導力を身につける。 第12回：[模擬授業（２）] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。 第13回：[模擬授業（３）]　道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。 第14回：[グループ討論（４）]　給食の時間における食に関する指導の重点について，模擬授業や討論活動を行い，学習形態の工夫を定着させる。 第15回：[レポートの作成と発表]　テーマ「これからの栄養教諭に求められること」を発表。		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート，ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	**教育実習（事前・事後指導を含む）**	担当者	田口　康明
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期集中 〔単位〕５単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕実習・講義方式		
テーマ及び概要	教育実習は，教員免許状を取得するための必修科目であり，単なる体験ではなく，大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用，実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は，「目の前」に生徒のいない学習であったが，実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や，先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい，という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ，教育への愛着，生徒たちとの相互理解があってこそ，はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では，教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し，実習に臨み，実習後は，実習体験から得られた多くの事柄を定着させ，社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)　視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2)学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし，適宜講義を加える。 第１回　教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性 第２回　教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。 第３回　模擬授業（１），卒業生教員の体験談を聞く 第４回　模擬授業（２），同和教育について 第５回　模擬授業（３），教科指導及び生徒指導の方法 第６回　教育実習に関わる実務について 第７回　教育実習の反省と総括，　採用試験に向けて 教育実習：中学校という教育現場の協力を得て３週間の実習活動を行う。		
成績評価の方法	実習先の評価，実習日誌，事前事後の提出物等ポートフォリオ的な評価に心掛ける。さらには参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上，遅刻，欠席は原則として一切認めない。		

(注) 中学校教諭２種免許

授業科目	**栄養教育実習**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期集中 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　教育現場において求められている栄養教育実践力 【概　要】　栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく，学校給食を生きた教材として有効に活用することなどによって，子どもに正しい食習慣を身につけさせる指導と，給食の栄養や衛生の管理を柱とした職務内容を学習することを目的とし，実践の教育現場での授業技術や生徒理解の方法について直接的，体験的に学習する。　主に県内の小，中学校，給食センターで，１週間の実習を行う。 【到達目標】学校教育全般の組織・運営を理解し，栄養教諭職務の全体像を把握する。また，栄養教諭としての基礎的能力の修得をめざし，作成した学習指導案に基づいて授業を行い，食に関する実践的な指導力を身につけるとともに，児童・生徒の理解，定着度を評価する力を培う。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）プリント冊子『栄養教育実習ノート』 （2）文部科学省「食生活学習教材」		
授業スケジュール	各施設により異なる １，指導教諭等からの説明 ・学校経営 ・校務分掌の理解 ・服務　等 ２，児童及び生徒への個別的相談，指導の実習 ・指導，相談の場の参観，補助　等 ３，児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習 ・学級活動及び給食の時間における指導の参観，補助 ・教科等における教科担任等と連携した指導の参観，補助 ・給食放送指導，配膳指導，後片付け指導の参観，補助 ・児童生徒会，委員会活動，クラブ活動における指導の参観，補助 ・指導計画案，指導案の立案作成，教材研究　等 ４，食に関する指導の連携・調整の実習 ・校内における連携・調整（学級担任，研究授業の企画立案，校内研修等）の参観，補助 ・家庭・地域との連携・調整の参観，補助　等 ５，学校給食の管理を一体的に担う方法		
成績評価の方法	実習先評価（60%），実習ノート・参加態度等（40%）によって総合的に評価する。		

(注)栄養教諭２種免許

授業科目	**栄養教育実習の事前事後の指導**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕１単位　〔必修／選択〕必修（注）　〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。 【概　要】　栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく，指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために，栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として，実習の事前事後の指導を行う。事前指導の内容は，栄養教育実習の意義，目的や実習校での参観・参加・授業実習，学習指導案の説明と作成などである。また，事後指導では各実習生の報告をもとに必要な指導を行う。 【到達目標】　本授業では，教育実習に参加する基本的な心構えや技能，及び実習後の反省と総括，今後に向けての展望を持つことをねらいとする。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）プリント冊子『栄養教育実習ノート』 （2）山本公弘『気がるにできる総合学習・体験学習－新しい栄養指導３』東山書房 文部科学省「食生活学習教材」		
授業スケジュール	事前指導 第１回　栄養教育実習のオリエンテーション　意義や目的，心構えなど 第２回　実習の評価の方法，実習後の提出物（実習ノート，学習指導案など），実習中の短大との連絡方法などの指導 第３回　指導計画案，指導案の立案作成，教材研究 第４回　模擬授業の実施（1）　班に分かれて授業をする 第５回　模擬授業の実施（2）　班に分かれて授業をする 事後指導 第６回　栄養教育実習の報告・発表（1） 教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第７回　栄養教育実習の報告・発表（2） 教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第８回　相互評価，実習の反省，問題点の整理 今後の課題の明確化		
成績評価の方法	発表・提出物（80%），取り組み態度（20%）を総合的に評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる		

（注）栄養教諭２種免許　※7.5 回